C-CLASS SPORTS COUPÉ
取扱説明書

お客様へ

このたびはメルセデス・ベンツをお買い上げいただき、ありがとうございます。

この取扱説明書は、車の取り扱い方法をはじめ、機能を十分に発揮させるための情報や、危険な状況を回避するための情報、万一のときの処置などを記載しています。

車をご使用になる前に、本書を必ずお読みください。

- 取扱説明書は、いつでも読めるように必ず車内に保管してください。
- この取扱説明書には、日本仕様とは異なる記述やイラスト、操作方法などが含まれている場合があります。
- 装備や仕様の違いなどにより、一部の記述やイラストが、お買い上げいただいた車とは異なることがあります。
- スイッチなどの形状や装備、操作方法などは予告なく変更されることがあります。
- オーディオやナビゲーションに関しては、別冊の「Audio 20 取扱説明書」または「マルチファンクションコントローラー 取扱説明書」をお読みください。
- 車を次のオーナーにお譲りになる場合は、車と一緒にすべての取扱説明書と整備手帳をお渡しください。
- オプションや仕様により異なる装備には＊マークがついています。
- 関連する内容が他のページにもある場合は、該当ページを（3-50）のようなかたちで示しています。
- 操作手順などは、文頭に▶を記しています。
- ご不明な点は、お買い上げの販売店または指定サービス工場におたずねください。

ダイムラー・クライスラー日本株式会社

表記と記載内容について

警　告

重大事故や命にかかわるけがを未然に防ぐために必ず守っていただきたいことです。

注　意　！

けがや事故、車の損傷を未然に防ぐために必ず守っていただきたいことです。

知　識

知っていると便利なことや、知っておいていただきたいことです。

環　境

環境保護のためのアドバイスや守っていただきたいことを記載しています。

環境保護について

ダイムラー・クライスラー社では、大気汚染の抑制、資源の有効利用をはじめとする環境保護対策に取り組んでいます。環境保護のため、お車をご使用になるときは以下の点にご協力ください。

- タイヤの空気圧が適正であることを確認してください。
- 停車したままの暖機運転は必要ありません。
- 急発進や急加速は避けてください。
- エンジン回転数がその車の許容限度の2/3（許容限度が6,000回転のときは約4,000回転）を超えないように運転してください。
- 不必要な荷物を載せたままにしないでください。
- スキーラックやルーフラックが必要でないときは、車から取り外してください。
- 長時間の停車時は、エンジンを停止してください。
- 指定サービス工場で適切な時期に点検整備を受けてください。

環　境

ダイムラー・クライスラー社は、資源を有効活用するため、リサイクル部品を積極的に導入しています。

警　告

車両には警告ラベルが貼付されています。これらの警告ラベルには危険な状況を回避するための情報をはじめ、車を安全に使用するための情報が記されています。

警告ラベルは絶対にはがさないでください。

1.安全のために

2.安全装備

3.運転する前に

4.マルチファンクションディスプレイ

5.運転するとき

6.快適・室内装備

7.万一のとき

8.点検と整備

9.サービスデータ

10.こんなときは

11.さくいん

走行する前に

点検と整備

日常点検や定期点検は、使用者自身の責任において実施することが法律で義務付けられています。これらの点検項目については、別冊の「整備手帳」をお読みください。

夏季の取り扱い

- 夏を迎える前にエアコンディショナーの冷媒に不足がないか、指定サービス工場で点検を受けてください。
- オーバーヒートの予防策として、いつもより頻繁に冷却水量を点検してください。

日ごろの状態と異なるとき

エンジンをかけたとき、いつもと異なる音やにおいを感じたり、駐車していた場所に水やオイルの跡が残っているときは、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

ドアを開くと

ドアを開くと、一部の装置が自動的に動き始め、作動音などが聞こえることがありますが、異常ではありません。

タイヤの点検

タイヤの空気圧や溝の深さが十分あり、タイヤに損傷や異常な摩耗がないことを点検してください。タイヤの空気圧が低かったり、損傷したタイヤで走行すると、タイヤが破裂したり、火災が発生するなど、事故を起こすおそれがあります。

シートベルトは必ず着用

走行を開始する前に、すべての乗員がシートベルトを着用してください。

運転席足元に注意

- 運転席の足元には、物を置かないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルの下に物が入ると、ペダルを操作できなくなるおそれがあります。
- フロアマットは純正品のみを正しく使用してください。車に合ったものを使用しないと、ペダル操作ができなくなるおそれがあります。

車庫内では

車庫などの換気の悪い場所ではエンジンを停止してください。排気ガスに含まれる一酸化炭素を吸い込むと、一酸化炭素中毒を起こしたり、死亡するおそれがあります。

一酸化炭素は、無色無臭のため気が付かないうちに吸い込んでいるおそれがあります。

ウォーミングアップ（暖機運転）

エンジンが冷えているときでも、停車したままでの暖機運転は必要ありません。エンジンの始動後は、急加速を避けて車をウォーミングアップしてください。

燃料の給油

- 燃料は無鉛プレミアムガソリンを使用してください。有鉛ガソリンや粗悪なガソリン、指定以外の燃料(高濃度アルコール含有燃料など)を使用したり、添加剤などを混入すると、エンジンなどを損傷するおそれがあります。
- 目的地まで余裕を持って走れるように、十分な量を補給してください。
- 燃料給油口には、純正品以外のキャップを使用しないでください。
- セルフ式のガソリンスタンドなどで給油するときは必ず以下の点を守り、安全に十分注意して作業を行なってください。身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火したり、火傷をするおそれがあります。
  - ◇ エンジンを停止して、ドアやドアウインドウなどを閉じる
  - ◇ 燃料給油口を開くことからはじまる一連の給油作業は、必ずひとりで行なう
  - ◇ 給油作業をする人は、作業の前に金属部分に触れるなどして身体の静電気を除去する

◇ 作業中は車内に戻らない（帯電するおそれがあります）

◇ キャップの取り外し / 取り付け **(3-39)** は確実に行ない、火気を近付けないようにする

◇ ガソリンを付着させないように注意する（塗装面を損傷するおそれがあります）

◇ 気化した燃料を吸い込まないように注意する

◇ 給油作業をする人以外は燃料給油口に近付かない

◇ ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守る

荷物を積むとき

- 荷物はできるだけラゲッジルームに積んでください。
- 車内に荷物を積むときは、動かないように確実に固定してください。固定できていないと、急ブレーキ時などに荷物が放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。
- ラゲッジルームカバーの上に荷物を置かないでください。急ブレーキ時などに荷物が放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。
- 鋭い角のあるものは、角の部分に必ずカバーをしてください。
- 荷物をシートのバックレストより高く積み上げないでください。

燃えるものは積まない

燃料を入れた容器や可燃性のスプレー缶などを積まないでください。万一のときに引火や爆発のおそれがあります。

子供を乗せるとき

子供にも必ずシートベルトを着用

- 子供であっても、シートベルトを正しく着用し、シートやヘッドレストが正しい位置になっていることを大人が確認してください。正しくシートベルトが着用できない小さな子供は、チャイルドセーフティシートを使用してください。
- 乳児や子供を抱いたり、膝の上に乗せて走行しないでください。急ブレーキ時や事故のとき、大人と車の間に挟まれて重大なけがをするおそれがあります。

小さな子供にはチャイルドセーフティシート

6歳未満の子供にはチャイルドセーフティシート（2-16）を使用することが法律で義務付けられています。

子供は後席に

- 子供はできるだけ後席に乗せてください。助手席では、子供の動きが気になったり、子供が運転装置をさわるなど、運転の妨げになることがあります。
- チャイルドセーフティシートは、必ず後席の左右いずれかに装着してください。やむを得ず助手席に装着するときは、車の進行方向に向けてチャイルドセーフティシートを装着して、助手席シートを最後部に移動してください。
- 子供を助手席に座らせるときは、シートを最後部にし、正しく座らせてください。エアバッグの作動時に大きな衝撃を受けるおそれがあります。

子供を乗せるとき

子供には操作させない

ドアやドアウインドウは大人が開閉してください。子供が操作すると、身体を挟んだり、けがをするおそれがあります。

ドアウインドウやパノラミックスライディングルーフ＊の開口部から身体を出さない

子供がドアウインドウやパノラミックスライディングルーフの開口部から身体を出さないように注意してください。けがをするおそれがあります。

車から離れるとき

子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になるおそれがあります。

また、炎天下では車内が高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

慣らし運転

新車の場合、エンジンなどの機械部分が馴染むまで「慣らし運転」することをお勧めします。

新車時に十分な慣らし運転を行なうことにより、将来にわたって安定した性能を維持することができます。

知　識

新車時の高速走行後など、エンジンルームからわずかに白煙が出たり、独特の臭いがすることがあります。これは防錆保護ワックスが加熱されて発生するもので、故障や異常ではありません。走行距離が増すと臭いはなくなります。

最初の1,500kmまでは以下の注意事項を守ってください。

- エンジン回転数が許容限度の2/3（許容限度が6,000回転のときは約4,000回転）を超えないように運転してください。
- エンジンに大きな負担のかかる運転は避けてください。
- いつも一定のエンジン回転数で走行するのではなく、負担のかからない範囲で回転数と速度を変えてください。
- キックダウンや過度のエンジンブレーキは避けてください。
- ギアレンジ位置およびギア位置 3 、 2 、 1 は山道などを低速で走行するときだけ使用してください。
- できるだけ、走行モードをCモードにして走行してください。

走行距離が1,500kmを超えたら、エンジン回転数を徐々に高回転まで上げてください。

知　識

- エンジンや駆動系部品の分解や交換をした後も、慣らし運転を行なってください。
- **キックダウン**：走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的に低いギアに切り替わり、エンジンの回転数が上がって素早く加速します。これをキックダウンといいます。
- **エンジンブレーキ**：走行中、アクセルペダルを戻したときに発生するエンジンの内部抵抗を利用した減速をエンジンブレーキといいます。低いギアのときほど効きが強くなります。

走行するとき

アクセルペダルはおだやかに操作

- 発進や加速するときは、タイヤを空転させないようにおだやかにアクセルペダルを操作してください。タイヤを空転させると、タイヤだけでなくトランスミッションや駆動系部品を損傷するおそれがあります。
- 車間距離を十分に確保し、不要な急発進や急加速、急ブレーキを避けてください。

横風が強いとき

横風が強く、車が横方向に流されそうなときは、ステアリングをしっかりと握り、いつもより速度を下げて進路を保ってください。

トンネルの通過

トンネルに進入するときは、ヘッドランプを点灯してください。内部照明が暗いトンネルでは、進入直後に視界が悪くなることがありますので、十分注意してください。

エンジンブレーキの活用

下り坂が続くときは、エンジンブレーキを活用してください。ブレーキペダルを長時間踏み続けると、ブレーキディスクが過熱してブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。

知　識

エンジンブレーキ：走行中、アクセルペダルを戻したときに発生するエンジンの内部抵抗を利用した減速をエンジンブレーキといいます。低いギアのときほど効きが強くなります。

自動車電話、携帯電話

運転者は、走行中に自動車電話や携帯電話を使用しないでください。道路交通法違反になります。なお、ハンズフリー機能は使用できますが、注意力が散漫になり事故の原因になるおそれがあります。安全な場所に停車してから使用してください。

滑りやすい路面

滑りやすい路面では、シフトダウン操作による急激なエンジンブレーキを効かせないでください。

水たまりの通過後

水たまりの通過後や洗車直後は、ブレーキの効きが遅れたり、悪くなることがあります。このようなときは、後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

スタック（立ち往生）したとき

- ぬかるみなどでタイヤが空転したり脱輪した状態から脱出するときは、タイヤを高速で空転させないでください。脱出直後に車が急発進し、事故を起こすおそれがあります。

  また、タイヤを高速で空転させると異常な過熱が起こり、タイヤの破裂や火災などの事故が起きたり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。
- スタックした状態から脱出するときは、タイヤ前後の土や雪などを取り除いたり、タイヤの下に板や石などをあてがうと効果的です。

道路冠水や車が水没したとき

- 冠水した道路を走行するときに許容されている最大水深は約25cmです。
- 波が立たないような速度で走行してください。
- 豪雨などで道路が冠水し、マフラーに水が入ったときは決してエンジンを始動しないでください。そのままエンジンを始動すると、エンジンに重大な損傷を与えるおそれがあります。
- 車が水没した場合は、水が引いた後でもエンジンを始動せずに、指定サービス工場に連絡してください。

走行中に異常を感じたら

警告灯が点灯したとき

ただちに安全な場所に停車してエンジンを停止し、本書に従い対処してください。それでも警告灯が消灯しないときは、指定サービス工場に連絡してください。警告灯が点灯したまま走行を続けると、事故を起こしたり、車に重大な損傷を与えるおそれがあります。

ボディ下部に強い衝撃を受けたとき

ただちに安全な場所に停車してボディの下部を点検し、ブレーキ液や燃料などが漏れていないか確認してください。漏れやボディ下部に損傷を見つけたときは、運転を中止して指定サービス工場に連絡してください。損傷を放置したまま走行を続けると、事故を起こすおそれがあります。

走行中にタイヤがパンクしたり、破裂したとき

あわてずにしっかりステアリングを支えながら、徐々に減速して安全な場所に停車してください。急ブレーキや急ハンドル操作をすると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

駐停車するとき

駐車するときの注意事項

- マフラーは非常に高温になります。周囲に枯れ草や紙くず、油など燃えやすいものがある場所には駐停車しないでください。
- 同乗者がドアを開くときは、周囲に危険がないことを運転者が確認してください。
- 見通しの悪い場所や暗い場所では駐車しないでください。
- 炎天下での駐車時には、車内各部の温度が非常に高くなります。ステアリングやセレクターレバー、シートなどに触れると火傷をするおそれがあります。
- 炎天下に駐車するときは、ウインドウにカバーをしたり、ステアリングやセレクターレバー、シートなどにカバーやタオルをかけて、温度の上昇を抑えてください。
- 炎天下に駐車した後は、乗車する前に換気をするなどして、車内各部の温度を下げてください。

雪が降っているときは

車の周囲が雪で覆われているときは、雪を取り除いてからエンジンを始動してください。積雪によりマフラーがふさがれ、排気ガスが車内に侵入するおそれがあります。

急な坂道では

急な坂道で駐車するときは、セレクターレバーを P に入れ、パーキングブレーキを確実に効かせてください。さらに輪止めをしてください。

仮眠するとき

やむを得ず車内で仮眠するときは、安全な場所に駐車して必ずエンジンを停止してください。無意識のうちにセレクターレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込むと、車が動き出し、事故を起こすおそれがあります。

またアクセルペダルを踏み続けると、エンジンやマフラーが異常過熱して火災の原因になるおそれがあります。

後退するとき

後方視界が十分に確保できないときは、車から降りて後方の安全を確認してください。

雨降りや濃霧時の運転

雨降りや濃霧時の注意事項

雨が降っていたり、濃霧が発生しているときは、路面が濡れて滑りやすく視界も悪くなります。以下の点に注意して、いつもより慎重に運転してください。

- 路面が滑りやすいので、タイヤの接地力が大きく低下し、通常より制動距離も長くなります。

  また、見通しが悪いので歩行者や障害物の発見が遅れがちになります。いつもより速度を下げ、車間距離を十分にとってください。

- 濡れた路面では急激なエンジンブレーキを効かせないでください。滑りやすい路面で急激なエンジンブレーキを効かせると、スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- 路面が濡れているときは、クルーズコントロールを使用しないでください。
- 水たまりの通過後や激しい雨の中で長時間ブレーキを使用しないで走行しているときは、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このときは、後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。
- 安全な視界を確保するため、必要に応じてデフロスターやリアデフォッガーを作動させてください。またはエアコンディショナーを作動させて車内を除湿してください。
- 雨降りや濃霧時は、自分の車の存在を周囲に知らせるため、ヘッドランプやフォグランプを点灯してください。ただし、ヘッドランプを上向きにすると、雨や濃霧に反射して視界を損なったり、対向車を眩惑するので、下向きで点灯してください。
- 濃霧のときはフォグランプを点灯し、速度を落として走行してください。危険を感じるときは、霧が晴れるまで安全な場所に停車してください。

オートマチック車の取り扱い

運転する前に、オートマチック車の特性や操作上の注意を理解し、正しく操作してください。「オートマチック車の運転」もあわせてお読みください(5-15)。

オートマチック車の特性

クリープ現象：エンジンがかかっているとき、セレクターレバーがP、N以外に入っていると、動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏み込まなくても車がゆっくり動き出します。これをクリープ現象といいます。

キックダウン：走行中にアクセルペダルをいっぱいまで踏み込むと、自動的に低いギアに切り替わり、エンジンの回転数が上がって素早く加速します。これをキックダウンといいます。

エンジンの始動前

- ブレーキペダルは必ず右足で操作してください。不慣れな左足で操作すると、事故を起こすおそれがあります。
- ブレーキペダルを踏み込んだときにペダルが一定のところで停止することやペダルの踏みしろの量を確認してください。

エンジンの始動

セレクターレバーがPに入っていることを確認して、ブレーキペダルを確実に踏んでエンジンを始動します。アクセルペダルを踏む必要はありません。

発進

- エンジンが適正なアイドリング回転数になっていることを確認してください。
- セレクターレバーをD、Rに入れるときは、必ずブレーキペダルを十分に踏み込んでください。
- アクセルペダルを踏んだまま、セレクターレバーを動かさないでください。車が急発進するおそれがあります。
- 急な上り坂で発進するときは、パーキングブレーキを効かせたままアクセルペダルを静かに踏み込み、車がわずかに動き出すのを確認してからパーキングブレーキを解除して発進してください。

オートマチック車の取り扱い

走行中

- 走行中はセレクターレバーを N に入れないでください。エンジンブレーキがまったく効かないため事故につながったり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。
- 滑りやすい路面で急激なエンジンブレーキを効かせると、スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

停車

- 停車中はエンジンの空ぶかしをしないでください。万一、セレクターレバーが走行位置に入ると、車が急発進して事故を起こすおそれがあります。
- 急な上り坂での停車時、後退しようとする車を、アクセルペダルを踏むことにより停止状態を保たないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。
- 車が完全に停止する前に、セレクターレバーを P に入れないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

駐車

- 駐車時や車から離れるときは、必ずセレクターレバーを P に入れ、パーキングブレーキを確実に効かせて、エンジンを停止してください。
- 後退したあとは、すぐにセレクターレバーを P か N に戻すように心がけてください。R に入っていることを忘れてアクセルペダルを踏み込むと、車が後退して事故を起こすおそれがあります。

こんなことにも注意

運転するときの注意事項

- 服用後の運転が禁止されている薬や、酒類を飲んだ後は絶対に運転しないでください。
- ライターを車内に放置しないでください。炎天下の車内は非常に高温になるため、ライターが発火したり爆発するおそれがあります。
- ペダル操作の妨げになるような靴（厚底靴など）やサンダル履きで運転しないでください。
- ウインドウなどに吸盤を貼り付けないでください。吸盤がレンズの働きをし、火災が発生するおそれがあります。

違法改造はしない

- 違法改造はしないでください。違法改造や純正でない部品の使用は、保証の適用外になるだけでなく、事故の原因になります。

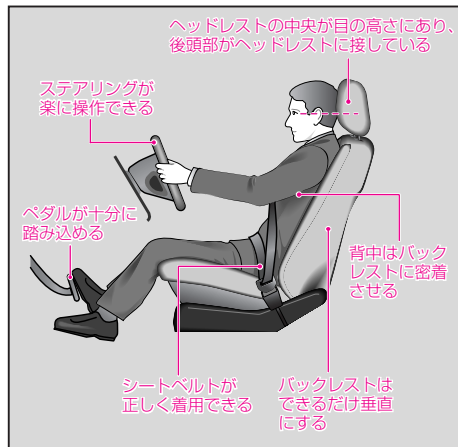
  定期交換部品などは純正品だけを使用し、燃料や油脂類などは指定品を使用してください。
- 燃料やオイルの添加剤などは一切使用しないでください。故障の原因になるおそれがあります。
- 無線機や、オーディオなどの電装品を取り付けたり取り外すときは、指定サービス工場におたずねください。

ナビゲーションシステムは走行中に操作しない

ナビゲーションシステムの操作は、できるだけ走行中を避け、安全な場所に停車してから操作してください。走行中に画面を見るときは、必要最小限（約1秒以内）にとどめてください。

きびしい条件下での運転

発進、停止を繰り返す市街地走行、山間部や路面の悪い道路などきびしい条件下での走行が多いときは、タイヤやエアクリーナー、オイル、フィルター類の点検整備や交換を、定期的な交換時期よりも早く行なうことが必要になります。

正しい運転姿勢

正しい運転姿勢になるように上記の点に注意してシートを調整してください。

警　告

- 運転席の乗員は必ず運転前に自分の運転姿勢に合った正しいシート位置に調整してください。運転中に調整して操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- バックレストと背中の間に物を挟まないでください。事故のとき、けがをするおそれがあります。
- シートのバックレストを大きく後方に傾けた状態で走行しないでください。急ブレーキ時や衝突時などに身体がシートベルトの下を抜けてベルトの力が腹部や首にかかり、致命的なけがをするおそれがあります。

注　意　！

- シートを調整しているときは、シートの下や横に身体を入れたり、作動部に触れないでください。挟まれてけがをするおそれがあります。
- シートの一部が身体や物に当たったときは、それ以上操作しないでください。

※車種や仕様により、シートの形状などは異なります。

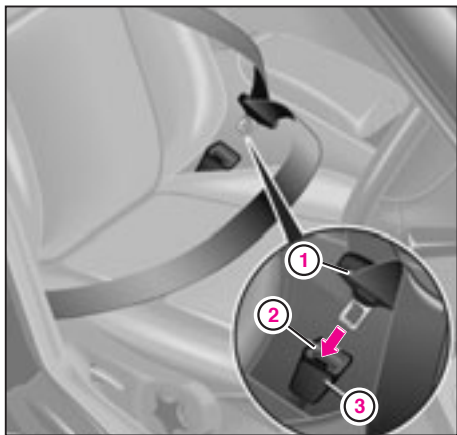
シートベルト

シートベルトは、万一の衝突時などに乗員が受けるけがの被害を軽減させる乗員保護装置です。

急ブレーキや衝撃などを感知するとシートベルトをロックして乗員がシートから放り出されないように拘束します。

シートベルトの効果を十分に発揮させるためには、走行前に正しく着用し、正しく取り扱うことが必要です。

※車種や仕様により、シートの形状などは異なります。

シートベルトの着用

① プレート
② 解除ボタン
③ バックル

シートベルトを着用する

▶ プレート①を持ってシートベルトをゆっくり引き出します。シートベルトがロックして引き出せないときは、シートベルトを少し戻してから、ゆっくり引き出します。

▶ シートベルトにねじれがないことを確認して、プレート①の先端をバックル③に差し込みます。

▶ 腰を通るベルトは腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにして、ベルトにたるみがないように身体に密着させます。

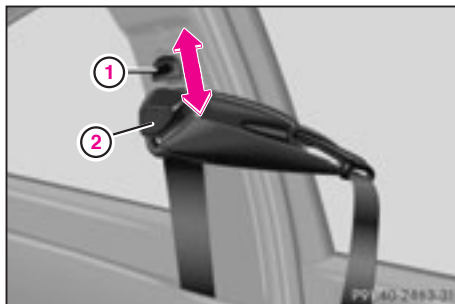
▶ 肩を通るベルトが肩の中央にかかっていることを確認します。

シートベルトを外す

▶ 手でプレート①を持ち、バックル③の解除ボタン②を押して、シートベルトをゆっくり巻き取らせます。

注 意 !

分割可倒式リアシートを操作するときは、リアシートベルトを挟み込まないように注意してください。リアシートベルトが挟み込まれると正しく着用できなくなります。

フロントシートベルトの高さ調整

① ロック解除ボタン
② アンカー

シートベルトが首にかかったり、肩から外れたりしないように高さを調整します。

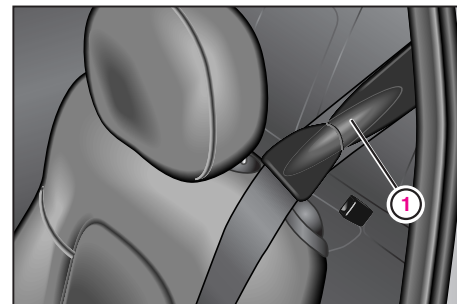
フロントシートベルトの高さは4段階に調整できます。

フロントシートベルトの高さを調整する

▶ 上げるときは、アンカー②を押し上げます。

▶ 下げるときはロック解除ボタン①を押しながら下げます。

▶ 調整後は確実にロックしていることを確認してください。

シートベルトガイド

① シートベルトガイド

シートベルトの着用を容易にするシートベルトガイド①が装備されています。

> **注　意　！**
>
> シートベルトをシートベルトガイドに差し込むときは、シートベルトがねじれていないことを確認してください。

警　告

- すべての乗員がシートベルトを着用してください。シートベルトを正しく着用していなかったり、シートベルトのプレートがバックルに確実に差し込まれていないと、急ブレーキ時や衝突時などに身体を車内に激しくぶつけたり、車外に放り出されて致命的なけがをするおそれがあります。
- シートベルトの機能が十分発揮できるように、以下の点に注意して正しく着用してください。
  ◇ バックレストをできるだけ垂直の位置にしてください。
  ◇ コートなどの厚手の衣類は着用しないでください。
  ◇ シートに深く腰かけてください。
  ◇ 肩を通るベルトを脇の下に通さないでください。上体を固定できず、衝突したときなどに強い衝撃を受けます。
  ◇ 腰を通るベルトは腰骨のできるだけ低い位置にかけてください。腹部にかけると衝突したときなどに腹部が強く圧迫されます。
  ◇ シートベルトがねじれた状態で着用しないでください。衝撃を分散できなくなります。
  ◇ 1本のシートベルトを2人以上で共用したり、シートベルトと身体の間にバッグなどを挟み込まないでください。
  ◇ シートベルトクリップなどを使用してシートベルトにたるみをつけないでください。
  ◇ 子供が着用するときは、着用状態を運転者が確認してください。また、正しく着用できない体格の子供は適切なチャイルドセーフティシートを使用してください。
  ◇ 子供を膝の上に乗せて走行しないでください。急ブレーキ時や衝突時などに身体を車内に激しくぶつけたり、車外に放り出されて致命的なけがをするおそれがあります。
  ◇ 着用前に、シートベルトやバックルに損傷や汚れがないことを確認してください。

注　意　！

- シートベルトを正しく機能させ、損傷を防ぐために以下の点に注意してください。
  - ◇ ドアに挟んだり、鋭利な部分に当てない
  - ◇ たばこの火など、熱いものを近付けない
  - ◇ バックル部分に異物を入れない
  - ◇ 着用時は胸ポケットにペンや眼鏡などを入れない
  - ◇ 分解や改造などをしない
- 衝突後やシートベルトが大きな衝撃を受けたときは、指定サービス工場で新品と交換し、関連部品の点検を受けてください。
- 純正部品以外のシートベルトは使用しないでください。
- 妊娠中の方やけがの治療中の方は、医師に相談の上、シートベルトを着用してください。
- シートベルトの強度が低下し、乗員保護機能が損なわれるので清掃するときは以下の点に注意してください。
  - ◇ 強い酸性やアルカリ性洗剤、有機溶剤などを使用しない
  - ◇ 乾燥時にドライヤーや直射日光を当てない
  - ◇ シートベルトを漂白したり、染色しない

シートベルトテンショナー

シートベルトテンショナーは、車の前後方向から大きな衝撃を受けたときにシートベルトを引き込み、シートベルトの効果を高める装置です。

シートベルトテンショナーは、エンジンスイッチが**2**の位置のときに作動します。

フロントのシートベルトテンショナーは、シートベルトがバックルに確実に差し込まれているときに作動します。

助手席には乗員検知機能を装備しており、助手席に乗員がいないと判断したときは助手席のシートベルトテンショナーは作動しません。

ベルトフォースリミッター

ベルトフォースリミッターはシートベルトに一定以上の荷重がかかったときに作動し、乗員の胸にかかる力を軽減します。

シートベルト

注 意 !

- シートベルトテンショナーが作動すると、シートベルトに強く締め付けられることがあります。
- シートベルトに強く締め付けられている状態でシートベルトを外すときは、シートベルトのプレートを確実につかみながらバックルの解除ボタンを押してください。シートベルトの張力により、解除したプレートが跳ね返り、けがをするおそれがあります。
- 後席のシートベルトテンショナーは、作動するとバックルが引き込まれます。バックル部分には作動の妨げになるような物がないことを確認してください。
- 作動したシートベルトテンショナーは、必ず指定サービス工場で新品と交換してください。
- 助手席に人が乗っていないときは、シートベルトをバックルに差し込まないでください。事故などのときに、シートベルトテンショナーが作動するおそれがあります。

知 識

- シートベルトテンショナーの作動時にわずかながら白煙が発生することがありますが、火災の心配はありません。

  また、ぜんそくなどの呼吸疾患のある方は一時的に呼吸障害を起こすおそれがありますので、安全を確認のうえ車外へ出るか、ドアやドアウインドウを開き、換気を行なってください。
- シートベルトテンショナーの作動時に爆発音が聞こえますが、通常では聴力への影響はありません。
- 助手席に重い荷物などを積んで、シートベルトをバックルに差し込んでいるときは、助手席シートベルトテンショナーが作動することがあります。
- シートベルトテンショナーが作動すると、エアバッグシステム警告灯が点灯します。
- ドアロックスイッチや車速感応ドアロックなどにより車が施錠されていても、シートベルトテンショナーやエアバッグが作動すると、ドアは自動的に解錠されます。
- 未作動のシートベルトテンショナーを廃棄するときは、廃棄専用の処置が必要です。指定サービス工場、または専門業者に依頼してください。

シートベルト警告灯

エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し、数秒後に消灯します。

点灯しないときは警告灯の異常ですので、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

エンジンがかかっているときに運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していないときは、シートベルト警告灯が点灯します。

シートベルト警告音

運転席の乗員がシートベルトを着用せずにエンジンスイッチを**2**の位置にするかエンジンを始動すると、警告音が数秒間鳴り、シートベルトの着用を促します。

走行中のシートベルト警告

運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用しないまま走行を開始し、速度が約25km/h以上になるか、走行中にシートベルトを外したときは、シートベルト警告灯が点滅して、断続的な警告音も鳴ります。

そのままの状態で約60秒間走行するか、または停車したときは警告灯は点灯に変わり、警告音も鳴り止みますが、シートベルトを着用しないまま再び走行を始めて速度が約25km/h以上になると、この警告は繰り返し行なわれます。

知　識

助手席に重い荷物などを積んでいると、エンジンがかかっているときにシートベルト警告が行なわれることがあります。

SRSエアバッグ

エアバッグは、シートベルトの効果を補助する装置です。

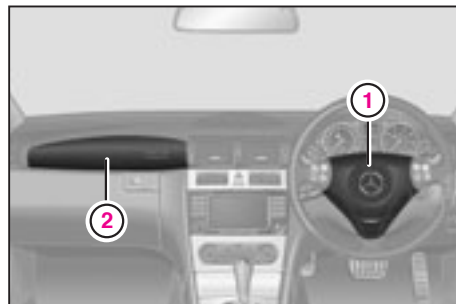
エアバッグの効果を発揮させるためには、シートベルトの正しい着用が条件になります。

衝突時のように車が強い衝撃を受けると、収納されているエアバッグが瞬時にふくらんで乗員の前面や周囲にエアクッションを作り、乗員への衝撃を分散・軽減します。

衝撃を受ける状況によって、作動するエアバッグが異なります。

知　識

SRSはSupplemental Restraint System（乗員保護補助装置）の略です。

運転席 / 助手席エアバッグ

① 運転席エアバッグ
　ステアリングパッド部
② 助手席エアバッグ
　助手席ダッシュボードパネル部

前方からの強い衝撃を受けると作動し、乗員の頭部や胸部への衝撃を分散・軽減します。

また、車が横転したときも運転席 / 助手席エアバッグは作動することがあります。

運転席 / 助手席エアバッグは、シートベルトを着用しているときに作動します。ただし、衝撃の強さなどにより、シートベルトを着用していないときも作動することがあります。

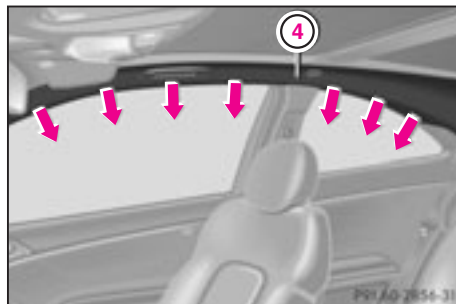
助手席には乗員検知機能を装備しており、助手席に乗員がいないと判断したときは助手席エアバッグは作動しません。

サイドバッグ

③ サイドバッグ
左右のドア内張り部

横方向からの強い衝撃を受けると、衝撃を受けた側のサイドバッグが作動し、上体への衝撃を軽減します。

助手席には乗員検知機能を装備しており、助手席に乗員がいないと判断したときは助手席側のサイドバッグは作動しません。

ウインドウバッグ

④ ウインドウバッグ
フロントピラーからリアピラー間のルーフライニング部

横方向からの強い衝撃を受けると、乗員の有無に関わらず衝撃を受けた側のウインドウバッグが作動し、頭部などへの衝撃を軽減します。

SRS エアバッグシステム警告灯

エンジンスイッチを1の位置にすると数秒間点灯します。また、2の位置にすると点灯し、エンジン始動後に消灯します。

点灯しないときや点灯後に消灯しないとき、走行中に点灯したときはエアバッグシステムやシートベルトテンショナー、助手席乗員検知機能が故障しています。

ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

知　識

エアバッグやシートベルトテンショナーが作動したときは、エアバッグシステム警告灯が点灯します。

警　告

- エンジン始動後もエアバッグシステム警告灯が点灯するときは、事故などの衝撃があってもエアバッグやシートベルトテンショナーが作動しないおそれがあります。また、不意に作動するおそれもあります。すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。
- 運転席シートは正しい位置に調整し、助手席シートはできるだけ後部に動かし、エアバッグとの間隔を確保してください。間隔が狭すぎると、エアバッグが作動する衝撃でけがをするおそれがあります。
- 運転中はステアリングのパッド部を持ったり、身体をステアリングやダッシュボードにのせないでください。
- ウインドウやピラーの周囲にアクセサリーなどを取り付けないでください。
- アシストグリップやコートフックにかたい物や鋭利な物をかけないでください。
- ステアリングのパッド部やエアバッグ収納部に、バッジ、ステッカー、リモコンなどを貼り付けたり、市販のカップホルダーやアクセサリーなどを取り付けないでください。
- エアバッグ収納部やその近くに物を置かないでください。
- 膝の上にペットや荷物を抱えるなど、エアバッグと乗員との間に物を置かないでください。
- ルームミラーに市販のワイドミラーなどを取り付けないでください。
- ドアなどの内張りに寄りかからないでください。
- 衣服のポケットなどに重い物や鋭利な物を入れないでください。

注　意　!

- エアバッグは高温のガスによりふくらむため、すり傷や火傷、打撲などをすることがあります。
- エアバッグの作動後はエアバッグや関連部品に身体を触れないでください。部品が熱くなっており、火傷をするおそれがあります。
- エアバッグが作動した後は、必ず指定サービス工場で新品と交換してください。
- エアバッグを取り外したり、関連部品や配線などを改造しないでください。誤作動でけがをしたり、正しく作動しなくなります。

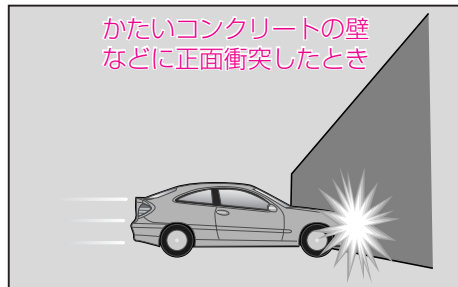
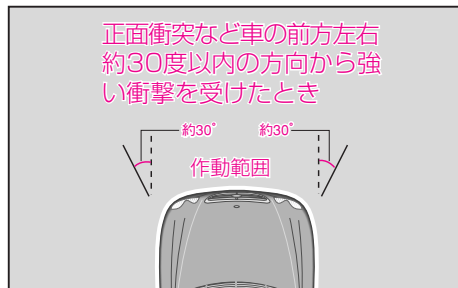
知　識

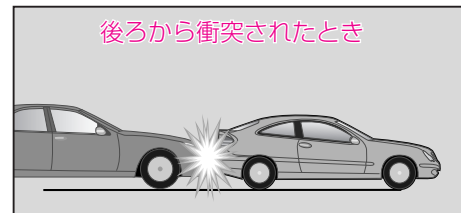
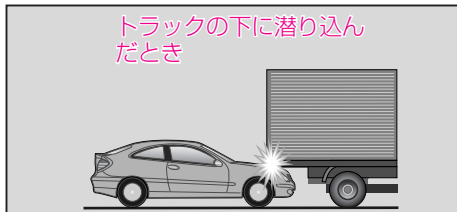
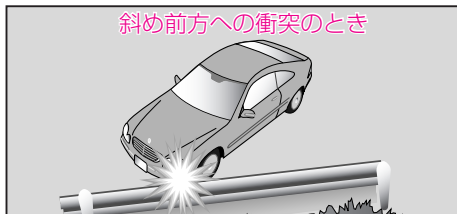
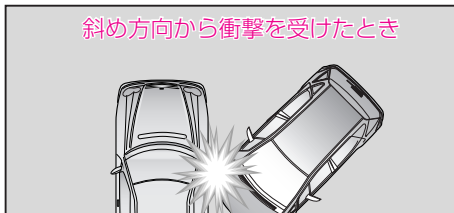
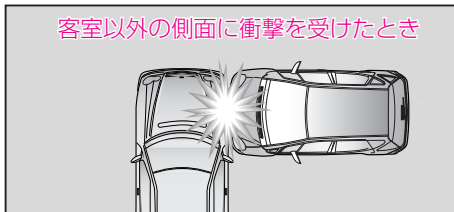
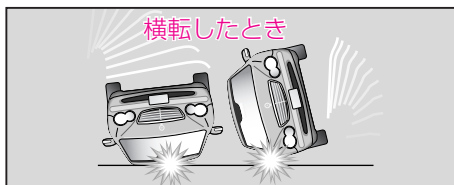
- 車の前方からの衝撃が弱いときはシートベルトテンショナーだけが作動し、エアバッグは作動しないことがあります。
- 助手席シートに重い荷物などを積んで、シートベルトをバックルに差し込んでいるときは、衝突時などに助手席エアバッグが作動することがあります。

  また、助手席シートに重い荷物などを積んでいるときは、衝突時などに助手席側のサイドバッグが作動することがあります。
- ドアロックスイッチや車速感応ドアロックなどにより車が施錠されていても、エアバッグやシートベルトテンショナーが作動すると、ドアは自動的に解錠されます。
- エアバッグが作動すると非常点滅灯が自動的に点滅します。自動的に点滅した非常点滅灯を解除するときは、非常点滅灯スイッチを押します。
- エアバッグの作動時にわずかに白煙が発生することがありますが、火災の心配はありません。

  また、ぜんそくなどの呼吸疾患のある方は一時的に呼吸障害を起こすおそれがありますので、安全を確認のうえ車外へ出るか、ドアやドアウインドウを開き換気を行なってください。
- エアバッグの作動時に爆発音が聞こえますが、通常では聴力への影響はありません。
- ボディの部位によって受けた衝撃を吸収する度合いが異なるので、損傷の大きさとエアバッグの作動は必ずしも一致しません。
- 未作動のエアバッグを廃棄するときは、廃棄専用の処置が必要です。指定サービス工場、または専門業者に依頼してください。

SRSエアバッグ

運転席 / 助手席エアバッグが作動するとき

サイドバッグ / ウインドウバッグが作動するとき

運転席 / 助手席エアバッグが作動しないとき

運転席 / 助手席エアバッグが作動しない場合があるとき

サイドバッグ / ウインドウバッグが作動しない場合があるとき

いずれかのエアバッグが作動する場合があるとき

チャイルドセーフティシート

シートベルトは身長150cm以上の人が使用することを前提にしています。シートベルトが正しく着用できない体格の子供などは、適切なチャイルドセーフティシートを使用してください。

チャイルドセーフティシートの取り扱いや装着方法については、製品に添付されている「取扱説明書」をお読みください。

警　告

- シートベルトが正しく着用できない体格の子供などは、チャイルドセーフティシートを使用しないと、急ブレーキ時や衝突時などに身体を車内に激しくぶつけたり、車外に放り出されて致命的なけがをするおそれがあります。
- 6歳未満の子供を乗せるときは、チャイルドセーフティシートを使用することが法律で義務付けられています。
- 6歳以上の子供でも、シートベルトが正しく着用できない子供は、チャイルドセーフティシートを使用してください。
- 身長150cm未満の子供はチャイルドセーフティシートを使用して確実に身体を固定してください。
- 子供の体格に適合したチャイルドセーフティシートを使用し、子供を正しい姿勢で座らせ、身体をシートベルトで確実に固定してください。
- シートベルトが正しく着用できない体格の子供が、そのままシートベルトを着用すると、首を締め付けたり、腹部を強く圧迫したりして致命的なけがをするおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートは、後席に装着してください。
- やむを得ず助手席に装着するときは、必ず前向きに装着して、助手席シートの位置をもっとも後ろに下げてください。
- 後向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートは助手席に装着しないでください。また、タイプにかかわらずチャイルドセーフティシートを後向きに装着しないでください。エアバッグが作動する衝撃で致命的なけがをするおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートが損傷しているときは新品と交換してください。大きな衝撃を受けたり、損傷したものは子供を保護できません。

- チャイルドセーフティシートは確実に装着してください。急ブレーキ時などに、チャイルドセーフティシートが放り出されて乗員がけがをするおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートの下にクッションなどを置かないでください。チャイルドセーフティシートが確実に装着されないおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートを使用しないときは、車から取り外すか、確実に固定してください。
- チャイルドセーフティシートは直射日光に当てないでください。炎天下では車内に置いたチャイルドセーフティシートが高温になり、子供が火傷をするおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートのクッションカバーは、純正品以外の物を使用しないでください。
- 子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になることがあります。また、炎天下では車内が高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。

注 意 !

分割可倒式リアシートにチャイルドセーフティシートを装着するときは、バックレストを起こして、確実にロックしてください。

純正チャイルドセーフティシート

ダイムラー・クライスラー社では、子供の体重や年齢に応じた純正チャイルドセーフティシートを用意しています。

純正チャイルドセーフティシートには、以下のタイプがあります。詳しくは販売店におたずねください。

選択の目安

シート名	体　重	年　齢
ベビーセーフプラス	約10kg以下	新生児~9カ月位
デュオ プラス	9~18kg	8カ月~4歳位
キッド	15~36kg	3歳半~12歳位

※チャイルドセーフティシートの種類や名称は予告なく変更されることがあります。詳しくは販売店におたずねください。

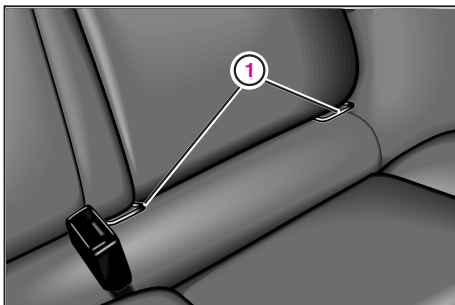
助手席エアバッグオフ表示灯

① 表示灯

チャイルドセーフティシート検知システム装備車のための表示灯で、センサー付き純正チャイルドセーフティシートを助手席に装着すると点灯し、助手席エアバッグの機能が解除されていることを示します。

日本仕様には設定のない装備のため、表示灯としては機能しません。

センサー付き純正チャイルドセーフティシートを助手席に装着したとき、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯することがありますが、助手席エアバッグの機能は解除されません。純正チャイルドセーフティシートは後席に装着してください。

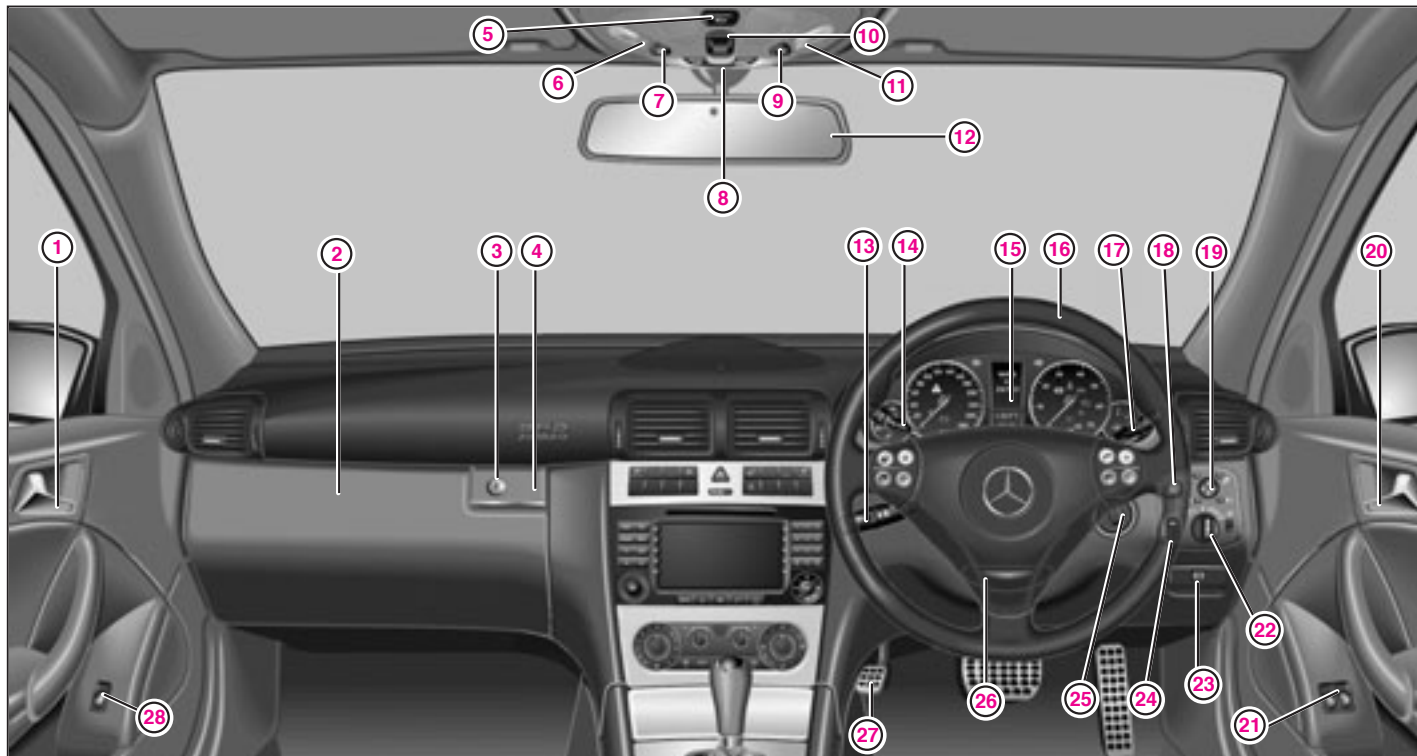
ISO-FIX対応チャイルドセーフティシート固定装置

① 固定装置

後席の左右に、ISO-FIX対応チャイルドセーフティシート用の固定装置を装備しています。

警　告

- この固定装置は、体重22kg以下の子供を乗せるときに使用してください。
- チャイルドセーフティシートは、必ず製品の取扱説明書の指示に従い、左右の固定装置に装着してください。装着のしかたを誤ると、事故のとき、十分な効果が得られなかったり、チャイルドセーフティシートが外れるおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートや固定装置が事故で損傷したり強い負荷を受けた場合は、指定サービス工場で新品に交換してください。

インストルメントパネル

インストルメントパネル

※装備、仕様の違いにより、スイッチなどの位置や形状が実際の車両と違うことがあります。

	名称	ページ
①	ドアレバー（助手席ドア）	3-24
②	グローブボックス	6-26
③	グローブボックスキーシリンダー	6-26
④	グローブボックスハンドル	6-26
⑤	リアルームランプスイッチ	6-16
⑥	リーディングランプ（助手席側）	6-16

	名称	ページ
⑦	リーディングランプスイッチ（助手席側）	6-16
⑧	ルームランプ点灯モード切替スイッチ	6-16
⑨	リーディングランプスイッチ（運転席側）	6-16
⑩	電動サンシェード / パノラミックスライディングルーフ＊スイッチ	3-45
⑪	リーディングランプ（運転席側）	6-16

	名称	ページ
⑫	ルームミラー	3-51
⑬	コンビネーションレバー（ヘッドランプ / 方向指示 / ワイパー）	5-24 5-27 5-29
⑭	クルーズコントロール / 可変スピードリミッターレバー	5-42 5-48
⑮	メーターパネル	3-56

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

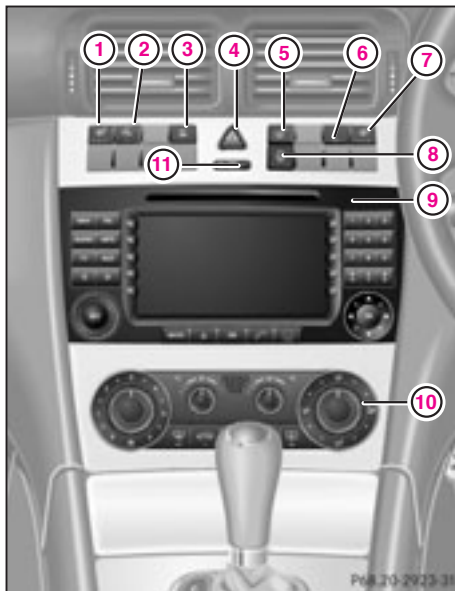
インストルメントパネル

	名称	ページ
⑯	ステアリング	3-55
⑰	ボイスコントロールレバー＊	別冊
⑱	ヘッドランプウォッシャースイッチ＊	5-31
⑲	ドアミラー調整スイッチ ドアミラー格納 / 展開スイッチ ドアミラー選択スイッチ	3-53 3-54 3-53
⑳	ドアレバー（運転席ドア）	3-24

	名称	ページ
㉑	ドアウインドウスイッチ（運転席側）	3-43
㉒	ランプスイッチ	5-21
㉓	パーキングブレーキ解除ハンドル	5-32
㉔	ヘッドランプ照射角度調整ダイヤル＊	5-26

	名称	ページ
㉕	エンジンスイッチ	5-2
㉖	ステアリングロック解除ハンドル	3-55
㉗	パーキングブレーキペダル	5-32
㉘	ドアウインドウスイッチ（助手席側）	3-43

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

センターコンソール

	名称	ページ
①	シートヒーター スイッチ＊（助手席）	3-18
②	パークトロニック オフスイッチ＊	5-56
③	ESPオフスイッチ	5-40
④	非常点滅灯スイッチ	5-28
⑤	ドアロックスイッチ （解錠）	3-25
⑥	盗難防止警報機能 表示灯＊	3-41
⑦	シートヒーター スイッチ＊（運転席）	3-18
⑧	ドアロックスイッチ （施錠）	3-25

	名称	ページ
⑨	Audio 20＊ / マルチファンクション コントローラー＊	別冊
⑩	エアコンディショナー コントロールパネル	6-5
⑪	助手席エアバッグオフ 表示灯	2-18

警　告

日本仕様車ではセンサー付き純正チャイルドセーフティシートを助手席に装着しても、助手席エアバッグの機能は解除されません。また、このときに助手席エアバッグオフ表示灯⑪が点灯することがあります。詳しくは**(2-18)**をご覧ください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

キー

リモコン機能付きのキーが2本付属しています。

エンジンの始動および車の解錠 / 施錠に使用します。

また、それぞれのキーにはエマージェンシーキーが収納されています。

警 告

- 子供だけを残して車から離れないでください。施錠されていても、誤って車内からドアを開いたり運転装置に触れて、事故やけがをするおそれがあります。
- 車から離れるときは、短時間でも必ず車を施錠してください。また、車内にキーを残したまま車から離れないでください。事故や盗難のおそれがあります。
- キーに重い物や必要以上に大きなキーホルダーなどを取り付けないでください。走行中にキーホルダー自体の重みでキーがまわったり、キーが抜けてしまい、エンジンが停止すると、事故を起こすおそれがあります。

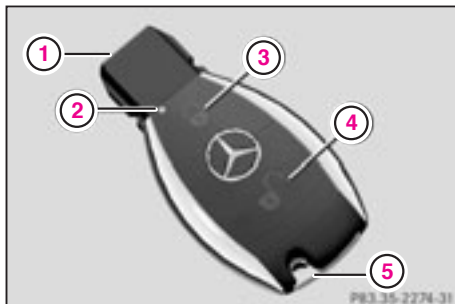
注 意 !

- キーを紛失したときは、盗難や事故を防ぐため、ただちに指定サービス工場に連絡してください。
- キーを強い電磁波にさらすと、リモコンに障害が発生するおそれがあります。
- キーは衝撃や水から避けてください。故障の原因になります。
- キーの先端部を汚したり覆ったりしないでください。故障や誤作動のおそれがあります。

知 識

- 新たにキーをつくる場合は、指定サービス工場におたずねください。
- 2つのキーを見わけるためキーのストッパー（3-12）の色は異なります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

リモコン機能

① 発信部
② 表示灯
③ 施錠ボタン
④ 解錠ボタン
⑤ エマージェンシーキー

エンジンスイッチにキーを差し込んでいないときに以下の操作ができます。

- ドア、テールゲート、燃料給油フラップの解錠 / 施錠
- ドアウインドウと電動サンシェード＊ / パノラミックスライディングルーフ＊の開閉

操作時に表示灯が1回点滅します。

解錠する

▶ 解錠ボタン④を押します。

ドア、テールゲート、燃料給油フラップが解錠され、非常点滅灯が1回点滅します。

施錠する

▶ 施錠ボタン③を押します。

ドア、テールゲート、燃料給油フラップが施錠され、非常点滅灯が3回点滅します。

リモコン操作でドアウインドウと電動サンシェード＊ / パノラミックスライディングルーフ＊を開閉することができます。

詳しくは(3-9)をご覧ください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

注 意 ！

- 高圧電線や電波発信塔付近などの強電界下でリモコン操作を行なうと、リモコンが作動しなかったり、誤作動することがあります。
- リモコン操作でドアウインドウやパノラミックスライディングルーフ＊を閉じるときは、開口部に異物がないことを確認してください。
- リモコン操作で施錠したときは、非常点滅灯が3回点滅したこと、ドア、テールゲート、燃料給油フラップが確実に施錠されていることを確認してください。
- 貴重品は絶対に車内に置いたままにしないでください。盗難のおそれがあります。

リモコン機能の設定切替

リモコン操作での解錠の作動内容を切り替えることができます。

リモコン機能の設定を切り替える

▶ 施錠ボタン③と解錠ボタン④を同時に約6秒間押し続けます。

キーの表示灯が2回点滅し、設定が切り替わります。

この状態では以下のように作動します。

- 解錠ボタン④を1回押すと、運転席ドアと燃料給油フラップのみが解錠されます。
- 続けて約40秒以内に、解錠ボタン④を押すと、助手席ドア、リアドア、テールゲートが解錠されます。

リモコン機能の設定を元に戻す

▶ 再度、施錠ボタン③と解錠ボタン④を同時に約6秒間押し続けます。

キーの表示灯が2回点滅し、元の設定に戻ります。

知 識

- エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは、リモコン操作はできません。
- リモコン操作での解錠後約40秒以内に、以下のいずれかの操作をしないと、再び施錠されます。
  - ◇ ドアを開く
  - ◇ テールゲートを開く
  - ◇ エンジンスイッチにキーを差し込む
  - ◇ ドアロックスイッチ（解錠）を押す
- 車がバッテリーあがりを起こしたときは、リモコンの電池が正常でもリモコン操作での解錠／施錠はできません。
- リモコンの電池が消耗すると操作時に表示灯②が点灯せず、リモコン操作ができなくなりますが、エンジンは始動できます。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

リモコン操作でドアウインドウと電動サンシェード＊ / パノラミックスライディンググルーフ＊を開閉する

① 発信部
② 施錠ボタン
③ 解錠ボタン

リモコン操作でドアウインドウと電動サンシェード / パノラミックスライディンググルーフを開閉することができます。

ドアウインドウと電動サンシェードを開く

▶ キーの発信部①をドアハンドルに向けて解錠ボタン③を押し続けます。

ドアウインドウと電動サンシェードが開きます。

解錠ボタン③から手を放すと、作動中のドアウインドウと電動サンシェードはその位置で停止します。

パノラミックスライディンググルーフを開く

▶ 電動サンシェードを全開にします。

▶ キーの発信部①をドアハンドルに向けて再度解錠ボタン③を押し続けます。

パノラミックスライディンググルーフがチルトアップします。

解錠ボタン③から手を放すと、作動中のパノラミックスライディンググルーフはその位置で停止します。

▶ キーの発信部①をドアハンドルに向けて再度解錠ボタン③を押し続けます。

パノラミックスライディンググルーフが開きます。

解錠ボタン③から手を放すと、作動中のパノラミックスライディンググルーフはその位置で停止します。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

ドアウインドウとパノラミックスライディングルーフを閉じる

▶ キーの発信部①をドアハンドルに向けて施錠ボタン②を押し続けます。

ドアウインドウとパノラミックスライディングルーフが閉じます。

施錠ボタン②から手を放すと、作動中のドアウインドウとパノラミックスライディングルーフはその位置で停止します。

電動サンシェードを閉じる

▶ パノラミックスライディングルーフを全閉にします。

▶ キーの発信部①をドアハンドルに向けて再度施錠ボタン②を押し続けます。

電動サンシェードが閉じます。

施錠ボタン②から手を放すと、作動中の電動サンシェードはその位置で停止します。

知　識

- リモコン操作時は、キーの発信部をドアハンドルに向けて操作してください。
- エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは、リモコン操作はできません。

注　意　!

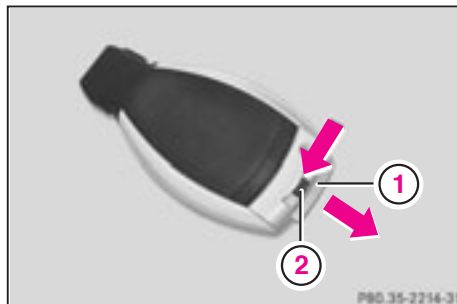
- 高圧電線や電波発信塔付近などの強電界下でリモコン操作を行なうと、リモコンが作動しなかったり、誤作動することがあります。
- リモコン操作でドアウインドウやパノラミックスライディングルーフを閉じるときは、身体や物が挟まれないように注意してください。

  挟まれそうになったときは、ただちに施錠ボタン②から手を放し、解錠ボタン③を押し続けて、ドアウインドウやパノラミックスライディングルーフを開いてください。
- リモコン操作でドアウインドウを開くときは、ドアウインドウに身体を寄りかけないでください。ドアウインドウとドアフレームの間に身体が引き込まれてけがをするおそれがあります。
- リモコン操作で施錠したときは、車から離れる前に、すべてのドアウインドウとパノラミックスライディングルーフが閉じていることを確認してください。

ロケイターライティング

周囲が暗いとき、リモコン操作で車を解錠すると、車幅灯、フロントフォグランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯します。

点灯したランプは、運転席ドアを開いたとき、または約40秒後に消灯します。

この機能の設定と解除については（4-25）をご覧ください。

エマージェンシーキー

① エマージェンシーキー
② ストッパー

キーに収納されています。

グローブボックスを施錠 / 解錠するとき（6-26）に使用します。

また、リモコンが作動しないときに、運転席ドアを解錠 / 施錠するときに使用します（3-27）。

エマージェンシーキーを使用する

▶ ストッパー②を矢印の方向に押しながら、エマージェンシーキー①を矢印の方向に抜きます。

収納するときは元の位置に差し込みます。

電池の交換

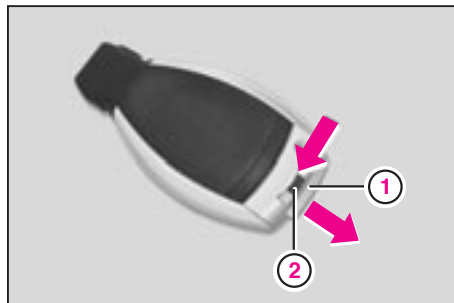
リモコンの作動可能距離が短くなったり、いずれかのボタンを押しても作動しない場合は、電池の消耗が考えられます。指定サービス工場で点検を受けてください。

警　告

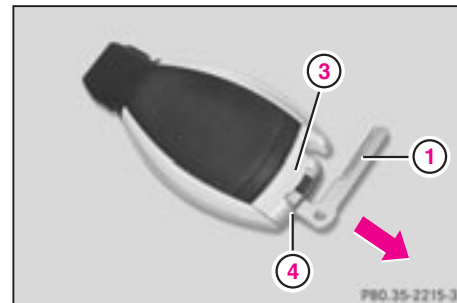
電池は子供の手の届かないところに保管してください。誤って電池を飲み込むおそれがあります。

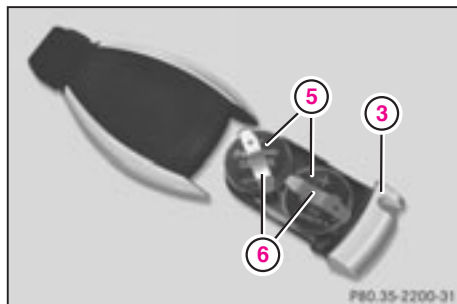
電池を飲み込んでしまったときは、ただちに医師の診断を受けてください。

知　識

キーのいずれかのボタンを押したときに、キーの表示灯が1回点滅すれば電池は正常です。

① エマージェンシーキー
② ストッパー

電池の交換手順

▶ ストッパー②を矢印の方向に押しながら、エマージェンシーキー①を矢印の方向に抜き取ります。

① エマージェンシーキー
③ 電池ケース
④ 凹部

▶ エマージェンシーキー①を凹部④にかけてロックを外しながら、電池ケース③を矢印の方向に引き抜きます。

③ 電池ケース
⑤ 電池
⑥ 電極板

▶ 電池⑤を横にスライドさせて取り出します。

▶ 新しい電池と交換します。

2個とも⊕が上になるようにして、新しい電池を電極板⑥の間に取り付けます。

▶ 電池ケース③を本体の溝に合わせ、押し込んでロックします。

▶ エマージェンシーキー①をキーに収納します。

知　識

- リチウム電池（CR2025）を2個使用しています。
- 電池を交換するときは2個同時に交換してください。
- 電池の表面に、汚れや脂分などが付着していないことを確認してください。

環　境

環境保護のため、使用済みの電池を廃棄するときは、新しい電池をお買い求めになった販売店で処分を依頼してください。

フロントシート

フロントシートの調整

① レバー（シートの前後）
② ダイヤル（クッションの傾き）
③ レバー（シートの高さ）
④ ダイヤル（バックレストの傾き）

シートの前後位置を調整する

▶ レバー①を上方に引いたままシートを前後に動かして調整します。

シートが確実にロックしていることを確認してください。

クッションの傾きを調整する

▶ ダイヤル②をまわして調整します。

シートの高さを調整する

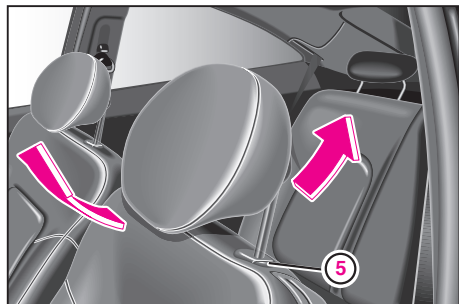
シートを上げる

▶ レバー③を繰り返し引き上げます。

シートを下げる

▶ レバー③を繰り返し押し下げます。

バックレストの傾きを調整する

▶ ダイヤル④をまわして調整します。

⑤ ロック解除ノブ

ヘッドレストの高さを調整する

▶ 上げるときはそのまま引き上げます。

下げるときはロック解除ノブ⑤を押しながら下げます。

ヘッドレストの中央が目の高さになるように調整します。

ヘッドレストの角度を調整する

▶ ヘッドレストの下側を押して / 引いて調整します。

ヘッドレストが後頭部に接するように調整します。

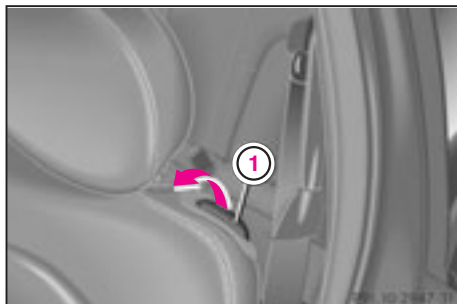
ヘッドレストを取り外す

▶ ロック解除ノブ⑤を押しながらヘッドレストを引き上げます。

ヘッドレストを取り付ける

▶ 切り欠きのある支柱が左側になるようにして、ヘッドレストの支柱を取り付け穴に差し込みます。

警　告

乗車するときは、必ずヘッドレストを取り付けてください。衝突時に重大なけがをするおそれがあります。

① レバー

バックレストを前方に倒す

▶ ヘッドレストを下げます。

▶ レバー①を引きながら、バックレストを前方に倒します。

▶ シート全体を前方に引き上げます。

注 意 !

バックレストを前方に倒すときは、必ずヘッドレストを下げてください。ヘッドレストがルーフ内張りに当たるおそれがあります。

知 識

シートの前後位置が前方にあるときは、バックレストが前方に倒れるだけで、シートは前方には引き上がりません。

バックレストを戻す

▶ バックレストをロックするまで戻します。

▶ シートを下に押してロックします。

▶ ヘッドレストを元の位置に調整します。

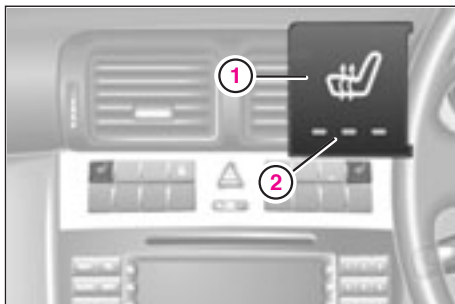
警 告

バックレストを元の位置に戻すときは、リアシートの乗員の身体が挟まれないように注意してください。

注 意 !

- バックレストを戻した後は、必ずヘッドレストを元の位置に調整してください。
- マルチファンクションディスプレイに "ｳﾝﾃﾝｾｷ ｼｰﾄ ｦ ﾛｯｸ" または "ｼﾞｮｼｭｾｷ ｼｰﾄ ｦ ﾛｯｸ" と表示されたときは、運転席または助手席のシートがロックされていません。シートを確実にロックさせてください。

シートヒーター

シートヒーター＊

① シートヒータースイッチ
② 表示灯

スイッチはセンターコンソールにあります。

エンジンスイッチが1か2の位置のときに使用できます。

シートヒーターを使用する

▶ シートヒータースイッチ①を押します。

シートヒータースイッチを押すごとに点灯する表示灯②の数が変わり、シートヒーターの作動内容が切り替わります。

シートヒーターを停止する

▶ シートヒータースイッチ①を押して、表示灯②を消灯させます。

点灯している表示灯の数	作動内容
3	シートヒーターが強で作動します。 約5分後に自動的に中に切り替わります。
2	シートヒーターが中で作動します。 約10分後に自動的に弱に切り替わります。
1	シートヒーターが弱で作動します。 約20分後に自動的に停止します。
0	停止しています。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

注　意　！

- コートや厚手の衣服などを着用している状態や、毛布などの保温性の高いものをシートにかけた状態でシートヒーターを使用しないでください。また、シートヒーターを連続して使用しないでください。

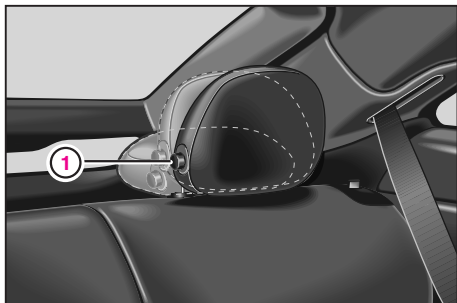
  異常過熱による低温火傷（紅斑、水ぶくれ）を起こしたり、シートヒーターが故障するおそれがあります。

- 以下の事項に該当する方は、熱すぎたり、低温火傷をするおそれがありますので十分に注意してください。
  - ◇ 乳幼児、高齢者、病人、体が不自由な方
  - ◇ 皮膚が弱い方
  - ◇ 疲労の激しい方
  - ◇ 眠気をさそう薬を服用した方
  - ◇ 飲酒した方
- シートに凸部のある重量物を置かないでください。故障の原因になります。

知　識

多くの電気装備を使用していたりバッテリーの電圧が低くなると、シートヒーターが停止することがあります。このときは表示灯が点滅します。電圧が回復すると、再び自動的に作動し、表示灯が点灯します。

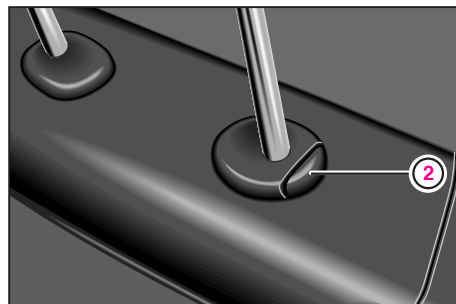
リアシート

リアヘッドレストの調整

① ロック解除ボタン

リアヘッドレストの角度を調整する

リアヘッドレストは角度を2段階に調整することができます。

▶ ヘッドレストが起きているときに、ロック解除ボタン①を押しながらもう一段階引き起こします。

ヘッドレストが後頭部に接するように調整します。

② ロック解除ノブ

リアヘッドレストを高くする

▶ ヘッドレストを引き上げます。

もっとも低い位置から高くするときは、ロック解除ノブ②を押しながら、引き上げます。

リアヘッドレストを低くする

▶ ロック解除ノブ②を押しながら、押し下げます。

リアヘッドレストの格納

リアヘッドレストを格納する

▶ ロック解除ボタン①を押します。

ヘッドレストが後方に倒れます。

リアヘッドレストを起こす

▶ 手で引き起こします。

警　告

乗車するときは、必ずヘッドレストを起こしてください。衝突時に重大なけがをするおそれがあります。

リアヘッドレストの脱着

リアヘッドレストを取り外す

▶ ヘッドレストを格納します。

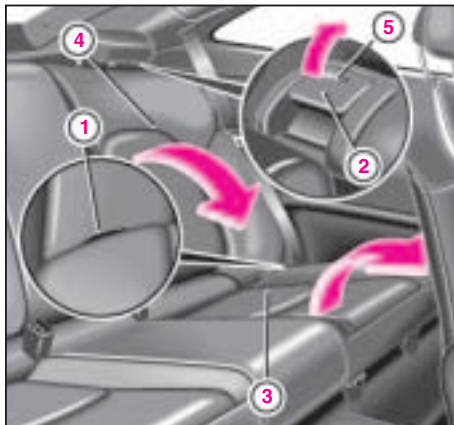
▶ ロック解除ノブ②を押しながらヘッドレストを引き抜きます。

リアヘッドレストを取り付ける

▶ 切り欠きのある支柱が左側になるようにして、ヘッドレストの支柱を取り付け穴に差し込みます。

警　告

乗車するときは、必ずヘッドレストを取り付けてください。衝突時に重大なけがをするおそれがあります。

分割可倒式リアシート

① ハンドル
② リリースレバー
③ クッション
④ バックレスト
⑤ ロックインジケーター

リアシートの左右いずれか一方、または両方を折りたたむことができます。

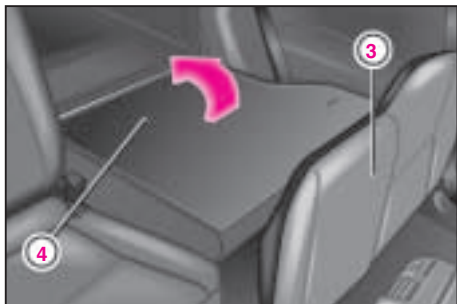
リアシートを折りたたむ

▶ ヘッドレストをもっとも低い位置にして、格納します。

▶ ハンドル①を引き、クッション③を前方に引き起こします。

▶ バックレスト上部にあるリリースレバー②を引いて、バックレスト④を前方に倒します。

注　意　!

リアシートを折りたたんだ状態でフロントシートを後方に動かすときは、リアシートクッションに当たらないようにしてください。シートを損傷するおそれがあります。

③ クッション
④ バックレスト

リアシートを元に戻す

▶ バックレスト④を元の位置に戻し、確実にロックします。

▶ クッション③を元の位置に戻し、確実にロックします。

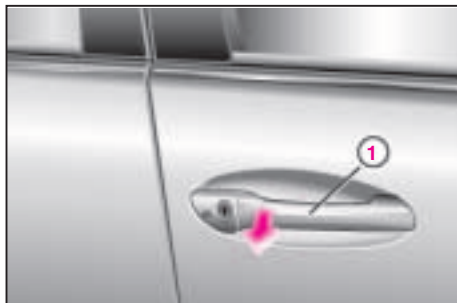
注　意！

ロックインジケーター⑤が見えているときはバックレストがロックされていません。ロックインジケーターが見えなくなるようにバックレストを確実にロックしてください。

警　告

- 大きな荷物を積まないときは、バックレストを起こしてください。荷物が前方に放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。
- リアシートに乗車するときは、必ずバックレストを起こしてロックしてください。事故のとき、けがをするおそれがあります。

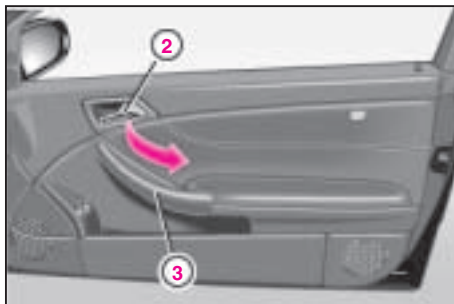
ドア

ドアの開閉

① ドアハンドル

車外からドアを開く

▶ ドアハンドル①を引きます。

車外からドアを閉じる

▶ ドアハンドル①をもって確実に閉じます。

② ドアレバー
③ インナーグリップ

車内からドアを開く

▶ ドアレバー②を矢印の方向に引きます。

車内からドアを閉じる

▶ インナーグリップ③をもって確実に閉じます。

知　識

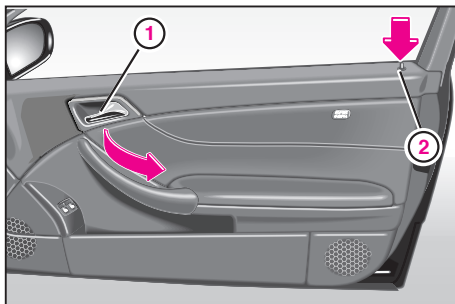
ドアが確実に閉じていない状態で走行すると、マルチファンクションディスプレイに警告マークが表示されます（10-5）。

警　告

- ドアは確実に閉じてください。ドアの閉じかたが不完全（半ドア）な場合、走行中にドアが開くおそれがあります。
- ドアを開くときは、周囲の安全を十分確認してください。
- 同乗者がドアを開くときは、危険がないことを運転者が確認してください。

注　意　！

- 車から離れるときは、エンジンを停止し、必ずドアを施錠してください。
- ドアを閉じるときは、身体や物が挟まれないように注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。

ドアごとに解錠 / 施錠する

① ドアレバー
② ロックノブ

ドアを解錠する

▶ ドアレバー①を矢印の方向に引きます。

ロックノブ②が上がり、ドアが解錠され、開きます。

ドアを施錠する

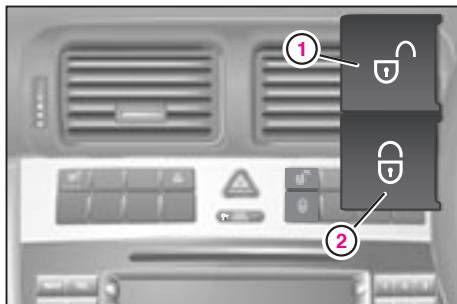
▶ ロックノブ②を矢印の方向に押し込みます。

知 識

助手席ドアは、開いているときにロックノブを押し込んでから閉じると施錠されます。

注 意 !

- 施錠後は、ロックノブが完全に下がっていることを確認してください。
- ロックノブが完全に下がっていないドアがあるときは、そのドアを確実に閉じてからロックノブを押し込んでください。また、外部からドアハンドルを引いて、ドアが確実に施錠されていることを確認してください。
- ドアのロックノブが下がっていても、車内のドアレバーを引くとドアは開きます。子供を乗せているときは特に注意してください。

ドアロックスイッチ

① 解錠
② 施錠

車内から、すべてのドアとテールゲートをスイッチ操作で解錠 / 施錠することができます。

解錠する

▶ 解錠スイッチ①を押します。

施錠する

▶ 施錠スイッチ②を押します。

次のような場合はドアロックスイッチで解錠 / 施錠することはできません。

- リモコン操作で施錠しているとき
- 助手席ドアが開いているとき

注 意 !

- ドアロックスイッチで施錠したときは、各ドアのロックノブ**(3-24)**が完全に下がっていることを確認してください。
- ロックノブが下がっていても、車内のドアレバーを引くとドアは開きます。子供を乗せているときは特に注意してください。

知 識

- 運転席が開いているときにドアロックスイッチを操作すると、助手席ドアとテールゲートが解錠 / 施錠されます。
- ドアロックスイッチで施錠してあるときに車内からドアを開くと、他のドア、テールゲートも解錠されます。
- ドアロックスイッチで施錠しても、燃料給油フラップは施錠されません。
- ドアロックスイッチにより車が施錠されていても、シートベルトテンショナーやエアバッグが作動するとドアは自動的に解錠されます。

車速感応ドアロック

速度が約15km/h以上になると、ドアとテールゲートを自動的に施錠します。

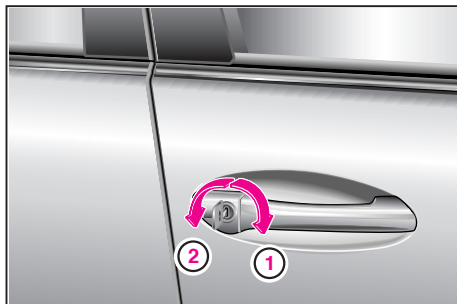
この機能の設定と解除については**(4-30)**をご覧ください。

注 意 !

車速感応ドアロックを設定した状態で、車を押したり、タイヤ交換などで車を持ち上げるときは、エンジンスイッチを**0**の位置にしてください。タイヤが回転すると施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。

知 識

- 車速感応ドアロックで施錠されたドアをドアロックスイッチで解錠すると、ドアを開くかエンジンをかけ直すまで、車速感応ドアロックは作動しません。
- 車速感応ドアロックで施錠してあるときに車内からドアを開くと、他のドア、テールゲートも解錠されます。
- ドアロックスイッチや車速感応ドアロックなどにより車が施錠されていても、シートベルトテンショナーやエアバッグが作動するとドアは自動的に解錠されます。

エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠 / 施錠する

① 解錠
② 施錠

> **知　識**
>
> 助手席のドアにはキーシリンダーはありません。

リモコン操作ができないときは、運転席のドアハンドルのキーシリンダーにエマージェンシーキーを差し込み、解錠 / 施錠することができます。

解錠する

▶ 前方①にまわします。

施錠する

▶ 後方②にまわします。

> **注　意　！**
>
> - エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠 / 施錠しても、助手席ドア、テールゲート、燃料給油フラップは解錠 / 施錠されません。
> - 盗難防止警報システム装備車は、リモコン操作で施錠した後に、エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠して開くと、盗難防止警報システムが作動します。
>
>   警報を停止するには、キーをエンジンスイッチに差し込むか、キーの🔓か🔒を押します。

エマージェンシーキーで車を施錠する

リモコン操作で施錠できないときは、以下の方法で施錠してください。

▶ 助手席ドア、テールゲートを確実に閉じます。運転席ドアは開いたままにします。

▶ ドアロックスイッチで施錠します。

▶ 助手席ドアのロックノブが完全に下がっていることを確認します。

▶ 運転席ドアを閉じ、エマージェンシーキーで施錠します。

▶ すべてのドア、テールゲートが施錠されていることを確認してください。

> **注　意　！**
>
> ドアロックスイッチが作動せず、ロックノブを押し込んで車を施錠したときには、テールゲートが施錠されていないことがあります。このときは、完全に車を施錠することはできません。指定サービス工場に連絡してください。

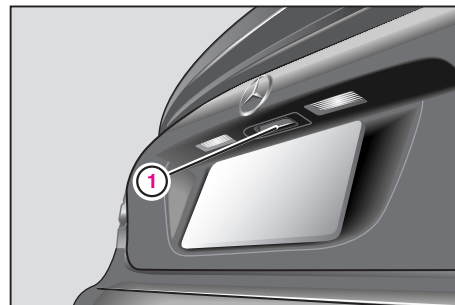
テールゲート

警　告

エンジンをかけた状態でテールゲートを開いたままにしないでください。排気ガスが車内に入り、意識不明になったり、中毒死するおそれがあります。

注　意！

- テールゲートを開くときは、テールゲートの周りに障害物がなく、人や物に当たるおそれがないことを確認してください。
- 天井の低い駐車場や狭い場所など、上方や後方に十分な空間のない場所では、開いたテールゲートが天井や壁などに当たり損傷するおそれがあります。
- 強風のときにテールゲートを開くと、強い風にあおられ、テールゲートが不意に下がることがあります。風の強い日には十分に注意してください。
  また、テールゲートに雪が積もっているときも同様に注意してください。

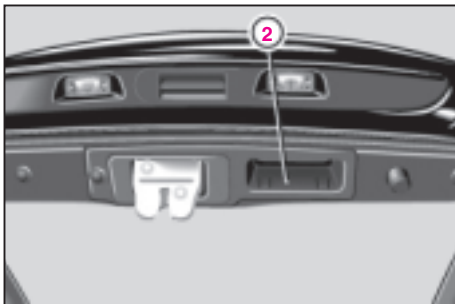
テールゲートを開く

① ハンドル

▶ ハンドル①を引き、テールゲートを引き上げます。

テールゲートを開くと、ラゲッジルームランプが点灯します。

知　識

点灯したラゲッジルームランプは、テールゲートを開いたままにすると、約10分後に消灯します。

テールゲートを閉じる

② 凹部

▶ テールゲートの凹部②に手をかけてテールゲートを下げ、外側から押さえつけます。

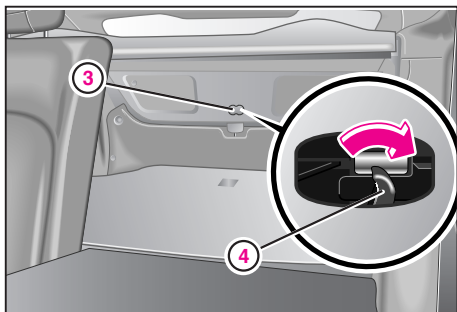
ラゲッジルームランプが消灯します。

注 意 !

- テールゲートが確実に閉じていることを確認してください。
- テールゲートを閉じるときは、身体や物が挟まれないように注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。

知 識

テールゲートが完全に閉じていない状態で走行すると、マルチファンクションディスプレイに警告マークが表示されます（10-5）。

テールゲート裏側のレバーでテールゲートを開く

③ カバー
④ レバー

リモコン操作でテールゲートが解錠できないときなどは、テールゲート裏側（車内）のレバーでテールゲートを解錠して開くことができます。

▶ テールゲート裏側のカバー③を外します。

▶ レバー④を矢印の方向に押します。テールゲートが少し開きます。

知 識

- テールゲート裏側のレバーで、テールゲートの施錠はできません。
- テールゲート裏側のレバーでテールゲートを開いても、ドアと燃料給油フラップは解錠されません。

注 意 ！

- テールゲートを開くときは、上方および後方に十分な空間があることを確認してください。
- 車が施錠されているときにテールゲート裏側のレバーでテールゲートを解錠して開いたときは、テールゲートを閉じると、テールゲートは再び施錠されます。キーを車内に放置しているとキーが取り出せなくなります。
- 盗難防止警報システム装備車は、車が施錠されているときにテールゲート裏側のレバーでテールゲートを開くと、盗難防止警報が作動します。警報を停止するには、キーをエンジンスイッチに差し込むか、キーの🔓か🔒を押します。
- 貴重品は絶対に車内に置いたままにしないでください。盗難のおそれがあります。

ラゲッジルーム

ラゲッジルームカバー

① フック
② ストラップ
③ ラゲッジルームカバー
④ ロッド取り付け部
⑤ ロッド

ラゲッジルームカバーを取り外す

▶ ストラップ②をテールゲートのフック①から外します。

▶ ラゲッジルームカバー③のロッド⑤を左右のロッド取り付け部④から外し、手前に取り出します。

ラゲッジルームカバーを取り付ける

▶ ラゲッジルームカバー③のロッド⑤を左右のロッド取り付け部④に取り付けます。

▶ ストラップ②をテールゲートのフック①にかけます。

注　意　！

- 走行するときはラゲッジルームカバーの上に物を置かないでください。
- ラゲッジルームカバーの上には1.5kg以上の重量の物を置かないでください。ラゲッジルームカバーを損傷するおそれがあります。

ラゲッジフロアマット下の収納スペース

ラゲッジフロアマット①の下には、停止表示板や車載工具、電動エアポンプや応急用スペアタイヤ、ジャッキなどが収納されています。

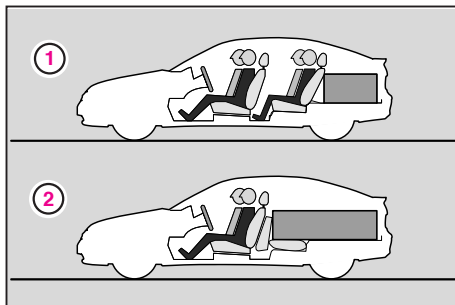
① ラゲッジフロアマット
② 凹部

ラゲッジフロアマットを開く

▶ ラゲッジフロアマット①の凹部②に手をかけて矢印の方向に引き上げます。

① ラゲッジフロアマット

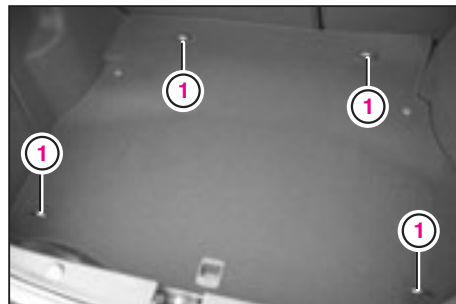
▶ ラゲッジフロアマット①を前方に軽く押さえます。

ラゲッジルームに荷物を積むとき

① リアシートを使用して荷物を積んだ状態
② リアシートを折りたたんで荷物を積んだ状態

荷物の積み方は車の走行安定性に大きく影響します。荷物はできるだけラゲッジルームに積み、以下の点に注意してください。

- 重量が偏らないよう均等に積んでください。
- 重い物は車の中心近く（ラゲッジルームの前方）に積み、確実に固定してください。確実に固定できていないと、急ブレーキ時などに荷物が動き、ラゲッジルーム内部を損傷するおそれがあります。
- 燃料を入れた容器やスプレー缶などを積まないでください。引火や爆発のおそれがあります。
- 荷物の重量が、制限重量（9-14）を超えないようにしてください。
- 荷物は後席バックレストまたは前方に倒したシートクッション、前席バックレストに接するようにしてください。
- 荷物はできるだけ乗車していないシートの後方に積んでください。
- 荷物をシートのバックレストより高く積み上げないでください。
- ウインドウに荷物が当たらないようにしてください。ウインドウガラスを損傷したり、リアデフォッガーの熱線やアンテナなどを損傷するおそれがあります。

荷物固定用リング

荷物固定用のアクセサリーは、ダイムラー・クライスラー社の推奨品の使用をお勧めします。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

① 荷物固定用リング

荷物固定用リングを使用する

▶ ラゲッジフロアマットのスリットを通して、荷物固定用リング①を使用します。

注 意 !

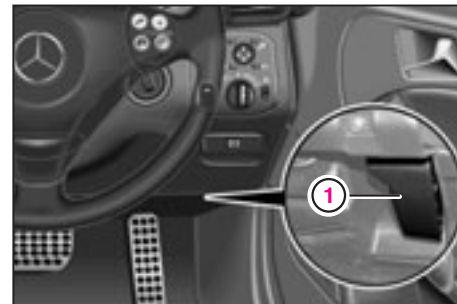
- 4個の荷物固定用リングに均等に力がかかるようにして荷物を固定してください。
- 荷物固定用リングに過大な力がかからないように注意してください。荷物固定用リングを損傷するおそれがあります。
- 伸縮率7%以下および耐荷重張力714kg(600daN)以上の擦れに強く丈夫なロープやストラップ、ネットを使用してください。
- 固定するロープやネットが荷物の角にかからないようにしてください。
- 鋭い角のあるものは、角の部分にカバーをしてください。
- 締め付けストラップは、荷物の上で交差するようにかけてください。

ボンネット

警　告

- ボンネットから炎や煙が見えたときは、ボンネットを開かないでください。火傷をするおそれがあります。
- 走行中はボンネットロック解除レバーを引かないでください。ボンネットが開いて事故を起こすおそれがあります。
- エンジンスイッチからキーを抜いているときでも、冷却水の温度が高い場合にはエンジンファンなどが自動的に回転することがあります。エンジンファンなどの回転部分には身体や物を近付けないでください。
- エンジンを始動しているときやエンジンがかかっているとき、エンジンスイッチが2の位置のときは、エンジンルーム内には手を触れないでください。

  イグニッションシステムやキセノンヘッドランプ＊のバルブソケットや配線には、高電圧の発生部分や高温部分、回転している部分があり、それらに触れると非常に危険です。

ボンネットを開く

① ボンネットロック解除レバー

▶ 運転席側のインストルメントパネル下にあるボンネットロック解除レバー①を手前に引きます。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

ボンネット

② ロック解除ノブ

▶ ラジエターグリルから突き出したロック解除ノブ②を手前に引きながら、もう一方の手でボンネットを持ち、押し上げます。

注 意 !

- ワイパーアームを起こしたままボンネットを開かないでください。ボンネットとワイパーが接触し、損傷するおそれがあります。
- ボンネットを開くときは、ロック解除ノブだけを持って引き上げないでください。ロック解除ノブを損傷したり、グリルで手にけがをするおそれがあります。
- 強風のときにボンネットを開くと、風にあおられ、ボンネットが不意に下がるおそれがあります。風の強い日には十分に注意してください。
  また、ボンネットに雪が積もっているときも同様に注意してください。

ボンネットを閉じる

▶ ボンネットを引き下げ、矢印の位置に手を置いて、軽く反動をつけて閉じます。

完全に閉じなかったときは、もう一度ボンネットを開き、同じ方法で少し強めに閉じます。

警　告

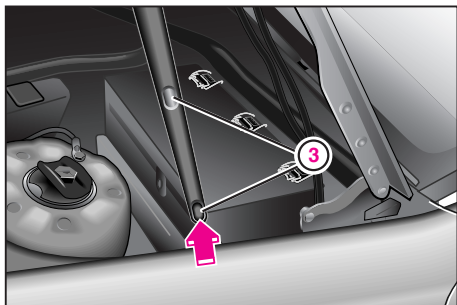
走行前に、ボンネットが確実にロックされていることを確認してください。走行中にボンネットが開いて事故を起こすおそれがあります。

注　意！

- ボンネットを閉じるときは、グリルの前に手をかけないでください。ボンネットがロックするときにロック解除ノブが突き出て、けがをするおそれがあります。
- ボンネットを閉じるとき、矢印以外の部分を押さえて閉じるとボンネットが凹むおそれがあります。また、閉じるときに身体を挟まないように注意してください。
- エンジンルーム内に物を置いたままボンネットを閉じると、ボンネットが変形するおそれがあります。

知　識

ボンネットが完全に閉じていない状態で走行すると、マルチファンクションディスプレイに警告マークが表示されます（10-5）。

ボンネットを垂直に開く

ボンネット左側
③ ロックボタン

垂直位置まで開く

▶ ボンネット左側支柱下部（矢印）にあるロックボタン③を押しながら、ボンネットを押し上げて垂直の位置にします。

ロックボタン③が支柱上部に移動し、ロックされます。

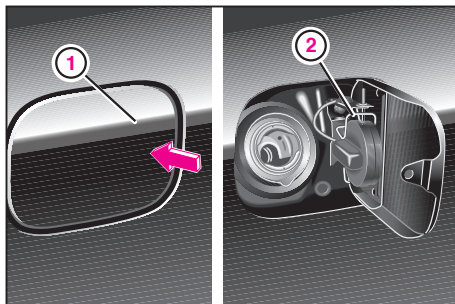
垂直位置から閉じる

▶ ボンネットを押し上げながら、支柱上部に移動したロックボタン③を押し、ロックを解除してボンネットを閉じます。

知　識

垂直に開いたボンネットは、支柱上部に移動したロックボタンを押さなくても通常の開く位置まで下げることはできますが、その位置から閉じることはできません。

一度、垂直に開き、ロックボタンを押しながら閉じてください。

燃料給油口

① 燃料給油フラップ
② ホルダー

燃料給油フラップを開く

▶ 燃料給油フラップ①の矢印の位置を押します。

キャップを外す

▶ キャップを反時計回りに少しゆるめて、タンク内の圧力を抜いてから外します。

▶ キャップを燃料給油フラップの裏側にあるホルダー②に差し込みます。

キャップを取り付ける

▶ キャップを時計回りにいっぱいにまわします。

燃料給油フラップを閉じる

▶ 燃料給油フラップを押します。

燃料給油口

警　告

- エンジンをかけたまま給油しないでください。火災が発生するおそれがあります。
- 周囲にガソリンがあるときやガソリンの匂いがするときは、決して火気を近付けないでください。火災が発生するおそれがあります。
- 肌や衣服にガソリンが付着しないように注意してください。ガソリンが肌に直接触れたり、気化したガソリンを吸い込むと、健康を害するおそれがあります。

注　意　!

- 燃料は無鉛プレミアムガソリンを使用してください(9-10)。
- 給油ノズルが最初に自動停止した時点で給油を停止してください。燃料を入れすぎるとエンジンが不調になったり、停止するおそれがあります。
- 燃料をこぼさないように注意してください。

  燃料が車の塗装面に付着したときは、すぐに拭き取ってください。塗装面を損傷するおそれがあります。

知　識

- 燃料給油フラップの裏側に、タイヤ空気圧ラベルが貼付してあります。タイヤ空気圧ラベルの見かたについては（8-17）をご覧ください。
- 燃料給油フラップは、リモコン操作での解錠 / 施錠に連動して解錠 / 施錠されます。

フラップが開かないとき

▶ フラップを手動で解錠することはできません。

▶ 車が解錠されているときにフラップが開かない場合は、すみやかに最寄りの指定サービス工場で点検を受けてください。

盗難防止警報システム＊

① 表示灯

盗難防止警報システムが待機状態のときに、ドア、テールゲートが開けられるかボンネットのロックが解除されると、サイレンと非常点滅灯による警報が作動します。

システムを待機状態にする

▶ リモコン操作で車を施錠します。

表示灯①が点滅し、約10秒後に待機状態になります。

システムが待機状態のときは、表示灯が点滅を続けます。

知 識

リモコン操作で施錠した後、エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠して開くと、警報が作動します。

注 意 ！

- システムを待機状態にするときはボンネットが確実に閉じていることを確認してください。ボンネットのロックが解除された状態でシステムを待機状態にしてボンネットが開けられても警報は作動しません。
- 待機状態のときに車内からドアやテールゲートを開いたり、ボンネットロック解除レバーでボンネットのロックを解除すると警報が作動します。車内に人がいるときは待機状態にしないでください。
- 待機状態にしても、表示灯①が点滅しない場合は、システムが故障しています。すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

システムの待機状態を解除する

▶ リモコン操作で解錠します。

警報の作動

システムが待機状態のとき、以下のような状況を感知すると警報が作動します。

- ドアが開けられたとき
- テールゲートが開けられたとき
- ボンネットのロックが解除されたとき

警報が作動すると、サイレンが約30秒間鳴り、非常点滅灯が通常の約2倍の速さで約5分間点滅します。また、ルームランプが約5分間点灯します。

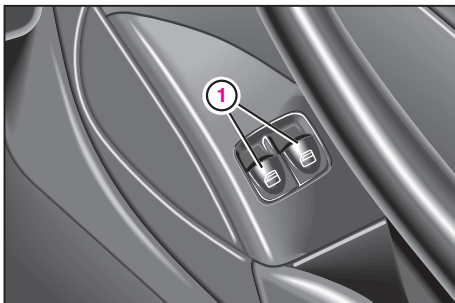
警報が作動したときの解除方法

▶ キーの🔓か🔒を押すか、エンジンスイッチにキーを差します。

知 識

ドア、テールゲートなどを開くか、ボンネットのロックを解除して警報が作動したときは、それらをすぐに閉じても、警報は解除されません。

パワーウインドウ

ドアウインドウの開閉

運転席ドア
① ドアウインドウスイッチ

ドアウインドウスイッチは運転席と助手席ドアにあります。

運転席ドアには、運転席と助手席のドアウインドウを開閉するスイッチがあります。

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに、ドアウインドウを開閉することができます。

ドアウインドウを開く

▶ スイッチ①を軽く押します。

押している間だけ開きます。

スイッチ①を深く押すと、自動で開きます。

ドアウインドウを閉じる

▶ スイッチ①を軽く引きます。

引いている間だけ閉じます。

スイッチ①をいっぱいに引くと、自動で閉じます。

知　識

- ドアウインドウが自動で開閉しているときに、スイッチを操作すると、その位置で停止します。
- ドアウインドウは、車外からリモコンで開閉することができます（3-9）。
- ドアウインドウには挟み込み防止機能があります。ドアウインドウが自動で閉じているときに挟み込みなどの抵抗があると、ドアウインドウがただちに停止し、その位置から少し下降します。
- 運転席のドアウインドウは、挟み込み防止機能が作動してから約5秒以内に再度閉じたときは挟み込みを感知しません。

注　意　！

- ドアウインドウを閉じるときは、身体や物が挟まれないように注意してください。挟まれそうになったときは、ただちにドアウインドウスイッチでドアウインドウを開いてください。
- ドアウインドウを開くときは、ドアウインドウに身体を寄りかけないでください。ドアウインドウとドアフレームとの間に身体が引き込まれて、けがをするおそれがあります。
- 挟み込み防止機能には、挟み込みを感知しない範囲があります。ドアウインドウを閉じるときは十分注意してください。

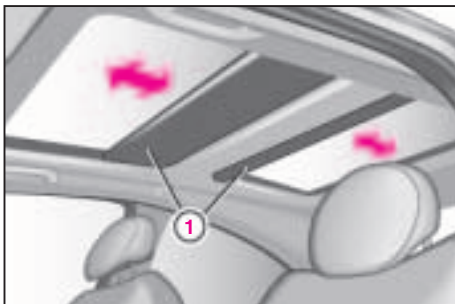
ドアウインドウが自動で開閉しないとき

バッテリーあがりやバッテリーの交換などで、一時的に電源が断たれたときは、ドアウインドウが自動で開閉できなくなることがあります。

このときは、スイッチを軽く引いて全閉にし、そのまま2秒以上保持してください。この操作を運転席と助手席のドアウインドウで行なってください。再び、ドアウインドウが自動で開閉できるようになります。

詳しくは指定サービス工場におたずねください。

電動サンシェード＊ / パノラミックスライディングルーフ＊

電動サンシェード

① 電動サンシェード

エンジンスイッチが1か2の位置のときに操作できます。

パノラミックスライディングルーフが閉じているときに開閉することができます。

知 識

電動サンシェード①は、車外からリモコン操作で開閉することができます（3-9）。

② 開く
③ 閉じる
④ チルトアップ
⑤ チルトダウン

電動サンシェードを開く

▶ ②の方向に軽く操作します。

操作している間だけ開きます。

②の方向に強く操作すると、自動で開きます。

電動サンシェードを閉じる

▶ ③の方向に操作します。

操作している間だけ閉じます。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

パノラミックスライディングルーフ

警　告

乗員全員がシートベルトを着用してください。シートベルトを着用していないと、車が横転したときにパノラミックスライディングルーフの開口部から車外に放り出されて、致命的なけがをするおそれがあります。

電動サンシェード①が開いているときに、パノラミックスライディングルーフを開閉することができます。

パノラミックスライディングルーフを開く

▶ ②の方向に軽く操作します。

操作している間だけ開きます。

②の方向に強く操作すると、自動で開きます。

パノラミックスライディングルーフを閉じる

▶ ③の方向に操作します。

操作している間だけ閉じます。

パノラミックスライディングルーフをチルトアップする

▶ ④の方向に押します。

押している間だけチルトアップします。

パノラミックスライディングルーフをチルトダウンする

▶ ⑤の方向に引きます。

引いている間だけチルトダウンします。

注　意　！

- 走行中はパノラミックスライディングルーフから身体を出さないでください。けがをするおそれがあります。
- パノラミックスライディングルーフを閉じるときは、身体や物が挟まれないように注意してください。特に子供には注意してください。
- パノラミックスライディングルーフに身体などが挟まれそうになったときは、パノラミックスライディングルーフスイッチを操作して、パノラミックスライディングルーフを開いてください。
- パノラミックスライディングルーフの開口部に腰をかけたり、荷物を載せたりして大きな力を加えないでください。パノラミックスライディングルーフを損傷するおそれがあります。

- 車から離れるときや洗車のときは、ドアウインドウとパノラミックスライディングルーフが完全に閉じていることを確認してください。
- パノラミックスライディングルーフの開口部から、物を出し入れしないでください。パノラミックスライディングルーフのシール部を損傷するおそれがあります。
- 降雨後や積雪後にパノラミックスライディングルーフを開くときは、ルーフ上の水や雪などを取り除いてください。車内に水や雪などが入るおそれがあります。
- パノラミックスライディングルーフ上に雪や氷が付いた状態で操作しないでください。パノラミックスライディングルーフを損傷するおそれがあります。

知 識

- パノラミックスライディングルーフは、車外からリモコンで開閉することができます (3-9)。
- パノラミックススライディングルーフが自動で開いているときに、パノラミックスライディングルーフスイッチを操作すると、その位置で停止します。
- エンジンスイッチを0の位置にしてから約5分間は、電動サンシェードとパノラミックスライディングルーフを操作することができます。約5分以内にドアを開くと、電動サンシェードとパノラミックスライディングルーフの操作はできなくなります。
- パノラミックスライディングルーフを開いて走行しているとき、走行風の影響などで空気の振動を感じる場合は、パノラミックスライディングルーフの開度を変えるかドアウインドウを少し開くと、解消することがあります。
- パノラミックスライディングルーフが自動で開かないときは、パノラミックスライディングルーフをリセットしてください (3-50)。

電動サンシェード / パノラミックスライディングルーフ

スイッチで閉じないとき

バッテリーあがりを起こしたり、電動サンシェード / パノラミックスライディングルーフが故障してスイッチで閉じることができないときは、手動で閉じることができます。

注 意 !

手動で閉じるときは、電動サンシェード / パノラミックスライディングルーフスイッチに触れないでください。万一、電動サンシェード / パノラミックスライディングルーフが作動するとけがをするおそれがあります。

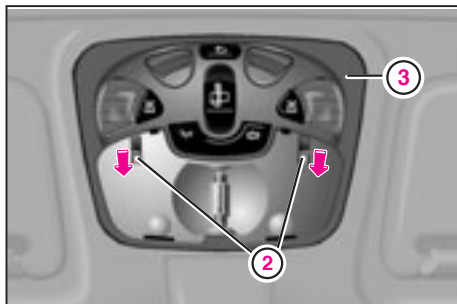
知 識

バッテリーがあがっていないにもかかわらず、電動サンシェード / パノラミックスライディングルーフが動かないときは、ヒューズ切れが考えられます。該当ヒューズを点検してください。

① 凹部

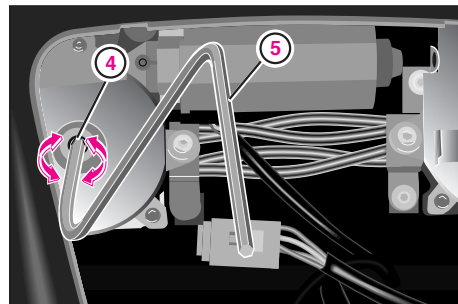
- ▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。
- ▶ ドアを開きます。
- ▶ 付属のクランクレンチと、ドライバーなどを用意します。
- ▶ ルームランプレンズ中央にある凹部①にドライバーなどを差し込み、レンズを引き起こして取り外します。

知 識

ドライバーなどの先端を布切れなどで覆うと、レンズやルーフ内張りの損傷を防ぐことができます。

② ノブ
③ ルームランプユニット

▶ 左右のノブ②を押してルームランプユニット③を取り外します。

注 意 !

ランプは取り外さないでください。

④ 手動駆動部（六角レンチ）
⑤ クランクレンチ

▶ クランクレンチ⑤を手動駆動部（六角ボルト）④に確実に差し込んでクランクレンチをまわします。

パノラミックスライディングルーフを閉じる

▶ 時計回り（右）にまわします。

チルトダウンする

▶ 時計回り（右）にまわします。

注 意 !

- クランクレンチは止まるまで奥に差し込み、操作時は片手で手動駆動部に押し付けるようにしながらゆっくりとまわしてください。確実に差し込まれていないと、手動駆動部を損傷したり、けがをすることがあります。また、無理にまわすと、手動駆動部を損傷するおそれがあります。
- クランクレンチで容易に手動駆動部がまわせないときは、パノラミックスライディングルーフのレール部分に異物がかみ込んでいることがあります。無理に動かさずに、異物を取り除くか、指定サービス工場で点検を受けてください。

パノラミックスライディングルーフのリセット

以下のときは、パノラミックスライディングルーフが自動で開かないことがあります。パノラミックスライディングルーフのリセットを行なってください。

- バッテリーあがりやバッテリー交換などで電源が断たれたとき
- パノラミックスライディングルーフを手動で閉じたとき
- パノラミックスライディングルーフがスムーズに作動しないとき
- パノラミックスライディングルーフを修理したとき

パノラミックスライディングルーフをリセットする

▶ エンジンスイッチを**2**の位置にします。

▶ スイッチを③の方向に押して、電動サンシェードを全閉し、そのまま数秒間保持します。

▶ スイッチを②の方向に押して、サンシェードを全開し、そのまま数秒間保持します。

▶ 再度スイッチを②の方向に押して、パノラミックスライディングルーフが約10cm開いた状態でスイッチから手を放します。

▶ スイッチを③の方向に押して、パノラミックスライディングルーフを全閉し、そのまま数秒間保持します。

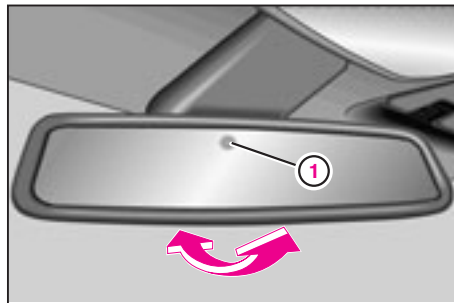
▶ パノラミックスライディングルーフが自動で開くことを確認します。

自動で開かないときは、再度リセット操作を行なってください。

ルームミラー

警　告

ミラー類は必ず走行前に、後方が十分に確保できるように調整してください。走行中に調整すると、事故を起こすおそれがあります。

ルームミラーの調整

① センサー

※ 車種や仕様により、ルームミラーの形状やセンサー①の位置が異なります。

ルームミラーを調整する

▶ 手でルームミラーの角度を調整します。

注　意　！

ドアミラーには死角があります。車線変更をするときは、ルームミラーで後方を確認するだけでなく、必ず肩ごしに直接斜め後方を確認してください。

ルームミラー

自動防眩機能

周囲が暗く、エンジンスイッチが1か2の位置のとき、ルームミラーのセンサー①が後続車のライトを感知すると、自動的にルームミラーの色の濃度が変わり眩しさを防止します。

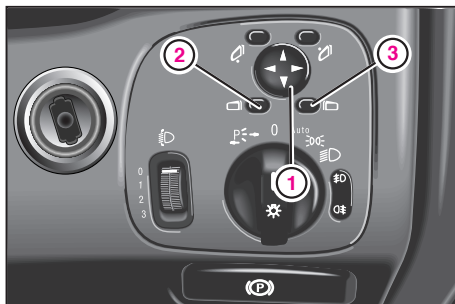
知 識

- ルームミラーのセンサーに後方からのライトが当たらないときは自動防眩機能は作動しないことがあります。
- セレクターレバーがRに入っているときやフロントルームランプが点灯しているときは自動防眩機能が解除されます。
- ルームミラーと連動して運転席側のドアミラーも防眩になります。

注 意 !

- ミラーのガラスが破損すると、液体が漏れ出すことがあります。この液体は物を腐食させる性質がありますので、皮膚や目に直接触れないよう注意してください。
- 万一、液体が目に入ったときや皮膚に付いたときは、ただちに清潔な水で十分洗い流し、医師の診断を受けてください。
- 液体が車の塗装面に垂れたときは、ただちに水で湿らせた布などで拭き取ってください。塗装面を損傷するおそれがあります。
- ルームミラーの汚れを取るときにガラスクリーナーを使用する場合は、必ず指定サービス工場に相談してください。ガラスクリーナーによっては、ルームミラーが変色するおそれがあります。

ドアミラー

ドアミラーの角度調整

① 調整スイッチ
② 助手席側ドアミラー選択ボタン
③ 運転席側ドアミラー選択ボタン

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに調整できます。

ドアミラーの角度を調整する

▶ 調整したい側のドアミラー選択ボタン②または③を押します。

▶ 調整スイッチ①を操作してドアミラーの角度を調整します。

警　告

ミラー類は必ず走行前に、後方が十分確認できるように調整してください。走行中に調整すると、事故を起こすおそれがあります。

知　識

- ドアミラーにはヒーターが装着されています。外気温度が下がると自動的に温められ、凍結を防ぎます。
- 運転席側ドアミラーは、ルームミラーに連動して防眩になります(3-52)。

3

注　意　！

- ドアミラーに写った像は実際よりも遠くにあるように見えます。ドアミラーで後方を確認するときは十分注意してください。
- ドアミラーには死角があります。車線変更をするときは、ルームミラーでも後方を確認し、肩ごしに直接斜め後方を確認してください。
- ドアミラーは車体の側面から突き出ています。すれ違いや車庫入れのとき、また、歩行者などに十分注意してください。
- ドアミラーの汚れを取るときにガラスクリーナーを使用する場合は、必ず指定サービス工場にご相談ください。ガラスクリーナーによっては、ドアミラーが変色するおそれがあります。

ドアミラーの格納 / 展開

④ 格納スイッチ
⑤ 展開スイッチ

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに操作することができます。

ドアミラーを格納する

▶ 格納スイッチ④を押します。

ドアミラーを展開する

▶ 展開スイッチ⑤を押します。

注　意　！

- ドアミラーは手で格納したり、展開しないでください。ドアミラーを損傷するおそれがあります。
- 走行するときはドアミラーを走行時の位置にしてください。
- ドアミラーを格納 / 展開しているときは、身体や物が挟まれないように注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。
- 洗車機を使用するときはドアミラーを格納してください。ドアミラーを損傷するおそれがあります。
- 走行時はドアミラーが完全に展開していることを確認してください。後方視界が確保できなくなるおそれがあります。

ステアリング

警　告

- ステアリング位置は、必ず走行前に調整してください。走行中に調整すると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- 運転中はステアリングのパッド部を持たないでください。万一のとき、エアバッグの作動を妨げるおそれがあります。
- ステアリングのパッド部にカバーをしたり、エアバッグの上にバッジ、ステッカー、オーディオのリモコンなどを貼り付けないでください。エアバッグの作動を妨げたり、作動時にけがをするおそれがあります。

注　意　!

- ステアリングをいっぱいに切った状態を長く保持しないでください。ステアリング装置を損傷するおそれがあります。
- 故障などでエンジンを停止してけん引するときは、十分注意してください。エンジンが停止していると、通常のときに比べてステアリング操作に非常に大きな力が必要です。

ステアリング位置の調整

① ロック解除ハンドル

▶ ステアリング下のロック解除ハンドル①を手前に引きます。

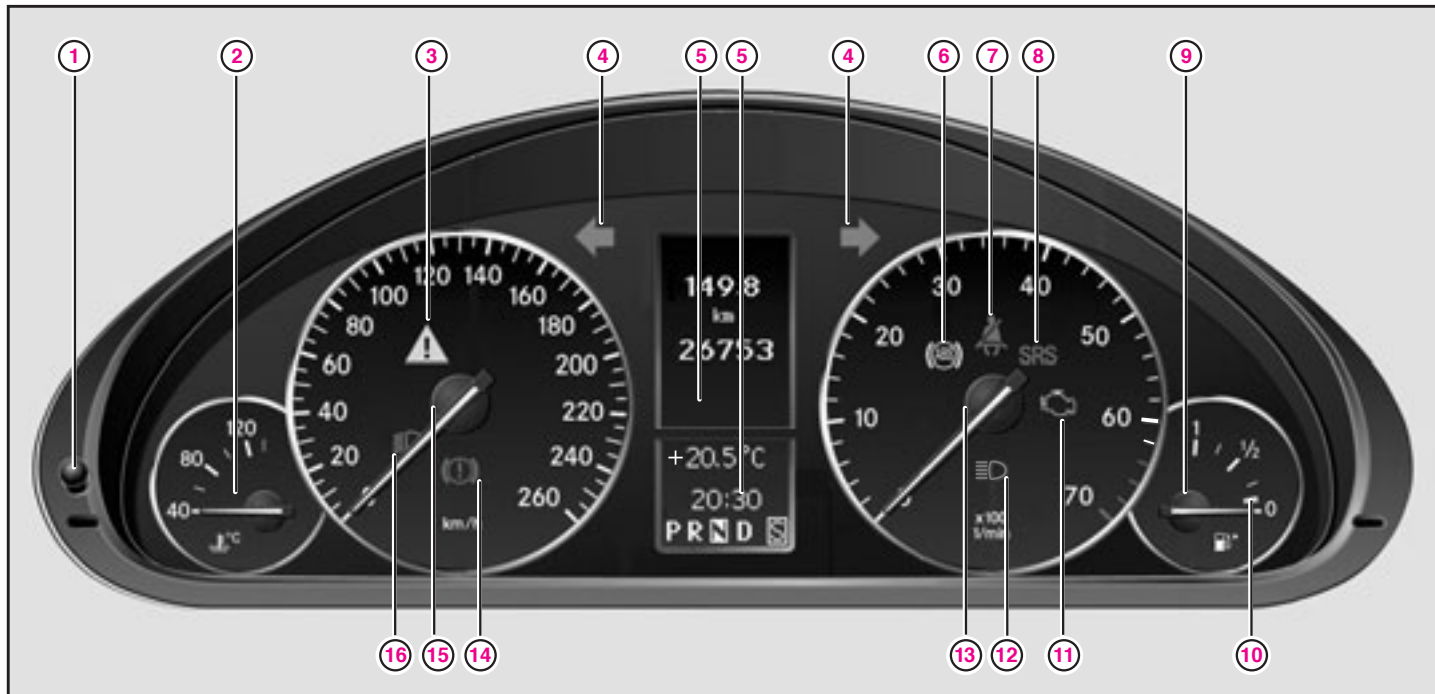
▶ ステアリングを前後上下に動かして正しい位置に調整します。

▶ ロック解除ハンドル①を前方に押して固定します。

調整後は、ステアリングが確実に固定されていることを確認してください。

メーターパネル

メーターパネル

各部の名称

① メーター照度調整ノブ / リセットボタン

メーターの照度を調整する

周囲が暗いときに明るさを調節できます。

▶ ノブ①を時計回りにまわすと明るくなります。

▶ ノブ①を反時計回りにまわすと暗くなります。

トリップメーターや各種設定をリセットする

▶ ボタン①を押します。

詳しくは**（4-5、15）**をご覧ください。

② エンジン冷却水 水温計

エンジン冷却水の温度を表示します。

知 識

- 指定の冷却水を適切な混合比で使用しているときは、約120℃まではオーバーヒートは起こしません。
- 暑い日や上り坂が続くときなどに、120℃付近を示すことがありますが、マルチファンクションディスプレイに冷却水に関する故障 / 警告メッセージ**（10-7）**が表示されない限り、問題ありません。

③ ESP表示灯

エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し（点灯しないときは表示灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

走行中は以下のときに点灯 / 点滅します。

- ESPの機能を解除したときに点灯します。
- ESPが作動したときに点滅します。

エンジンスイッチを**2**の位置にしても点灯しないときは、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

詳しくは**（5-38）**をご覧ください。

知 識

ESPの機能を解除しているときにタイヤの空転や横滑りを感知すると、ESP表示灯が点滅しますがESPは作動しません。

④ 方向指示表示灯

方向指示灯、非常点滅灯を作動させたときに点滅します。

詳しくは **(5-27、28)** をご覧ください。

⑤ マルチファンクションディスプレイ

各種設定画面や故障 / 警告メッセージなどを表示します。

マルチファンクションディスプレイは以下のときに点灯します。

- 運転席のドアを開いたとき（約30秒後に消灯）
- エンジンスイッチを**1**か**2**の位置にしたとき
- リセットボタンを押したとき（約30秒後に消灯）
- 車外ランプを点灯したとき
- リモコン操作で解錠してロケイターライティング **（3-11）** が作動したとき（約30秒後に消灯）

詳しくは **（4-1～）** をご覧ください。

⑥ ABS警告灯

エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し、エンジン始動後に消灯します。

点灯しないときやエンジン始動後に消灯しないとき、走行中に点灯したときはABSに異常があります。通常のブレーキ時の制動力は確保されますが、ABS、BAS、ESPは作動しません。

いつもより慎重に運転し、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

詳しくは **（5-35）** をご覧ください。

注 意 !

ABS警告灯が点灯したときはESP、BASも作動を停止します。指定サービス工場で点検を受けてください。

⑦ シートベルト警告灯

エンジンスイッチを2の位置にすると点灯し、数秒後に消灯します。

また、運転席の乗員がシートベルトを装着していないときは、数秒間警告音が鳴ります。

エンジンスイッチを2の位置にしても点灯しないときは、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

詳しくは（2-9）をご覧ください。

⑧ エアバッグシステム警告灯

SRS

エンジンスイッチを1の位置にすると数秒間点灯します。また2の位置にすると点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

消灯しなかったり、走行中に点灯したときは、エアバッグシステムやシートベルトテンショナー、助手席の乗員検知機能の故障が考えられます。ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

詳しくは（2-11）をご覧ください。

⑨ 燃料計

燃料の残量を表示します。

燃料タンク容量は約62リットルです。

注　意　！

給油のときはエンジンを停止してください。

⑩ 燃料残量警告灯

燃料の残量が少なくなると点灯します。

警告灯が点灯したときの残量は約8リットルです。

知　識

走行前に燃料の残量が十分あることを確認してください。高速道路や自動車専用道路などでの燃料切れは道路交通法違反になります。

⑪ エンジン警告灯

エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

消灯しなかったり、走行中に点灯したときは、エンジンの制御システムに異常があります。ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

詳しくは**（10-9）**でご覧ください。

知　識

エンジン警告灯が点灯するとエンジンがエマージェンシーモードになることがあります。

エマージェンシーモードではエンジンの回転数が制限され、アクセルペダルを踏んでもエンジンの回転が上昇しなくなります。この場合、低速で走行できることもありますが、ただちに安全な場所に停車して、指定サービス工場に連絡してください。

⑫ ハイビーム表示灯

ヘッドランプを上向きで点灯したときに点灯します。

詳しくは**（5-24）**をご覧ください。

⑬ タコメーター

1分間あたりのエンジン回転数を表示します。

注 意 !

指針がレッドゾーン（赤色表示部）に入らないように運転してください。エンジンを損傷するおそれがあります。

知 識

エンジン回転数がレッドゾーンに入るとエンジンを保護するため、一時的に燃料の供給を停止します。このとき、軽い振動があったりアクセルペダルを踏んでも加速しなくなりますが、異常ではありません。

⑭ ブレーキ警告灯

エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

また以下のようなときに点灯します。

- ブレーキ液が不足しているとき
- パーキングブレーキを解除していないとき

注 意 !

- ブレーキ液が不足して点灯したときはブレーキシステムに漏れがあることが考えられます。安全な場所に停車して、指定サービス工場に連絡してください。
- パーキングブレーキを解除しても消灯しないときは、ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

⑮ スピードメーター

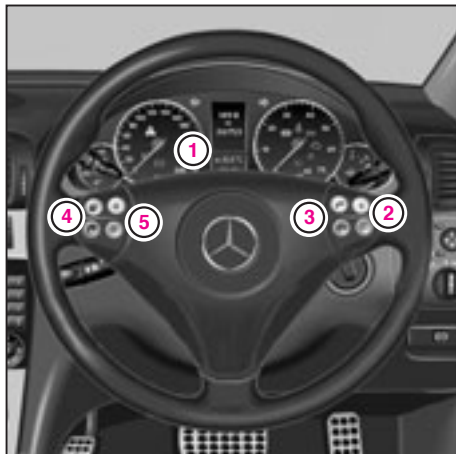
車の走行速度を表示します。

⑯ ヘッドランプ表示灯

ヘッドランプが点灯したときに点灯します。

詳しくは（**5-21**）をご覧ください。

ステアリングスイッチ

ステアリングスイッチ

	名称
①	マルチファンクションディスプレイ
②	設定スイッチ / 音量スイッチ ＋ － サブ画面表示中に、設定項目を選択したり、機能のオン / オフを選択します。 各メイン画面とオーディオ画面表示中に操作すると、音量を調節できます。
③	通話開始 / 終了スイッチ（電話） 電話を受信 / 切断することができます。
④	表示切り替えスイッチ メイン画面を選択します。
⑤	スクロールスイッチ 選択したメイン画面内のサブ画面を切り替えます。

※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

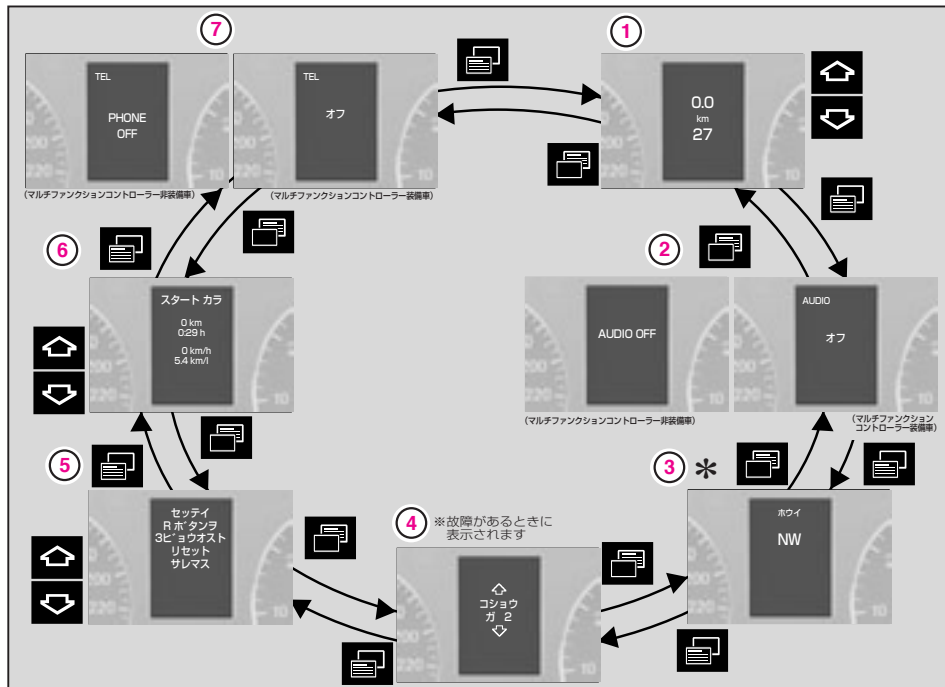
警　告

マルチファンクションディスプレイを操作するときは、常に周囲の状況に注意してください。

注　意　！

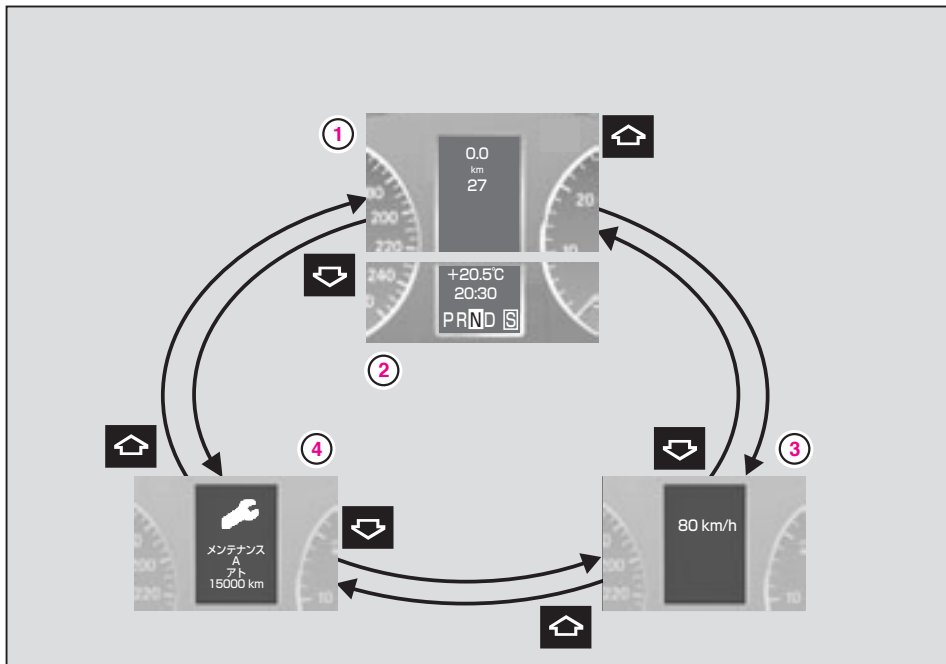
走行中にステアリングのスイッチを操作するときは、直進時に行なってください。ステアリングをまわしながらスイッチを操作すると、事故を起こすおそれがあります。

※ 電話の操作については、別冊「Audio 20 取扱説明書」または「マルチファンクションコントローラー 取扱説明書」をお読みください。

メイン画面一覧

※マルチファンクションディスプレイに表示されるメッセージや表記などは、仕様・装備により異なることがあります。また、予告なく変更される場合があります。

マルチファンクションディスプレイでは、車の情報や故障の表示および各種の設定をすることができます。

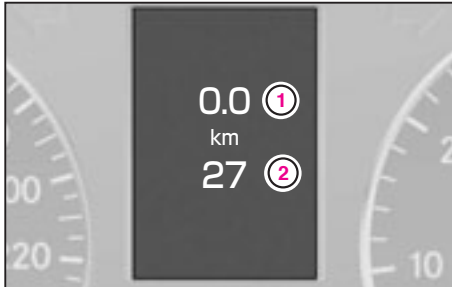
以下のように主要な機能が7種類あります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

車両情報

車両情報

①	車両情報メイン画面 （トリップメーター / オドメーター）
②	車両情報サブ画面 （外気温度表示 / 走行速度表示 / 時計表示 / 可変スピードリミッター表示 / シフト位置表示 / ギアレンジ表示 / 走行モード表示 ）
③	走行速度 / 外気温度表示画面
④	メンテナンスインジケーター画面

※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

車両情報メイン画面（トリップメーター / オドメーター）

① トリップメーター
② オドメーター

車両情報メイン画面を表示させる

▶ または を押して、車両情報メイン画面を表示させます。

トリップメーター

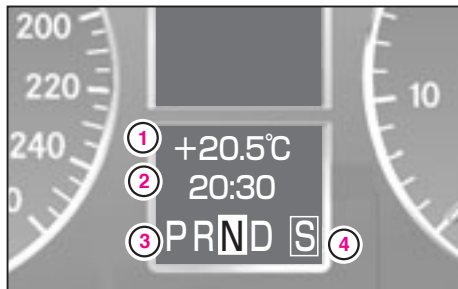
リセット後の走行距離を表示します。

オドメーター

これまでに走行した距離の総合計を表示します。

トリップメーターをリセットする（0.0に戻す）

▶ リセットボタン（3-58）を、表示が0.0になるまで押し続けます。

※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

車両情報サブ画面

① 外気温度表示 / 走行速度表示
② 時計表示 / 可変スピードリミッターの設定速度表示
③ シフト位置表示 / ギアレンジ表示
④ 走行モード表示

外気温度表示 / 走行速度表示

外気温度または走行速度を表示します。

表示の切り替えは各種設定の "メーター" の "車両情報サブ画面の表示設定画面"(4-18)で行ないます。

時計表示 / 可変スピードリミッターの設定速度表示

時刻または可変スピードリミッターで設定した速度を表示します。

シフト位置表示 / ギアレンジ表示

オートマチックトランスミッションのシフト位置(5-6)、またはティップシフト(5-9)にしたときのギアレンジを表示します。

走行モード表示

オートマチックトランスミッションの走行モードを表示します(5-7)。

※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

警　告

温度表示が0℃以上でも、路面が凍結していることがあります。走行には十分注意してください。

注　意 !

外気温度の上昇や下降は、少し遅れて表示に反映されます。

知　識

- 外気温度をフロントバンパー付近で測定しているため、温度表示は路面からの輻射熱などの影響を受けます。したがって、温度表示が実際の外気温度と異なることがあります。
- マルチファンクションコントローラー装備車は、時刻表示を自動的に連動させることができます(4-19)。
- 可変スピードリミッターについては(5-46)をご覧ください。

走行速度 / 外気温度表示画面

① 走行速度 / 外気温度表示
② 時計表示

走行速度 / 外気温度表示①は、走行速度または外気温度を表示します。

表示の切り替えは各種設定の "メーター" の "車両情報サブ画面の表示設定画面" **(4-18)** で行ないます。

走行速度 / 外気温度表示画面を表示させる

▶ または を押して、車両情報メイン画面を表示させます **(4-5)**。

▶ または を押して、走行速度 / 外気温度表示画面を表示させます。

知 識

- 各種設定の "メーター" の "車両情報サブ画面の表示設定画面" **(4-18)** で "ガイキオン" を選択すると、この画面は走行速度表示になります。

  "車両情報サブ画面の表示設定画面" で "ソクド" を選択すると、この画面は外気温度表示になります。

- 車両情報サブ画面に可変スピードリミッターの設定速度が表示されているときは、走行速度 / 外気温度表示①の下に時計表示②が表示されます。

- 走行速度の表示単位をkm/h表示またはmph表示に切り替えることができます **(4-17)**。

メンテナンスインジケーター画面

走行距離や経過時間などに応じて、メーカー指定点検整備の実施時期を表示します。

メンテナンスインジケーター画面が表示されたときは、メーカー指定点検整備を行なってください。

自動表示機能

次のメーカー指定点検整備の約10日前か約1,000km前になると、エンジンスイッチを**2**の位置にしたときや走行中に、メンテナンスインジケーター画面が自動的に表示されます。

画面は数秒後に表示前の画面に戻ります。

表示中に画面を戻すときは、リセットボタンを押します。

手動で表示する

▶ エンジンスイッチを**1**か**2**の位置にします。

▶ またはを押して、車両情報メイン画面を表示させます（**4-5**）。

▶ またはを押して、メンテナンスインジケーター画面を表示させます。

表示メッセージ

表示メッセージは、日頃の運転スタイルなどに応じて以下のように変化します。

点検実施前

“ﾒﾝﾃﾅﾝｽ A ｱﾄ XX ﾆﾁ”

“ﾒﾝﾃﾅﾝｽ B ｱﾄ XX ﾆﾁ”

“ﾒﾝﾃﾅﾝｽ A ｱﾄ XX km”

“ﾒﾝﾃﾅﾝｽ B ｱﾄ XX km”

点検実施時期になったとき

“ﾒﾝﾃﾅﾝｽ A ｼﾞｯｺｳ”

“ﾒﾝﾃﾅﾝｽ B ｼﾞｯｺｳ”

実施時期を過ぎたとき

点検実施時期を過ぎたときは、以下のメッセージが表示され、警告音が鳴ります。

“ﾒﾝﾃﾅﾝｽ A XX ﾆﾁ ｷｹﾞﾝ ｺｴﾃｲﾏｽ”

“ﾒﾝﾃﾅﾝｽ B XX ﾆﾁ ｷｹﾞﾝ ｺｴﾃｲﾏｽ”

“ﾒﾝﾃﾅﾝｽ A XX km ｷｹﾞﾝ ｺｴﾃｲﾏｽ”

“ﾒﾝﾃﾅﾝｽ B XX km ｷｹﾞﾝ ｺｴﾃｲﾏｽ”

※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

注 意！

- メンテナンスインジケーターは、エンジンオイル量表示やエンジンオイル量の警告表示ではありません。
- メーカー指定点検整備を指定の時期までに行なわなかった場合は、保証などの対象外になることがあります。

知 識

- "ﾒﾝﾃﾅﾝｽ A" "ﾒﾝﾃﾅﾝｽ B" は、次回のメーカー指定点検整備の内容を示すもので、どちらが表示されるかは日頃の運転スタイルや走行距離などにより異なります。詳しくは整備手帳をご覧ください。
- メンテナンスインジケーター画面が自動的に表示される時期は一定ではなく、運転スタイルや走行距離などにより異なります。

  エンジン回転数を適度に保ち、短距離短時間の運転を避けると、次のメーカー指定点検整備の実施時期までの走行距離が伸びることがあります。
- バッテリーの接続を外している間の経過日数は、加算されません。

メンテナンスインジケーターのリセット

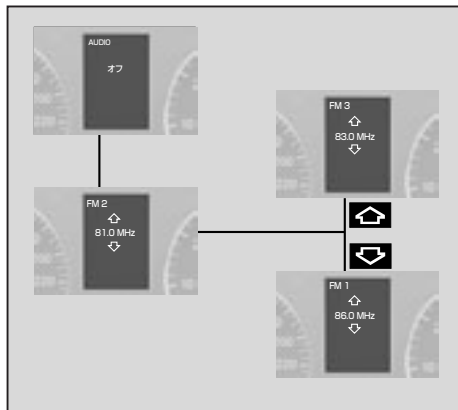
メーカー指定点検整備後に、指定サービス工場でメンテナンスインジケーターをリセットしてください。

リセット後、次回メーカー指定点検整備までの基本サイクルは、走行距離では15,000km、日数では365日に設定されます。いずれか先に達する距離または時期を次回のメーカー指定点検整備時期として表示します。

注 意！

メンテナンスインジケーターの表示などに異常があるときは、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

オーディオ / ナビゲーション・進行方向方位表示

オーディオ

オーディオ（ラジオ、ＣＤなど）の使用時にそれぞれの情報を表示します。

オーディオのメイン画面を表示させる

▶ または を押して、オーディオのメイン画面を表示させます。

オーディオのメイン画面表示中に、 または を押すと、ラジオの選局やCDの選曲などができます。

音量調節

▶ ＋または－を押すと、音量を調節できます。

知　識

装備されているオーディオによって、表示内容が異なることがあります。

※ 詳細については、別冊「Audio 20 取扱説明書」または「マルチファンクションコントローラー 取扱説明書」をお読みください。

ナビゲーション・進行方向方位表示＊

マルチファンクションコントローラー＊のナビゲーション機能で目的地を設定したときに、ルート案内をマルチファンクションディスプレイに表示できます。

ルート案内を行なっていないときは、進行方向の方位が表示されます。

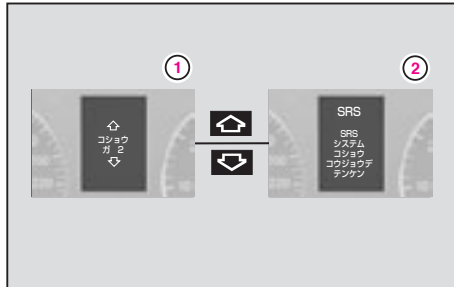
ナビゲーション・進行方向方位表示画面を表示させる

▶ または を押して、ナビゲーション・進行方向方位表示画面を表示させます。

※ 詳細については、別冊「マルチファンクションコントローラー 取扱説明書」をお読みください。

※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

故障表示

①	故障件数画面 （この例では、2件故障があります）
②	故障メッセージ画面の例

故障や異常が起きたとき、車の状況をメッセージで表示します。

知　識

故障がないときは、故障表示画面は表示されません。

自動表示機能

走行中に故障が起きたときは、故障メッセージ画面が自動的に表示されます。

画面を切り替えるときは ⇧ または ⇩ を押します。

※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

故障メッセージを手動で確認する

エンジンスイッチが1か2の位置のときに表示されます。

▶ [ボタン]または[ボタン]を押して、故障件数画面①を表示させます。

故障件数が数字で表示されます。

▶ [▲]または[▼]を押して、故障メッセージ画面②を順番に表示させます。すべて表示されると、故障件数画面①に戻ります。

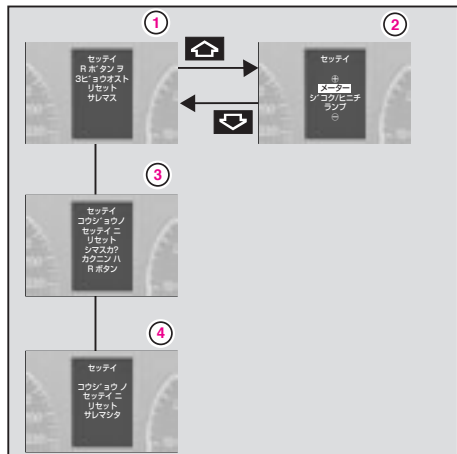
故障表示のリセット

マルチファンクションディスプレイに故障メッセージが表示されているときは、エンジンスイッチを0の位置にすると、故障メッセージの表示が消えます。

ただし、故障状況が変わらない場合は、次にエンジンスイッチを1か2の位置にするか、エンジンを始動したとき、再び故障メッセージが表示されます。

注 意 !

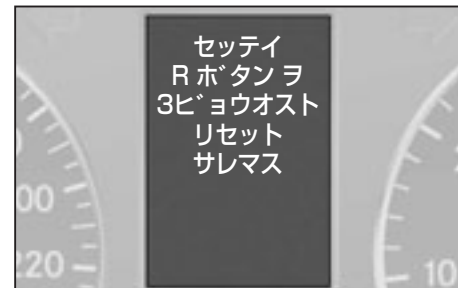
- 表示される故障や不具合は一部の限られた装備についてであり、表示される内容も限られています。故障や異常の表示は運転者を支援するものです。発生した故障に対処して車の安全性を確保する責任は運転者にあります。
- 故障メッセージが表示されたときは、必ず指定サービス工場で点検を受けてください。
- 表示される故障メッセージについては（10-3～）をご覧ください。

※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

各種設定

①	各種設定メイン画面	4-13
②	設定グループ選択画面	4-14
③	各種設定項目の初期化画面	4-15
④	各種設定項目の初期化完了画面	4-15

注　意　！

走行中でも設定を変更することができますが、安全のため、必ず停車中に操作してください。

各種設定メイン画面

各種設定メイン画面を表示させる

▶ またはを押して、各種設定メイン画面を表示させます。

※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

設定グループ選択画面

設定グループ選択画面を表示させる

▶ 各種設定メイン画面表示中に ⇧ を押して、設定グループ選択画面を表示させます。

設定グループを選択する

▶ ＋ または － を押して、設定グループを選択します。

▶ 選択したグループ名を確認して、⇧ を押すと、選択したグループ内の最初の設定項目画面が表示されます。

設定項目画面を選択する

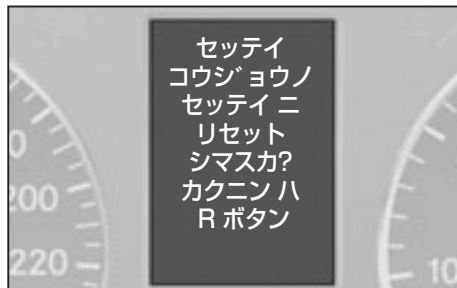
選択した設定項目画面の数値や設定を変更できます。

▶ ⇧ または ⇩ を押して、設定項目画面を選択します。

▶ ＋ または － を押して、設定項目を選択したり、機能のオン / オフを選択します。

選択した設定が記憶されます。

※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

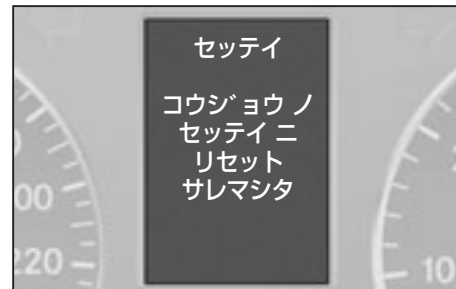
各種設定項目の初期化

各種設定項目の初期化画面

各種設定のすべての項目を工場出荷時の設定に初期化する（戻す）ことができます。

各種設定項目を初期化する

▶ ▭または▭を押して、各種設定メイン画面を表示させます（4-13）。

▶ リセットボタン（3-58）を約3秒間押し続けます。

左記の初期化画面が表示されます。

各種設定項目の初期化完了画面

▶ 初期化画面の表示中（約5秒以内）に、再度リセットボタンを押します。

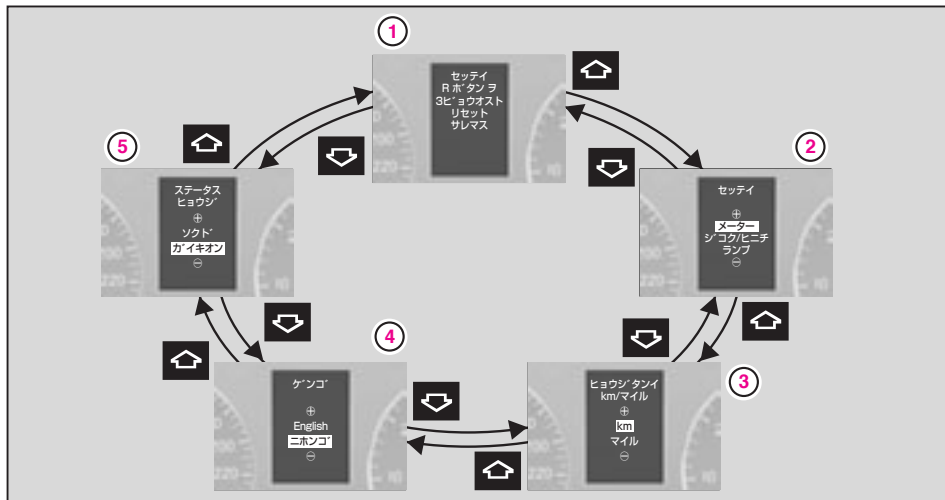
初期化を実行し、上記の初期化完了画面が表示されます。

知　識

- 初期化画面が表示されてから約5秒間リセットボタンを押さずにいると、各種設定メイン画面に切り替わります。
- 走行中にリセット操作をしたときは、安全のため、初期化されない項目があります。

※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

各種設定

メーター

※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

設定グループ選択画面を表示させる

▶ [ ]または[ ]を押して、各種設定メイン画面を表示させます（4-13）。

▶ 各種設定メイン画面①表示中に[⇧]を押して、設定グループ選択画面②を表示させます。

設定グループを選択する

▶ [＋]または[－]を押して、メーターを選択します。

▶ [⇧]を押します。

メーターの最初の設定項目画面が表示されます。

速度・距離単位設定画面

マルチファンクションディスプレイの速度と走行距離の表示単位の設定ができます。

▶ [＋]または[－]を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
km	表示がkm/h、kmになります。
ﾏｲﾙ	表示がmph、ﾏｲﾙ/miになります。

注　意　！

1マイル（mph）は約1.6km/hです。マルチファンクションディスプレイの表示単位がマイル表示になっていると、誤って速度を超過するおそれがあります。必ずkm（km/h）表示を選択してください。

※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

ディスプレイ言語設定画面

ディスプレイに表示する言語の設定ができます。

▶ ＋または－を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
English	英語表示になります。
ﾆﾎﾝｺﾞ	日本語表示になります。

車両情報サブ画面の表示設定画面

車両情報サブ画面（4-6）に表示される項目の設定ができます。

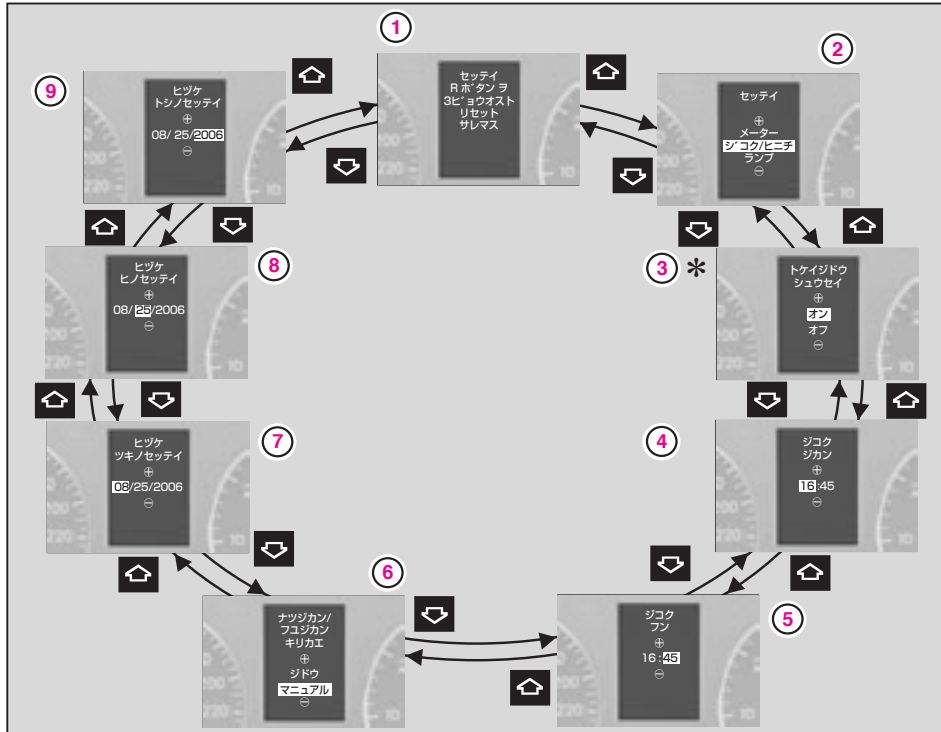
▶ ＋または－を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
ｿｸﾄﾞ	車両情報サブ画面の表示が走行速度になります。
ｶﾞｲｷｵﾝ	車両情報サブ画面の表示が外気温度になります。

知　識

車両情報サブ画面の表示を設定すると、走行速度 / 外気温度表示画面（4-7）の表示も切り替わります。

※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

ジコク / ヒニチ

①	各種設定メイン画面	4-13
②	設定グループ選択画面	4-14
③	時刻の設定方法選択画面＊	4-20
④	時刻の設定画面（時）	4-21
⑤	時刻の設定画面（分）	4-21
⑥	夏時間 / 冬時間設定画面	4-21
⑦	日付の設定画面（月）	4-22
⑧	日付の設定画面（日）	4-22
⑨	日付の設定画面（年）	4-22

※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

設定グループ選択画面を表示させる

▶ [◫]または[◫]を押して、各種設定メイン画面を表示させます（4-13）。

▶ 各種設定メイン画面①表示中に[⌂]を押して、設定グループ選択画面②を表示させます。

設定グループを選択する

▶ [＋]または[－]を押して、ジコク / ヒニチを選択します。

▶ [⌂]を押します。

ジコク / ヒニチの最初の設定項目画面が表示されます。

時刻の設定方法選択画面＊

マルチファンクションディスプレイの時刻表示をマルチファンクションコントローラー＊の時刻に連動させることができます。

▶ [＋]または[－]を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	マルチファンクションディスプレイの時刻表示がマルチファンクションコントローラーの時刻に連動します。
オフ	マルチファンクションディスプレイの時刻表示などを手動で設定します（画面④～⑨）。

知　識

オンを選択した場合、画面④～⑨は表示されません。

※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。
＊オプションまたは仕様により装備が異なります

時刻の設定画面（時）

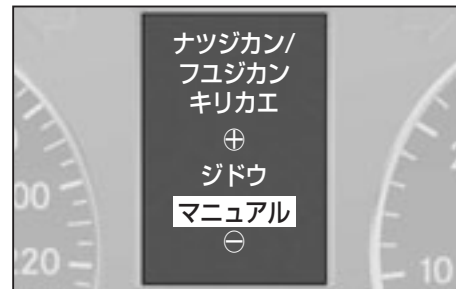
マルチファンクションディスプレイの時刻表示の「時間」を設定します。

▶ ＋ または － を押して、反転部分の数字を修正します。

時刻の設定画面（分）

マルチファンクションディスプレイの時刻表示の「分」を設定します。

▶ ＋ または － を押して、反転部分の数字を修正します。

夏時間 / 冬時間設定画面

マルチファンクションディスプレイの時刻表示を夏時間 / 冬時間に連動する設定にすることができます。

▶ ＋ または － を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
ｼﾞﾄﾞｳ	時刻が夏時間 / 冬時間に連動します。
ﾏﾆｭｱﾙ	日本ではこのモードを選択してください。 夏時間 / 冬時間を手動で設定します。

※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

日付の設定画面（月）

日付の「月」を設定します。

▶ ＋または－を押して、反転部分の数字を修正します。

日付の設定画面（日）

日付の「日」を設定します。

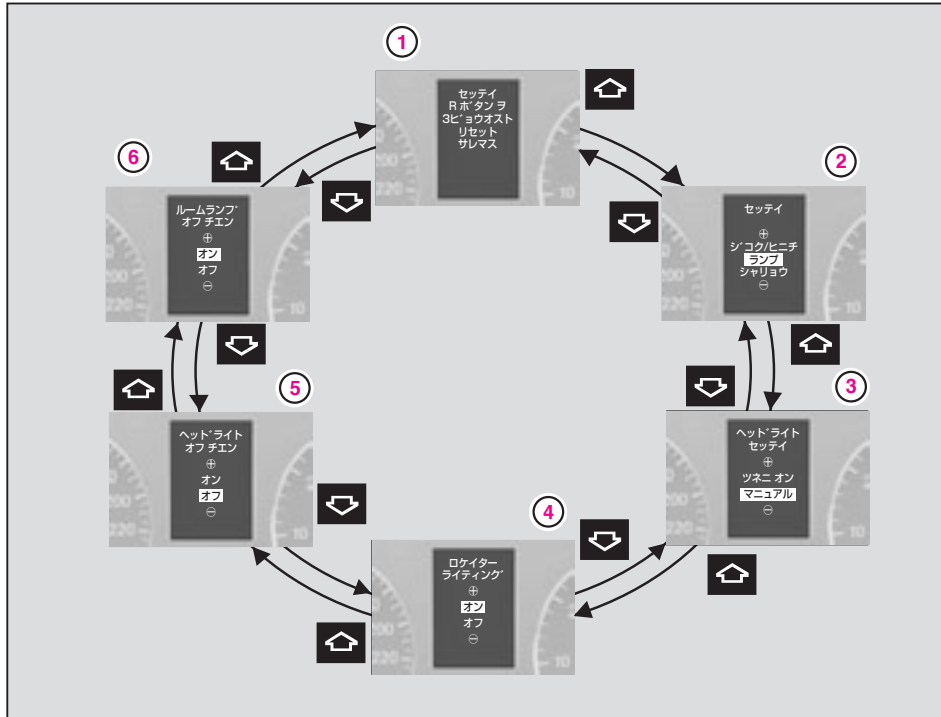
▶ ＋または－を押して、反転部分の数字を修正します。

日付の設定画面（年）

日付の「年」を設定します。

▶ ＋または－を押して、反転部分の数字を修正します。

※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

ランプ

①	各種設定メイン画面	4-13
②	設定グループ選択画面	4-14
③	ヘッドランプ点灯モード設定画面	4-24
④	ロケイターライティング設定画面	4-25
⑤	車外ランプ消灯遅延機能設定画面	4-26
⑥	ルームランプ消灯遅延機能設定画面	4-27

※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

設定グループ選択画面を表示させる

▶ [ボタン]または[ボタン]を押して、各種設定メイン画面を表示させせます（4-13）。

▶ 各種設定メイン画面①表示中に[⇧]を押して、設定グループ選択画面②を表示させせます。

設定グループを選択する

▶ [＋]または[－]を押して、ランプを選択します。

▶ [⇧]を押します。

ランプの最初の設定項目画面が表示されます。

ヘッドランプ点灯モード設定画面

ヘッドランプの点灯モードの設定ができます。

▶ [＋]または[－]を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
ﾂﾈﾆ ｵﾝ	常時点灯モードです。 エンジンを始動すると、ヘッドランプなどが常に点灯します。
ﾏﾆｭｱﾙ	手動点灯モードです。 ヘッドランプなどを点灯するときはランプスイッチを操作します。 日本ではこのモードに設定してください。

注　意　！

設定が常時点灯モード（ﾂﾈﾆ ｵﾝ）のときは、安全のため走行中に設定を変更することはできません。

このときは、マルチファンクションディスプレイに "ｾｯﾃｲ ﾊ ﾃｲｼﾁｭｳ ﾉﾐ ｶﾉｳ" と表示されます。

※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

知 識

- 常時点灯モード（ﾂﾈﾆ ｵﾝ）は、走行中の昼間点灯が義務付けられている諸国に対応しています。日本では手動点灯モード（ﾏﾆｭｱﾙ）に設定して使用してください。
- 常時点灯モード（ﾂﾈﾆ ｵﾝ）で自動的に点灯するランプは、ヘッドランプ、車幅灯、テールランプ、ライセンスランプです。その他のランプを点灯するときは、各スイッチを操作してください。
- 常時点灯モード（ﾂﾈﾆ ｵﾝ）に設定したときにランプスイッチを ≡00≡ の位置に合わせると、ヘッドランプが消灯します。

ロケイターライティング設定画面

周囲が暗いときにリモコン操作で解錠するとランプが点灯する機能の設定ができます。

▶ ＋ または － を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
ｵﾝ	周囲が暗いときに、リモコン操作で解錠すると、車幅灯、フロントフォグランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯します。
ｵﾌ	ロケイターライティングは作動しません。

詳しくは（3-11）をご覧ください。

※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

車外ランプ消灯遅延機能設定画面

周囲が暗いときにエンジンを停止すると、車外ランプなどが点灯する機能の設定ができます。

▶ ＋または－を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	周囲が暗いときにエンジンを停止すると、車幅灯、フロントフォグランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯し、ドアやテールゲートを開いて閉じた後、約15秒後に消灯します。
オフ	車外ランプ消灯遅延機能は作動しません。

詳しくは（5-25）をご覧ください。

※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

ルームランプ消灯遅延機能設定画面

ルームランプが自動点灯モードで周囲が暗いときにエンジンスイッチからキーを抜くと、ルームランプが点灯する機能の設定ができます。

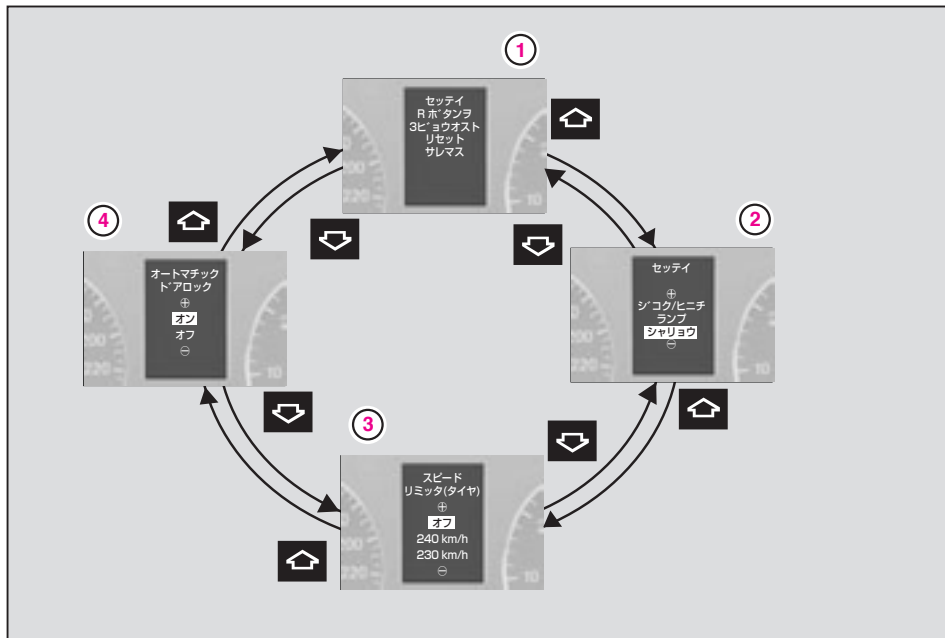
▶ ＋または－を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	ルームランプが自動点灯モードで周囲が暗いときにエンジンスイッチからキーを抜くと、ルームランプが約10秒間点灯します。
オフ	ルームランプ消灯遅延機能は作動しません。

詳しくは（6-16）をご覧ください。

※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

各種設定

シャリョウ

①	各種設定メイン画面	4-13
②	設定グループ選択画面	4-14
③	スノータイヤスピードリミッター設定画面	4-29
④	車速感応ドアロック設定画面	4-30

※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

設定グループ選択画面を表示させる

▶ [icon]または[icon]を押して、各種設定メイン画面を表示させます（4-13）。

▶ 各種設定メイン画面①表示中に[icon]を押して、設定グループ選択画面②を表示させます。

設定グループを選択する

▶ [+]または[−]を押して、シャリョウを選択します。

▶ [icon]を押します。

シャリョウの最初の設定項目画面が表示されます。

スノータイヤスピードリミッター設定画面

最高速度の制限のない国などで、ウィンタータイヤ装着時にタイヤの許容最高速度に応じた最高速度を設定するための機能です。

日本仕様でも設定はできますが、法定速度を守って走行してください。

▶ [+]または[−]を押して、設定内容を選択します。

表示	設定内容
240km/h 230km/h 220km/h 210km/h 200km/h 190km/h 180km/h 170km/h 160km/h	最高速度がそれぞれの速度に設定されます。
オフ	スノータイヤスピードリミッターは作動しません。

※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

各種設定

車速感応ドアロック設定画面

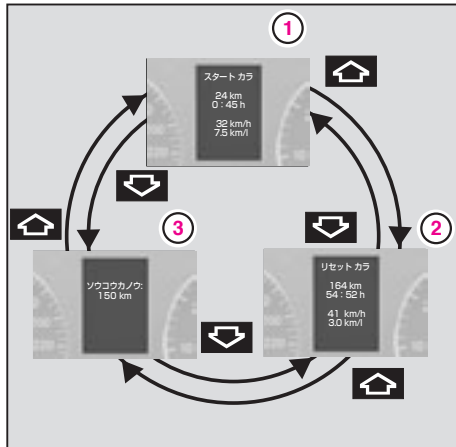
走行速度が約15km/h以上になったときに、ドアとテールゲートを自動的に施錠する機能の設定ができます。

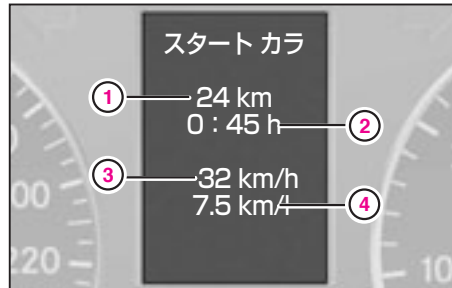
▶ ＋または－を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	車速感応ドアロックが作動します。
オフ	車速感応ドアロックは作動しません。

詳しくは（3-26）をご覧ください。

※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

トリップコンピューター

①	ショートトリップメーター画面
②	ロングトリップメーター画面
③	走行可能距離画面

ショートトリップメーター画面

① スタートからの走行距離（km）
② スタートからの経過時間（h）
③ スタートからの平均速度（km/h）
④ スタートからの平均燃費（km/l）

ショートトリップメーターは、エンジンを始動したときを起点として情報を表示します。

エンジンスイッチを**0**の位置にしてから、またはキーを抜いてから約4時間経過すると、ショートトリップメーターは自動的にリセットされます。

ショートトリップメーター画面を表示させる

▶ [ボタン]または[ボタン]を押して、ショートトリップメーター画面を表示させます。

ショートトリップメーターは、手動でリセットすることもできます。

ショートトリップメーターを手動でリセットする

▶ ショートトリップメーター画面が表示されているときに、メーターパネルのリセットボタン（3-58）を押し続けて、表示をリセットします。

知　識

リセット後、ショートトリップメーターは、999時間経過後、または9,999km走行後に自動的にリセットされます。

※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

ロングトリップメーター画面

① リセットからの走行距離（km）
② リセットからの経過時間（h）
③ リセットからの平均速度（km/h）
④ リセットからの平均燃費（km/l）

ロングトリップメーターは、トリップメーターをリセットしたときを起点として情報を表示します。

ロングトリップメーター画面を表示させる

▶ [ボタン]または[ボタン]を押して、ショートトリップメーター画面を表示させます（4-31）。

▶ [ボタン]を押して、ロングトリップメーター画面を表示させます。

ロングトリップメーターをリセットする

▶ ロングトリップメーター画面が表示されているときに、メーターパネルのリセットボタン（3-58）を押して、表示をリセットします。

知　識

リセット後、ロングトリップメーターは、9,999時間経過後、または99,999km走行後に自動的にリセットされます。

※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

走行可能距離画面

現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を計算し、予測値として表示します。

走行可能距離画面を表示させる

エンジンスイッチが**2**の位置のときに表示することができます。

▶ [ボタン]または[ボタン]を押して、ショートトリップメーター画面を表示させます（**4-31**）。

▶ [ボタン] を押して、走行可能距離画面を表示させます。

注　意！

走行可能距離は、現在までの平均燃費と残り燃料から計算した予測値です。今後の走行状況に応じて大きく変動することがありますので、燃料計を確認し、早めに給油してください。

知　識

燃料残量が少ないときは、以下のマークが表示されます。

最寄りのガソリンスタンドで給油してください。

※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

電話

電話画面を表示させる

▶ またはを押して、電話画面を表示させます。

通話する（電話を受信する）

▶ 電話がかかってきたときにステアリングの通話開始スイッチを押します。

電話を受信することができます。

通話を終える（電話を切断する）

▶ ステアリングの通話終了スイッチを押します。

電話を切断することができます。

メモリー番号による電話の発信

メモリーしてある電話番号に電話をかけることができます。

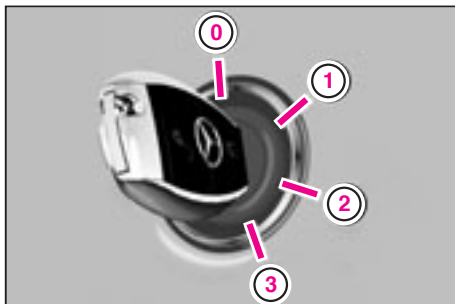
▶ 電話画面表示中に、またはを押して、電話をかける相手先のメモリー番号を選択します。

▶ ステアリングの通話開始スイッチを押します。

電話をかけることができます。

※ 詳細については、別冊「Audio 20 取扱説明書」または「マルチファンクションコントローラー 取扱説明書」をお読みください。

※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

エンジンスイッチ

	作動内容
⓪	0：キーを差し込む / 抜く位置
①	1：エンジンを停止したまま電気装備の一部を使用するときの位置
②	2：走行するときの位置 すべての電気装備が使用できます。
③	3：エンジンを始動する位置 エンジンスイッチを③の位置までまわして手を放すと、自動的にスターターがまわり、エンジンが始動します。

タッチスタート

エンジンスイッチを③の位置までまわすと、手を放しても自動的にスターターがまわり続けます。

警　告

ごく短時間でも、車から離れるときはエンジンスイッチからキーを抜いてください。また、子供だけを車内に残さないでください。いたずらから車の発進、火災などの事故が発生するおそれがあります。また、炎天下では車内が非常に高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。

注　意！

- 走行中にエンジンを停止しないでください。エンジンブレーキが効かなくなります。また、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。
- バッテリーあがりを防ぐため、駐車時は必ずエンジンスイッチからキーを抜いてください。
- エンジンスイッチにエマージェンシーキーを差すことはできません。

知　識

- セレクターレバーが P に入っていないときは、エンジンスイッチからキーを抜くことができません。
- エンジンスイッチからキーを抜かずに⓪の位置で長時間放置していると、キーがまわせなくなることがあります。このときは、キーをいったん抜き、再度差してからまわしてください。
- キーの発信部が覆われていたり、汚れていると、エンジンを始動できなくなります。

ステアリングロック

ステアリングをロックする

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。

ステアリングがロックされます。

ステアリングロックを解除する

▶ エンジンスイッチにキーを差し込みます。

ステアリングのロックが解除されます。

エンジンの始動と停止

エンジンを始動するとき

▶ パーキングブレーキが確実に効いていることを確認してください。

▶ セレクターレバーが P に入っていることを確認してください。

▶ 確実にブレーキペダルを踏みます。

▶ エンジンスイッチにキーを差し込み、アクセルペダルを踏まずに3の位置までまわして手を放します。

注 意 !

- エンジンは、セレクターレバーが N に入っているときも始動できますが、安全のため、必ずセレクターレバーを P に入れ、ブレーキペダルを踏んで始動してください。
- 少しでも車を動かすときはエンジンを始動してください。エンジンが停止していると、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

知 識

ランプやエアコンディショナーなど、バッテリーの負担になる装置を停止しておくと始動性が良くなります。

エンジンが始動しないとき

- ▶ セレクターレバーが P に入っていることを確認してください。
- ▶ エンジンスイッチを0か1の位置に戻してから再始動してください。

それでもエンジンを始動できないときは、指定サービス工場に連絡してください。

エンジンを停止するとき

- ▶ 完全に停車します。
- ▶ ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキペダルを確実に踏み込み、セレクターレバーを P に入れます。
- ▶ エンジンスイッチを0の位置にします。
- ▶ ブレーキペダルから足をゆっくり放します。

注　意　！

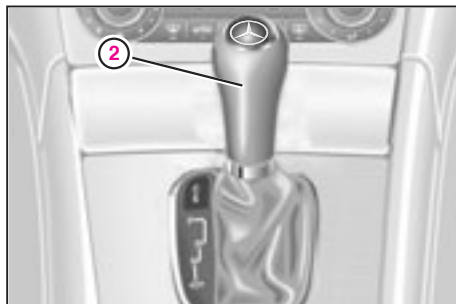
水温が高めのときは、少しの間アイドリング状態でエンジンを冷却してから、エンジンを停止してください。

オートマチックトランスミッション

シフト位置表示

① シフト位置表示
（ニュートラルに入っている状態）

エンジンスイッチを**2**の位置にすると選択されたシフト位置の表示①が反転します。

セレクターレバー

② セレクターレバー

▶ セレクターレバー②を動かして、シフト位置を選択します。

知　識

エンジンスイッチが**2**の位置で、ブレーキペダルを踏んでいないと、セレクターレバーを**P**から動かすことはできません。

注　意　！

シフト位置を選択するときは、完全に停車して、ブレーキペダルを踏んでください。

シフト位置	
P パーキング	駐車およびエンジン始動 / 停止の位置
R リバース	後退するときの位置
N ニュートラル	動力が伝わらない位置 押したり、けん引してもらうことで車を移動できます。
D ドライブ	走行するときの位置 1速〜5速の範囲で自動的に変速します。

走行モード

① 走行モード表示

路面の状況や運転に合わせてオートマチックギアシフトの走行モードを切り替えることができます。

選択された走行モード①はマルチファンクションディスプレイに表示されます。

マニュアルギアシフト非装備車

② 走行モード選択スイッチ

走行モードを選択する（マニュアルギアシフト非装備車）

▶ 走行モード選択スイッチ②を押します。

Cモード→Sモード→Cモードと切り替わります。

マニュアルギアシフト装備車

③ 走行モード選択スイッチ

走行モードを選択する（マニュアルギアシフト装備車）

▶ 走行モード選択スイッチ③を押します。

Sモード→Cモード→Mモード→Sモードと切り替わります。

オートマチックトランスミッション

走行モード	
Cモード	2速から発進します。Sモードより早めにシフトアップが行なわれます。ゆるやかな運転や滑りやすい路面を走行するときに適しています。 セレクターレバーを R に入れたときはSモードよりゆるやかに後退します。
Sモード	1速から発進します。十分な加速を得たいときに使用します。セレクターレバーを R に入れたときはCモードより力強く後退します。
Mモード＊	マニュアルでギアシフトすることができます。 詳しくは（5-12）をご覧ください。

警　告

選択したモードにより変速特性が変わります。必ず路面の状況に合ったモードを選択してください。

知　識

Cモードのときもアクセルペダルをいっぱいに踏み込むか、ティップシフトでギアレンジを 1 にしたときは1速から発進します。

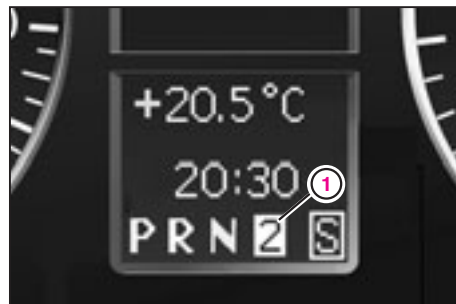
＊オプションまたは仕様により装備が異なります

ティップシフト

オートマチックトランスミッションのギアの変速範囲を変えることにより不必要に変速しないようにすることができます。

走行モードがCモードかSモードのときにティップシフトにすることができます。

警　告

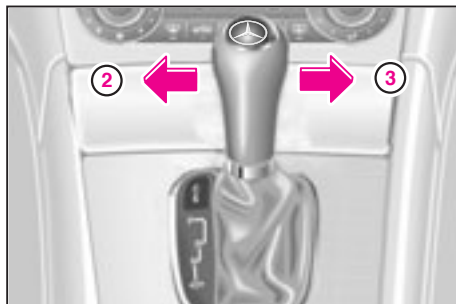
滑りやすい路面状況やカーブを走行しているときは、低いギアレンジを選択してエンジンブレーキが効くと、駆動輪がグリップを失うおそれがあります。低いギアレンジを選択するときは十分注意してください。また、滑りやすい路面状況で駆動輪を空転させると、駆動系部品を損傷するおそれがあります。

① ギアレンジ表示

選択したギアレンジ①はマルチファンクションディスプレイに表示されます。

ギアレンジ	
D	1速～5速の範囲で自動的に変速します。
4	1速～4速の範囲で自動的に変速します。
3	1速～3速の範囲で自動的に変速します。 緩やかな坂道などを走行するときに使用します。
2	1速～2速の範囲で自動的に変速します。 急な坂道やエンジンブレーキが必要なときに使用します。
1	1速に固定されます。 エンジンブレーキが最大に作用します。

知　識

- ギアレンジ表示の数字は選択したギアレンジを示しており、必ずしも実際のギアを示すものではありません。
- 加速時にエンジンの許容回転数（レッドゾーン）を超えるようなときは、自動的に高いギアレンジが選択されます。
- エンジンが暖まっていないときは、シフト操作を行なっても、選択したギアレンジに変わらないことがあります。

セレクターレバーによる操作

② 低いギアレンジを選択
③ 高いギアレンジを選択

ティップシフトにする

▶ セレクターレバーが D のときにセレクターレバーを②側に操作します。

そのときの加速や減速に最も適したギアレンジが選択されて、マルチファンクションディスプレイにギアレンジ①が表示されます。

低いギアレンジを選択する

▶ セレクターレバーを②側に操作します。

高いギアレンジを選択する

▶ セレクターレバーを③側に操作します。

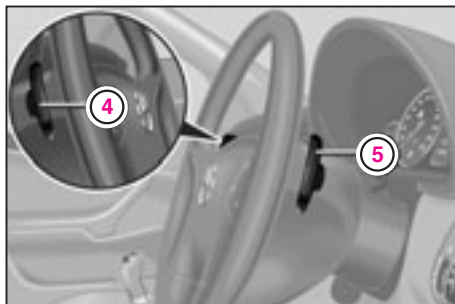
ティップシフトを解除する

▶ セレクターレバーを③側に操作して保持します。

ギアレンジ①に "D" が表示されます。

知　識

ティップシフトにしていないときにセレクターレバーを③側に操作すると、車速やエンジン回転数に応じてシフトアップが行なわれます。

パドルによる操作＊

④ 左側パドル
（低いギアレンジを選択）
⑤ 右側パドル
（高いギアレンジを選択）

ティップシフトにする

▶ セレクターレバーが D のときに左側のパドル④を引きます。

そのときの加速や減速に最も適したギアレンジが選択されて、マルチファンクションディスプレイにギアレンジ①（5-9）が表示されます。

低いギアレンジを選択する

▶ 左側のパドル④を引きます。

高いギアレンジを選択する

▶ 右側のパドル⑤を引きます。

ティップシフトを解除する

▶ 右側のパドル⑤を引いて保持します。

ギアレンジ①に "D" が表示されます。

知　識

- ティップシフトにしていないときに、右側のパドル⑤を引くと、車速やエンジン回転数に応じてシフトアップが行なわれます。
- 右側のパドルには "＋"、左側のパドルには "－" の表示があります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

マニュアルギアシフト＊

セレクターレバーまたはパドルを操作して、マニュアルでギアを選択することができます。

警　告

路面が滑りやすいときやカーブを走行しているときは、シフトダウンによってエンジンブレーキが効くと、駆動輪がグリップを失うおそれがあります。シフトダウンするときは十分注意してください。
また、滑りやすい路面状況で駆動輪を空転させせると、駆動系部品を損傷するおそれがあります。

注　意　！

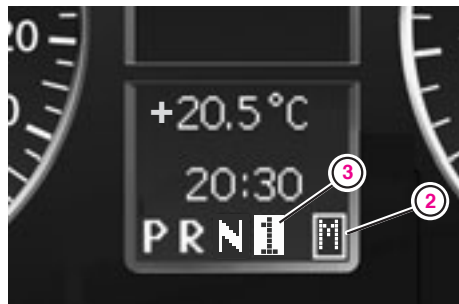
エンジンが暖まるまでは、エンジンやトランスミッションに大きな負担がかかるような運転をしないでください。

知　識

- マニュアルギアシフトでは、ESPの機能を解除しないで走行することをお勧めします。
- エンジンが暖まっていないときは、シフト操作を行なっても、選択したギアに変速しないことがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

マニュアルギアシフトの選択

① 走行モード選択スイッチ

マニュアルギアシフトを選択する

▶ 走行モード選択スイッチ①を押して、マルチファンクションディスプレイの走行モード表示②に"M"を表示させます。

② 走行モード表示
③ ギア表示

ギア表示③には選択されているギアが表示されます。

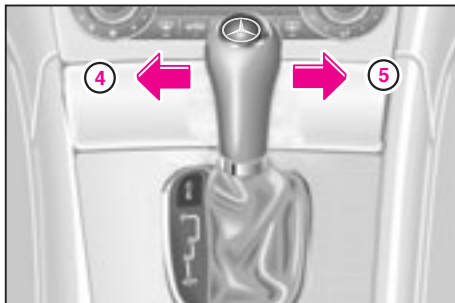
知　識

- マニュアルギアシフトを選択した状態でエンジンを停止すると、エンジン再始動時にはオートマチックギアシフトに切り替わります。このときは、マニュアルギアシフトを選択する前の走行モード（CモードかSモード）になります。
- マニュアルギアシフトではギア表示③に表示される数字は実際のギアを示しています。運転者のシフトアップ / ダウン操作や、自動的なシフトアップ / ダウンに応じてギア表示③に表示される数字も変わります。

マニュアルギアシフトを解除する

▶ 走行モード選択スイッチ①を押して、CモードかSモードを選択します。

マニュアルギアシフト

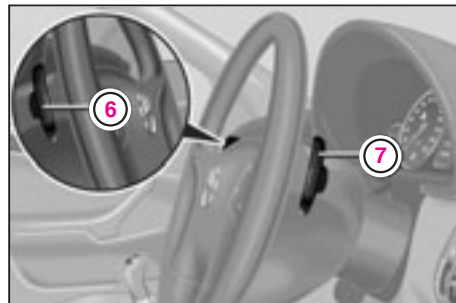
セレクターレバーによる操作

④ シフトダウン
⑤ シフトアップ

シフトダウンする

▶ セレクターレバーを④の方向に操作します。

シフトアップする

▶ セレクターレバーを⑤の方向に操作します。

パドルによる操作

⑥ 左側パドル（シフトダウン）
⑦ 右側パドル（シフトアップ）

シフトダウンする

▶ 左側のパドル⑥を引きます。

シフトアップする

▶ 右側のパドル⑦を引きます

知　識

- シフトダウン操作をしなくても、速度とエンジン回転数に応じて、自動的にシフトダウンすることがあります。
- エンジン回転数が上昇しレッドゾーンに近付くと、シフトアップ操作をしなくても自動的にシフトアップされます。このとき、ギア表示の数字も変わります。
- シフトアップ / ダウン操作をしても、選択したギアが適切でない場合は、エンジン保護などのため、シフトアップ / ダウンされません。
- 停車すると、ギアは1速にシフトされます。
- 停車時に選択できるギアは1速です。
- マニュアルギアシフトでキックダウンしているときは、シフト操作はできません。
- 右側のパドルには "+"、左側のパドルには "–" の表示があります。
- セレクターレバーを左側に操作して保持するか、左側のパドルを引いて保持すると、そのときの加速に最も適したギアが選択されます。

オートマチック車の運転

運転する前にオートマチック車の特性を理解し、正しい操作をしてください。

オートマチック車の特性

クリープ現象：エンジンがかかっているとき、セレクターレバーがP、N以外に入っていると、動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏み込まなくても車がゆっくり動き出します。これをクリープ現象といいます。

キックダウン：走行中にアクセルペダルをいっぱいまで踏み込むと、自動的に低いギアに切り替わり、エンジンの回転数が上がって素早く加速します。これをキックダウンといいます。

発進する

▶ エンジンを始動します。

▶ ブレーキペダルを踏んで、踏みしろや踏みごたえを確認します。

▶ ブレーキペダルを踏んだまま、セレクターレバーを走行位置Dに入れます。

警　告

アクセルペダルを踏んだ状態でセレクターレバーを操作しないでください。車が急発進するおそれがあります。

▶ パーキングブレーキを解除します。

▶ ブレーキペダルを徐々に戻して、アクセルペダルをゆっくり踏み込みます。

注　意　！

急な坂道で発進するときは、パーキングブレーキを効かせたままブレーキペダルから足を放し、アクセルペダルをゆっくりと踏んで、車が動き出す感触を確認してからパーキングブレーキを解除して発進してください。

オートマチック車の運転

通常走行

セレクターレバーを D に入れて走行します。アクセルペダルの踏み加減や車速に応じて、自動的に変速が行なわれます。

警　告

走行中はセレクターレバーを N に入れないでください。エンジンブレーキが効かないため、事故の原因になったり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

知　識

エンジンが冷えているときは、より高いエンジン回転数でシフトアップが行なわれます。

素早く加速したいとき

アクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、キックダウンし、素早く加速します。

注　意 ！

キックダウンするときは、周囲の状況に注意しながら操作してください。事故を起こすおそれがあります。

上り坂を走行するとき

▶ 坂の勾配などに応じて、ティップシフトで低いギアレンジを選択します。

　変速の少ない、なめらかな走行ができます。

下り坂を走行するとき

下り坂を D で走行すると、エンジンブレーキの効きが弱く、速度が出すぎることがあります。

▶ 坂の勾配などに応じて、ティップシフトで低いギアレンジを選択します。

　エンジンブレーキの効きを強くして走行します。

エンジンブレーキ：走行中にアクセルペダルを戻したときに発生するエンジンの内部抵抗を利用した減速をエンジンブレーキといいます。低いギアのときほど効きが強くなります。

警　告

- 長い下り坂や急な下り坂では必ずエンジンブレーキを併用してください。ブレーキペダルを踏み続けたり、急ブレーキを繰り返すと、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。
- 急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

滑りやすい路面を走行するとき

走行モード（5-7）をCモードに切り替え、急加速や急減速を避けた運転を心がけてください。

警　告

滑りやすい路面では、低いギアレンジや低いギアを選択することによる急激なエンジンブレーキを効かせないでください。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

注 意 ！

エンジンの許容回転数（レッドゾーン）を超えるおそれがある場合は、低いギアレンジや低いギアを選択することはできません。このときは、ブレーキペダルを踏んで減速してから再度操作し、速度に応じたエンジンブレーキを効かせてください。

停車するとき

▶ セレクターレバーを D に入れたままブレーキペダルを踏みます。

やむを得ず停車が長くなるときは、パーキングブレーキを確実に効かせ、セレクターレバーを P に入れます。

警　告

停車中は空ぶかしをしないでください。万一セレクターレバーが D か R に入ると、車が急発進して重大な事故を起こすおそれがあります。

注　意　！

- 急な上り坂での停車時、後退しようとする車をアクセルペダルを踏むことにより停止状態を保たないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。
- 停車中はブレーキペダルを確実に踏み、クリープ現象（5-15）で車が動かないようにしてください。
- セレクターレバーを P に入れるときは、完全に停車してください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

駐車

▶ 完全に停車して、ブレーキペダルを踏み込んだまま、パーキングブレーキを確実に効かせます。

▶ セレクターレバーを P に入れます。

▶ エンジンスイッチを0の位置にして、キーを抜きます。

▶ ブレーキペダルから足をゆっくり放します。

警　告

駐車時や車を離れるときは、セレクターレバーを P に入れ、必ずパーキングブレーキを確実に効かせて、エンジンを停止してください。セレクターレバーを P に入れただけでは十分なブレーキ効果が得られず、坂道などで車が動き出すおそれがあります。

注　意　！

- 急な坂道で駐車するときは、パーキングブレーキを確実に効かせてください。さらに輪止めをしてください。
- 短時間でも車から離れるときは、子供だけを車内に残さないでください。また、ドアウインドウやパノラミックスライディングルーフ＊を閉じて、施錠してください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

エマージェンシーモード

トランスミッションに異常が発生し、自動変速ができなくなったときは、自動的にエマージェンシーモードに切り替わることがあります。

この場合、以下の方法でギアを2速かリバースに入れることができるようになり、走行できる場合があります。安全な場所まで移動して指定サービス工場に連絡してください。

エマージェンシーモードでの走行

▶ 安全な場所に停車して、セレクターレバーを P に入れます。

▶ エンジンを停止して、約10秒間待ちます。

▶ エンジンを始動します。

▶ セレクターレバーを D に入れます。

2速ギアに固定され、前進できます。

または

▶ セレクターレバーを R に入れます。

リバースギアに固定され、後退できます。

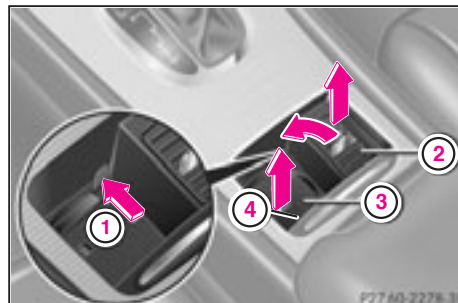
注　意　！

- 2速やリバースに変速できなかったり、変速できても走行できないときは、指定サービス工場に連絡してください。
- エマージェンシーモードで走行するときは、動力性能が大きく制限されます。十分に注意して走行し、指定サービス工場で点検を受けてください。

パーキングロックの解除

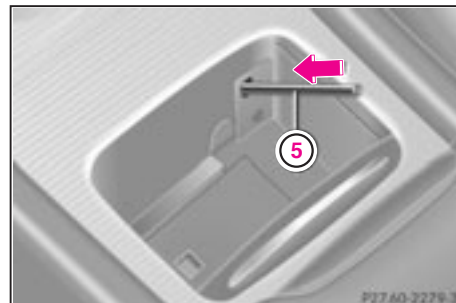
パーキングロックの解除

セレクターレバーをＰの位置から動かせないときは、以下の方法で動かすことができます。

故障時に車をけん引されるときなどにパーキングロックを解除します。

① ノブ
② コインホルダー
③ カップホルダー
④ タブ

パーキングロックを解除する

▶ タブ④を持ってカップホルダー③を取り外します。

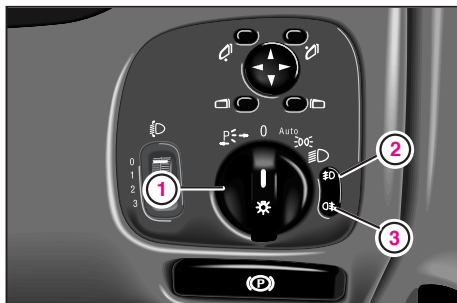
▶ ノブ①を押しながら、コインホルダー②を引き上げ、左側に取り外します。

⑤ ドライバーなど

▶ ドライバーなど⑤を上図の穴に差し込み、矢印の方向に押しながらセレクターレバーをＰの位置から動かします。

注　意　！

- この方法でセレクターレバーを動かせないときは、指定サービス工場に連絡してください。
- セレクターレバーを動かすことができたときでも、指定サービス工場で点検を受けてください。

ランプ

ランプスイッチ

① ランプスイッチ
② フロントフォグランプ表示灯
③ リアフォグランプ表示灯

▶ ランプスイッチ①をまわして各位置に合わせます。

位置	作動内容
0	すべてのランプが消灯
Auto	周囲の明るさに応じて自動的に点灯 / 消灯
	車幅灯、テールランプ、ライセンスランプやスイッチなどの照明が点灯
	車幅灯などに加え、ヘッドランプが点灯

ヘッドランプ

ヘッドランプは手動または自動で点灯 / 消灯することができます。

ヘッドランプが点灯すると、メーターパネルのヘッドランプ表示灯 が点灯します。

ヘッドランプを手動で点灯する

▶ ランプスイッチ①を の位置に合わせます。

ヘッドランプを自動的に点灯する

▶ ランプスイッチ①を Auto の位置に合わせます。

周囲が暗いとき、エンジンスイッチを **1** の位置にすると、車幅灯、テールランプ、ライセンスランプが自動的に点灯します。

エンジンを始動すると、上記に加えてヘッドランプも自動的に点灯します。

周囲が明るくなると、ランプは自動的に消灯します。

警　告

- ランプの点灯 / 消灯に関する責任は運転者にあります。ランプの自動点灯機能は運転者を支援する機能です。
- 以下の状況などではランプは自動的に点灯しなかったり、点灯していたランプが消灯して事故を起こすおそれがあります。このときは、手動でランプを点灯してください。
  - ◇ 霧の中を走行するとき。
  - ◇ 対向車のライトなどにより、センサーが正常に作動しないとき。
- ランプスイッチを Auto から ≣D の位置にするときは、必ず停車してください。ランプが一瞬消灯して事故を起こすおそれがあります。

注　意 !

- ランプが自動的に点灯しているときは、エンジンスイッチを0の位置に戻して運転席ドアを開くと、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに"ﾗﾝﾌﾟ ｵﾌ ﾏﾀﾊ ｷｰｦ ﾇｲﾃｸﾀﾞｻｲ" と表示されます。このときはランプスイッチを 0 の位置にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてください。バッテリーがあがるおそれがあります。
- ランプスイッチを ≡ᴅᴏ≡ か ≣D の位置にしたまま、キーを抜いて運転席ドアを開くと、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに "ﾗﾝﾌﾟ ｦ ｹｼﾃｸﾀﾞｻｲ!" と表示されます。このときはランプスイッチを 0 の位置にしてください。バッテリーがあがるおそれがあります。
- エンジンを停止した状態で、ランプを長時間点灯しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

知　識

- フロントウインドウの上部中央には明るさを感知するセンサーがあります。センサー部にステッカーなどを貼付すると、自動的に点灯 / 消灯しなくなります。
- トンネルなどの暗い場所や悪天候のときなどに、ランプは自動で点灯することがあります。

フォグランプ

フロントフォグランプを点灯する

▶ ランプスイッチ①が[フォグ・スモールランプ]または[ヘッドランプ]の位置のとき、ランプスイッチ①を1段引きます。

フロントフォグランプが点灯し、フロントフォグランプ表示灯②が点灯します。

フロントフォグランプとリアフォグランプを点灯する

▶ ランプスイッチ①が[フォグ・スモールランプ]または[ヘッドランプ]の位置のとき、ランプスイッチ①を2段引きます。

フロントフォグランプとリアフォグランプが点灯し、フロントフォグランプ表示灯②とリアフォグランプ表示灯③が点灯します。

注 意 !

- 霧の中を走行するときは、あらかじめランプスイッチを[ヘッドランプ]の位置にしてヘッドランプを点灯してください。
- フォグランプは、霧などの悪天候で、十分な視界が確保できないとき以外には使用しないでください。対向車や後続車の迷惑になります。
- エンジンを停止した状態で、ランプを長時間点灯しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

知 識

ランプスイッチが Auto の位置のときは、フォグランプを点灯することはできません。

パーキングランプ

暗がりでの駐車時に後続車などに車の存在を知らせるため、車幅灯とテールランプだけを点灯します。

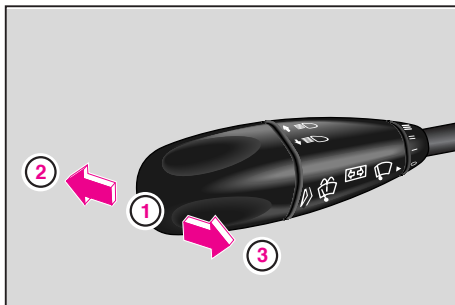
パーキングランプを点灯する

エンジンスイッチが0の位置のとき、またはキーを差し込んでいないときに点灯させることができます。

▶ ランプスイッチを[P→]または[←P]の位置にします。

位置	作動内容
[P→]	右側のパーキングランプが点灯
[←P]	左側のパーキングランプが点灯

5

ヘッドランプの下向き / 上向きの切り替え

① 下向き
② 上向き
③ パッシング

ヘッドランプを下向きにする

▶ ヘッドランプが点灯しているときに、コンビネーションスイッチを①の位置にします。

ヘッドランプが下向きになります。

ヘッドランプを上向きにする

▶ ヘッドランプが点灯していて、エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに、コンビネーションスイッチを②の位置にします。

ヘッドランプが上向きになります。

メーターパネルのハイビーム表示灯が点灯します。

パッシングする

▶ エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに、コンビネーションスイッチを③の方向に引きます。

引いている間ヘッドランプが上向きになります。

メーターパネルのハイビーム表示灯が点灯します。

コンビネーションスイッチから手を放すと①の位置に戻ります。

注　意　！

対向車があるときや市街地を走行するときは、ヘッドランプを上向きにしないでください。

車外ランプ消灯遅延機能

周囲が暗いときにエンジンを停止すると、車幅灯、フロントフォグランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯し、ドアやテールゲートを開いて閉じてから約15秒後に消灯します。

この機能の設定と解除については（4-26）をご覧ください。

車外ランプ消灯遅延機能を一時的に解除する

▶ エンジンを停止した後、エンジンスイッチを再度**2**の位置にします。

知　識

- ドアやテールゲートを閉じたままにするか、開いてそのままにしておくと、ランプは点灯してから約60秒後に消灯し、この機能は解除されます。
- この機能は、エンジンを停止してから約10分経過すると解除されます。約10分以内ならドアやテールゲートを開くたびにランプが点灯します。

コーナリングランプ

以下のときに、方向指示灯の点滅、またはステアリング操作に連動して、フロントフォグランプが点灯します。

- 周囲が暗いとき
- 走行速度が約40km/h以下で、エンジンがかかっているとき
- ヘッドランプを点灯しているとき

方向指示灯の点滅との連動

方向指示灯を点滅させると、点滅させた方向のフロントフォグランプが点灯します。

セレクターレバーが R に入っているときは、フロントフォグランプは点灯しません。

ステアリング操作との連動

ステアリングを操作すると、操作した方向のフロントフォグランプが点灯します。

セレクターレバーが R に入っているときは、ステアリングを操作した方向と逆側のフロントフォグランプが点灯します。

知　識

- 点滅させた方向指示灯の方向と、ステアリングの操作方向が異なるときは、方向指示灯と同じ方向のフロントフォグランプが点灯します。
- フロントフォグランプはゆっくり消灯するため、一時的に左右両方のフロントフォグランプが点灯することがあります。
- 方向指示灯を点滅させて点灯したフロントフォグランプは、約3分後に自動的に消灯します。

ヘッドランプ照射角度の調整＊

① ヘッドランプ照射角度調整ダイヤル

乗員数が増えたり荷物を積載してヘッドランプの照射角度が変わったときに調整します。

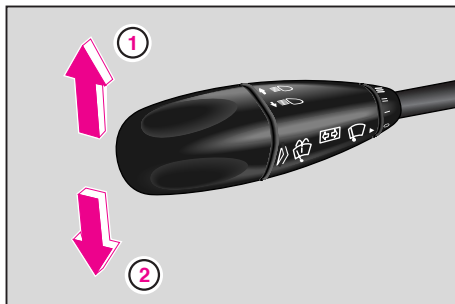
エンジンがかかっているときに調整できます。

0	1名乗車時(運転席)または2名乗車時(運転席と助手席)。
1〜3	乗員数および荷物の積載量に応じて調整します。

注 意 ！

対向車に迷惑がかからないように注意しながら調整してください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

方向指示

① 右側の方向指示灯が点滅
② 左側の方向指示灯が点滅

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに点滅させることができます。

右側の方向指示灯を点滅させる

▶ コンビネーションスイッチを①の方向に操作します。

左側の方向指示灯を点滅させる

▶ コンビネーションスイッチを②の方向に操作します。

ステアリングを直進の位置に戻すとコンビネーションスイッチは自動的に戻ります。戻らないときは手で戻してください。

方向指示灯が点滅しているときは、メーターパネルの方向指示表示灯も点滅します。

知 識

- 方向指示灯を使用しているときに非常点滅灯スイッチを押すと、非常点滅灯に切り替わります。再度、非常点滅灯スイッチを押すと、方向指示灯に切り替わります。
- コンビネーションスイッチを軽く操作すると、方向指示灯が3回点滅します。

非常点滅灯

① 非常点滅灯スイッチ

故障などの非常時に、やむを得ず路上で停車するときなどに使用します。

非常点滅灯を点滅させる

▶ 非常点滅灯スイッチ①を押します。すべての方向指示灯が点滅します。非常点滅灯スイッチ①とメーターパネルの方向指示表示灯も点滅します。

非常点滅灯を消灯させる

▶ 再度、非常点滅灯スイッチ①を押します。

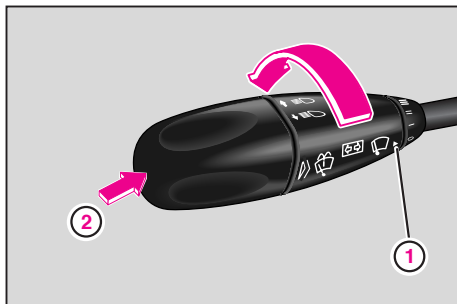
注 意 !

- 非常時以外は使用しないでください。
- エンジンを停止して長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

知 識

- 非常点滅灯を使用しているときにコンビネーションスイッチを左折または右折方向に操作すると、その方向の方向指示灯の点滅に切り替わります。

  コンビネーションスイッチを中立の位置に戻すと、再び非常点滅灯に切り替わります。
- エアバッグが作動すると、非常点滅灯が自動的に点滅します。自動的に点滅した非常点滅灯を解除するときは、非常点滅灯スイッチを押します。

ワイパー

① ワイパー作動モードのマーク
② ティップ機能 / ウォッシャーの噴射

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに作動させることができます。

ワイパーを作動させる

▶ コンビネーションスイッチをまわして、ワイパー作動モードのマーク①を**I**～**III**の位置に合わせます。

位置	作動内容
0	停止
I	間欠モード
II	低速モード
III	高速モード

知　識

停車時またはごく低速での走行時のワイパーの作動は自動的に以下のように切り替わります。

- **I** の位置のとき：作動間隔が長くなります。
- **II**の位置のとき：間欠モードになります。
- **III**の位置のとき：低速モードになります。

走行速度を上げると選択しているモードの作動に戻ります。

ワイパーを1回だけ作動させる（ティップ機能）

▶ コンビネーションスイッチを矢印②の方向に軽く押します。

ウォッシャー液が噴射せずにワイパーが1回だけ作動します。

この機能はフロントウインドウが濡れているときだけ使用してください。

ウォッシャーを噴射させる

▶ エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のとき、コンビネーションスイッチを矢印②の方向に深く押し続けます。

その間ウォッシャー液が噴射し、ワイパーも作動します。

ワイパー

注 意 !

- フロントウインドウを拭くときなどは、必ずコンビネーションスイッチを**O**(停止)の位置にしてください。ワイパーが動き、けがをするおそれがあります。
- ワイパーやウォッシャーを使用するときは、歩行者に水しぶきやウォッシャー液がかからないように注意してください。
- フロントウインドウが乾いているときはワイパーを使用しないでください。ウインドウの表面に細かい傷が付くおそれがあります。フロントウインドウが汚れている場合は、必ずウォッシャー液を噴射してからワイパーを使用してください。
- ウォッシャー液が出なくなったときは、ウォッシャーの操作をしないでください。ウォッシャーポンプを損傷するおそれがあります。
- エンジンを停止するときは、必ずコンビネーションスイッチを**O**(停止)の位置にしてください。コンビネーションスイッチの位置が **II** または**III**のときにエンジンスイッチを**1**の位置にすると、ワイパーが作動し、ウインドウが濡れていないときは傷が付くおそれがあります。
- 寒冷時にはワイパーブレードがガラスに貼り付くことがあります。作動させる前に貼り付いていないことを確認してください。貼り付いたままワイパーを操作すると、ワイパーブレードやモーターを損傷するおそれがあります。
- 雪などが付着しているときは、雪などを取り除いてからワイパーを操作してください。作業の際には、安全のため、キーを抜いてください。

知 識

- ワイパーが作動しないときは、別のモードを選択すると作動することがあります。
- 冬季にはウォッシャー液の濃度に注意し、冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。
- コンビネーションスイッチが **I** の位置のときは、停車時にドアを開くとワイパーは停止します。ドアを閉じて、セレクターレバーを D か R にして走行すると、ワイパーは再び作動します。
- ボンネットがロックされていないとワイパーは作動しません。
- エンジンがかかっていて、ヘッドランプが点灯しているときにフロントウインドウのウォッシャーを約15回操作すると、ヘッドランプウォッシャーが自動的に作動します。

ヘッドランプウォッシャー＊

① ヘッドランプウォッシャースイッチ

エンジンスイッチが2の位置のときに作動させることができます。

ヘッドランプウォッシャーを作動させる

▶ ヘッドランプウォッシャースイッチ①を押します。

ウォッシャー液がヘッドランプに向けて噴射されます。

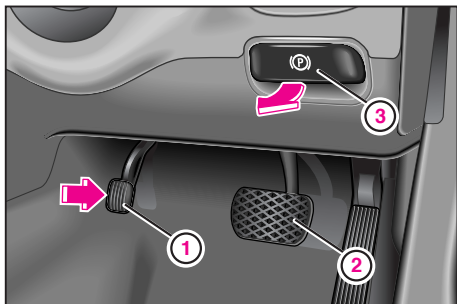
知 識

- エンジンがかかっていて、ヘッドランプが点灯しているときにフロントウインドウのウォッシャーを約15回操作すると、ヘッドランプウォッシャーが自動的に作動します。
- 冬季にはウォッシャー液の濃度に注意し、冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。

注 意 ！

- ヘッドランプウォッシャーを使用するときは、歩行者などにウォッシャー液がかからないように注意してください。
- ヘッドランプには樹脂製レンズを使用しているので、必ず専用の純正ウォッシャー液を使用してください。レンズを損傷するおそれがあります。
- ウォッシャー液が出なくなったときは、ヘッドランプウォッシャーの操作をしないでください。ウォッシャーポンプを損傷するおそれがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

パーキングブレーキ

① パーキングブレーキペダル
② ブレーキペダル
③ 解除ハンドル

パーキングブレーキを効かせる

▶ 右足でブレーキペダル②を踏みながら、左足でパーキングブレーキペダル①をいっぱいまで踏み込みます。

パーキングブレーキを解除する

▶ 解除ハンドル③を引きます。

警　告

- 子供だけを残して車から離れないでください。パーキングブレーキを解除して車が動き出し、事故を起こすおそれがあります。
- パーキングブレーキを効かせたまま走行しないでください。パーキングブレーキが過熱して効かなくなったり、火災が発生するおそれがあります。

注　意　！

- パーキングブレーキは完全に停車してから効かせてください。
- 急な坂道に駐車するときは、タイヤに輪止めをしてください。さらに前輪を歩道方向に向けてください。

知　識

パーキングブレーキを解除せずに走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告メッセージが表示されます。

ブレーキ

警　告

- 長い下り坂や急な下り坂では必ずエンジンブレーキを併用してください。エンジンブレーキを併用しないでブレーキペダルを踏み続けたり、急ブレーキを繰り返すと、ブレーキが効かなくなり、停車できなくなるおそれがあります。
- ブレーキペダルの上に足を置いたまま運転しないでください。ブレーキパッドが早く摩耗するだけでなく、ブレーキが過熱して効かなくなったり、火災が発生するおそれがあります。

注　意 !

- ブレーキが過熱している状態では、ブレーキに水がかからないようにしてください。ブレーキディスクを破損するおそれがあります。
- 水たまりの通過後や洗車直後は、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このようなときは後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまで、ブレーキペダルを数回軽く踏んでください。
- 必ず純正のブレーキパッドを使用してください。純正以外のブレーキパッドを使用すると、ブレーキ特性が変わって安全なブレーキ操作ができなくなるおそれがあります。
- ブレーキシステムを改造したり、スペーサーやブレーキダストシールドなどを使用しないでください。
- マルチファンクションディスプレイにブレーキ液またはブレーキパッドに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは**(10-6)**をご覧ください。

知　識

- 長い急な下り坂では、ティップシフトでギアレンジを 3 、 2 、 1 にして、エンジンブレーキを効かせてください。ブレーキの過熱や過度の摩耗を防ぐことができます。
- 急ブレーキなどでブレーキに大きな負担をかけた後は、ブレーキディスクが冷えるまでしばらく走行を続けてください。
- 高速道路を走行しているときなど、ブレーキをかけずに長時間走行しているときは、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このようなときは後続車に注意しながら、時々ブレーキを効かせてください。

ブレーキ警告灯

エンジンスイッチを2の位置にすると点灯し(点灯しないときは、警告灯が故障しています)、エンジン始動後に消灯します。

エンジン始動後もパーキングブレーキを効かせているときは、点灯したままになります。

パーキングブレーキを解除しても消灯しないときや、走行中に点灯する場合は、ブレーキ液が不足しています。安全な場所に停車し、指定サービス工場に連絡してください。

注　意　!

マルチファンクションディスプレイにブレーキ液またはブレーキパッドに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは(10-6)をご覧ください。

ABS

ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）は、急ブレーキ時や滑りやすい路面でのブレーキ時など、車が不安定な状況になったときに、タイヤのロックを防ぎ、ステアリングでの車両の操縦を確保する装置です。

警　告

- ABSはブレーキ操作を補助する装置で、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。
  ABSが適切に作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保、制動距離の短縮には限界があります。常に道路や天候の状況に注意し、十分な車間距離を保って運転してください。
  また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。
- ABS作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。
- ABSに異常があるときは、ブレーキペダルを強く踏み込むとタイヤはロックします。その結果、ステアリングでの車両操縦性が制限され、制動距離が長くなるおそれがあります。

注　意　!

- ABSは制動距離を短くする装置ではありません。以下のような路面が滑りやすい状況では、ABSを装備していない車と比べ制動距離が長くなることがあります。
  - ◇ 雪の積もった路面や凍結した路面
  - ◇ 砂利道などの荒れた路面
  - ◇ 石だたみのように摩擦係数が連続して変化する路面
  - ◇ スノーチェーン装着時
- 軽くブレーキペダルを踏み込んだだけでもABSが作動するときは、路面が滑りやすくなっています。十分注意して走行してください。
- ブレーキ操作をするときは、ブレーキペダルをしっかりと踏み込んでください。ポンピングブレーキを行なうと制動距離が長くなることがあります。

ABS

知　識

- 路面の状況に関わらず、ABSは速度が約8km/hを超えると作動できるようになります。
- ABSに異常があると、以下のシステムも正しく作動しなくなることがあります。

  ◇ ESP

  ◇ BAS
- ABSに異常があると、マルチファンクションディスプレイにABSまたはESPに関する故障/警告メッセージが表示されることがあります。すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。
- バッテリー電圧が低下するとABSが一時的に機能を停止します。電圧が回復すると、機能も元に戻ります。

ABSの作動

ABSには以下のような特性があります。

- ABSが作動すると、ブレーキペダルに脈動を感じたり車体が振動することがありますが、異常ではありません。そのままペダルを踏み続けてください。
- エンジン始動後や発進直後にブレーキペダルを踏み込むと、ペダルがわずかに振動したりモーターの音が聞こえますが、これは、システムが自己診断をしているときの音で異常ではありません。

ABSが作動すると、ESP表示灯**（5-38）**が点滅します。

ABS警告灯

エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

消灯しなかったり、走行中に点灯したときは、ABSに異常があります。

通常のブレーキ時の制動力は確保されますが、ABS、BAS、ESPは作動しません。

いつもより慎重に運転し、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

注　意　！

マルチファンクションディスプレイにABSまたはESPに関する故障/警告メッセージが表示されたときは**（10-3、4）**をご覧ください。

BAS

BAS（ブレーキアシスト）は、緊急ブレーキの操作時に、短い時間で大きな制動力を確保するブレーキの補助装置です。

BASの操作は、通常のブレーキ操作と同じですが、ブレーキペダルを踏み込む速さなどをセンサーが感知して、緊急ブレーキと判断したときに自動的に作動します。

BASはブレーキペダルから足を放せば自動的に解除されます。

警　告

- BASは緊急ブレーキの操作を補助する装置で、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。BASが作動しても制動距離の短縮には限界があります。また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。
- BASに異常があるときも通常のブレーキは作動しますが、急ブレーキ時には制動距離が長くなるおそれがあります。
- BAS作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

注　意　！

マルチファンクションディスプレイにABSまたはESPに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（10-3、4）をご覧ください。

知　識

- BASに異常があると、ABSも正しく作動しなくなることがあります。
- BASに異常があるときは、マルチファンクションディスプレイにABSまたはESPに関する故障 / 警告メッセージが表示されますが、通常のブレーキは作動します。
- バッテリー電圧が低下するとBASが一時的に機能を停止します。電圧が回復すると機能も元に戻ります。

ESP®

ESP（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）は、タイヤの空転時や横滑り時など、車が不安定な状況になったときに、車両操縦性や走行安定性を確保するシステムです。

警　告

- ESPは車両操縦性や走行安定性を高めるシステムで、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。ESPが作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保には限界があります。また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。
- ESP作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

ESP表示灯

エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し（点灯しないときは表示灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。発進時または走行中に点滅したときは、ESPまたはABSが作動しています。

また、ESPオフスイッチでESPの機能を解除**（5-40）**しているときは点灯したままになります。

注　意　！

マルチファンクションディスプレイにESPに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは**(10-4)**をご覧ください。

警　告

ESP表示灯が点滅したときは、タイヤが空転しているか、車が横滑りしています。アクセルペダルを踏む力を少しゆるめてください。また、慎重に運転するとともに、以下の操作は絶対に行なわないようにしてください。

- 急ハンドル
- 急ブレーキ
- 急発進、急加速
- 急激なエンジンブレーキ
- ESPの機能の解除

注 意 !

- 車輪を上げてけん引されるときは、エンジンスイッチを**2**の位置にしないでください。ESPが作動し、接地している車輪のブレーキが作動します。また、ブレーキシステムを損傷するおそれがあります。
- ダイナモメーターを使用してパーキングブレーキをテストするときは、エンジンスイッチを**2**の位置にしないでください。ブレーキシステムや駆動系部品を損傷するおそれがあります。

- ESPが故障すると、マルチファンクションディスプレイに故障/警告メッセージが表示され、エンジンの出力が低下することがあります。走行が困難なときは、すみやかに安全な場所に停車し、指定サービス工場に連絡してください。

知 識

- 指定のサイズで4輪とも同じ銘柄のタイヤを装着しないと、ESPが作動することがあります(走行中に表示灯が点滅したままになります)。
- ABSが故障したときは、ESPの機能も解除されます。

ESPオフスイッチ

警　告

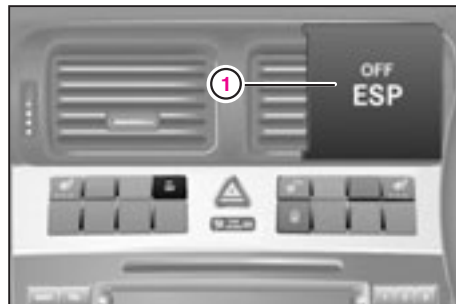
- ESPオフスイッチでESPの機能を解除したときは、必ず路面の状況に応じた速度で慎重に運転するとともに、以下の操作は絶対に行なわないようにしてください。

  ◇ 急ハンドル

  ◇ 急ブレーキ

  ◇ 急発進、急加速

  ◇ 急激なエンジンブレーキ

- ESPの機能を解除する必要がなくなったときは、ESPを待機状態にしてください。車が不安定な状況になったときに、操縦安定性や走行安定性を確保することができません。

① ESPオフスイッチ

ESPオフスイッチは、ESPの機能を解除するためのスイッチです。

深い雪や砂、砂利などの上を走行するときや、スノーチェーンを装着しているときなどは、ESPの機能を解除したほうが走行しやすい場合があります。

ESPの機能を解除する

▶ エンジンがかかっているときに、ESPオフスイッチ①を押します。

ESPの機能が解除され、ESP表示灯が点灯したままになります。

ESPを待機状態にする

▶ エンジンがかかっているときに、再度ESPオフスイッチ①を押します。

ESPが待機状態になり、ESP表示灯が消灯します。

知　識

エンジンを始動したとき、ESPは常に待機状態になります。

クルーズコントロール

クルーズコントロールを使用すると、アクセルペダルを踏まなくても、設定した速度を自動的に維持して走行できます。

設定できる速度は約30km/h以上です。

警　告

- 車の走行速度や先行車との車間距離の確保など、クルーズコントロール使用時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。
- 以下のような場合はクルーズコントロールを使用しないでください。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
  - ◇ 急な下り坂、急カーブ、曲がりくねった道路
  - ◇ 加減速を繰り返すような交通状況や交通量の多い道路
  - ◇ 雨で濡れた路面や積雪路、凍結路などの滑りやすい路面
  - ◇ 降雨時や降雪時、濃霧時など視界が確保できない場合。

注　意　！

- クルーズコントロールは、主に高速道路や自動車専用道路で使用することを想定したものです。市街地では使用しないでください。
- 指定のサイズで4輪とも同じ銘柄のタイヤを装着しないと、クルーズコントロールが誤作動するおそれがあります。
- マルチファンクションディスプレイにクルーズコントロールに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（10-9）をご覧ください。
- 急な上り坂では、クルーズコントロールが速度を維持するためにシフトダウンすることがありますが、設定した速度を維持できないことがあります。

  このようなときは、アクセルペダルを踏んで加速してください。

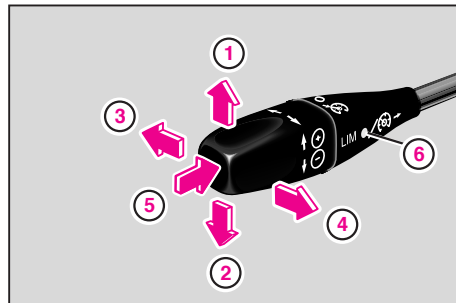
クルーズコントロール

注　意　！

- 急な下り坂などで惰性がついたときは、速度を維持するために自動的にブレーキを効かせることがありますが、設定速度を維持できないことがあります。

  このようなときは、ブレーキペダルを踏むか、低いギアレンジや低いギアを選択し、エンジンブレーキの効きを強くして、減速してください。

  ただし、路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- 自動的にブレーキを効かせているときは、ブレーキペダルが奥に引き込まれます。ブレーキペダルの下に足を置いていると挟まれたり、ブレーキの作動を妨げるおそれがあります。

クルーズコントロールの使い方

①〜⑤ レバーの操作方法
⑥ 表示灯

可変スピードリミッター(5-46)と同じレバーを使用します。

レバーの表示灯⑥が消灯しているときに、クルーズコントロールを操作できます。

レバーの表示灯⑥が点灯しているときは、可変スピードリミッターを操作できる状態です。レバーを⑤の方向に押すと表示灯⑥が消灯し、クルーズコントロールの操作ができる状態に切り替わります。

クルーズコントロールを設定する

▶ レバーの表示灯⑥が消灯していることを確認します。

点灯しているときは、レバーを⑤の方向に押して、表示灯を消灯させます。

▶ 希望の速度まで加速、または減速します。

▶ 希望の速度に達したとき、レバーを①か②の方向に操作します。

そのときの速度に設定されます。

または

▶ レバーを④の方向に引きます。

記憶されている設定速度に設定されます。

マルチファンクションディスプレイに設定速度が数秒間表示されます。

アクセルペダルから足を放すと、設定した速度を維持するように走行します。

※ 車種や仕様により、設定速度が記憶されていないときにレバーを④の方向に引いたときは、そのときの速度に設定されます。

警　告

記憶されている設定速度に再度設定するときは、周囲が安全な状況であることを確認してください。走行中の速度と設定速度に大きな差があると、急加速や急減速して事故を起こすおそれがあります。

知　識

- クルーズコントロールの設定速度の表示と、スピードメーターおよびマルチファンクションディスプレイの速度表示には、若干の誤差が生じることがあります。
- 約30km/h以下の速度で走行しているときやESPオフスイッチでESPの機能を解除しているとき、速度が記憶されていないときにレバーを④に方向に引いたときはクルーズコントロールを設定することはできません。このときは、マルチファンクションディスプレイに "---km/h" が数秒間表示されます。
- クルーズコントロールの設定速度は記憶されます。ただし、エンジンスイッチを一度0か1の位置にすると、記憶された速度は消去されます。

設定速度を上げる

▶ レバーを①の方向に上げて保持します。

▶ 希望の速度になったら手を放します。

手を放したときの速度に設定されます。

マルチファンクションディスプレイに設定速度が数秒間表示されます。

設定速度を下げる

▶ レバーを②の方向に下げて保持します。

▶ 希望の速度になったら手を放します。

手を放したときの速度に設定されます。

マルチファンクションディスプレイに設定速度が数秒間表示されます。

知　識

- レバーを①か②の方向にごく短時間操作すると、1km/h単位で速度の設定ができます。
- レバーを②の方向に下げて減速しているときには、シフトダウンしたり、自動的にブレーキを効かせることがあります。

注　意　！

自動的にブレーキを効かせているときは、ブレーキペダルが奥に引き込まれます。ブレーキペダルの下に足を置いていると挟まれたり、ブレーキの作動を妨げるおそれがあります。

一時的に速度を上げる

追い越しなどで一時的に速度を上げるときは、アクセルペダルを踏んで速度を上げてください。アクセルペダルから足を放すと、元の設定速度に戻ります。

クルーズコントロールの設定を解除する

▶ レバーを③の方向に押します。

次の操作をしたときも解除されます。

▶ ブレーキペダルを踏んだとき

▶ レバーを⑤の方向に押したとき

このときはレバーの表示灯⑥が点灯し、可変スピードリミッターの操作ができる状態に切り替わります。

知　識

- クルーズコントロールの設定速度は記憶されます。ただし、エンジンスイッチを一度0か1の位置にすると、記憶された速度は消去されます。
- 以下のときは、クルーズコントロールが自動的に解除されます。
  - ◇ セレクターレバーを N に入れたとき
  - ◇ ESPが作動したとき
  - ◇ ESPオフスイッチでESPの機能を解除したとき
  - ◇ 走行速度が約30km/h以下になったとき

  このときは確認音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに"ｸﾙｰｽﾞ ｺﾝﾄﾛｰﾙ ｵﾌ"と表示されます。
  また、パーキングブレーキを効かせたときも自動的に解除されます。

クルーズコントロールはセレクターレバーを N に入れても解除されますが、走行中はセレクターレバーを N に入れないでください。エンジンブレーキが効かないため、事故を起こしたり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

可変スピードリミッター

可変スピードリミッターで制限速度を設定すると、アクセルペダルを踏み込んでいても、設定した速度を超えないように走行することができます。

設定できる制限速度は30km/hから210km/h、または250km/hの間です。

ただし、車の最高速度以上に制限速度を設定しても、車の最高速度以上の速度で走行することはできません。

警　告

- 走行時は法定速度を遵守してください。可変スピードリミッター使用時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。
- 運転を交代するときは、必ず交代する運転者に、可変スピードリミッターの機能と設定した制限速度を伝えてください。

  可変スピードリミッターの機能を知らずに運転すると、アクセルペダルを踏んでも速度が上がらず、事故を起こすおそれがあります。
- 可変スピードリミッターはブレーキペダルを踏んでも解除できません。
- 可変スピードリミッターは設定した制限速度以上に加速する必要のないときに使用してください。

注　意　！

- 可変スピードリミッターの設定速度の表示と、スピードメーターおよびマルチファンクションディスプレイの速度表示には、若干の誤差が生じることがあります。
- マルチファンクションディスプレイに可変スピードリミッターに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは **（10-9）** をご覧ください。
- 急な下り坂などで惰性がついたときは、速度を維持するために自動的にブレーキを効かせることがありますが、設定速度を維持できないことがあります。

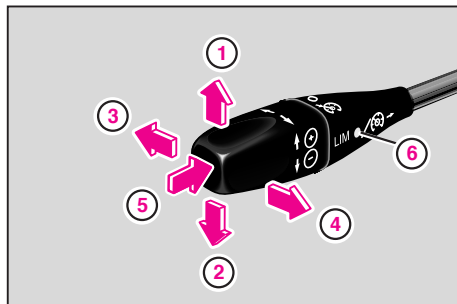
  このようなときは、ブレーキペダルを踏むか、低いギアレンジや低いギアを選択し、エンジンブレーキの効きを強くして、減速してください。

  ただし、路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- 自動的にブレーキを効かせているときは、ブレーキペダルが奥に引き込まれます。ブレーキペダルの下に足を置いていると挟まれたり、ブレーキの作動を妨げるおそれがあります。

知　識

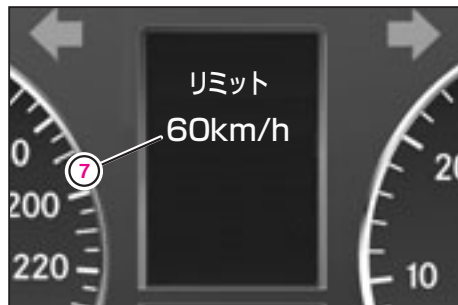
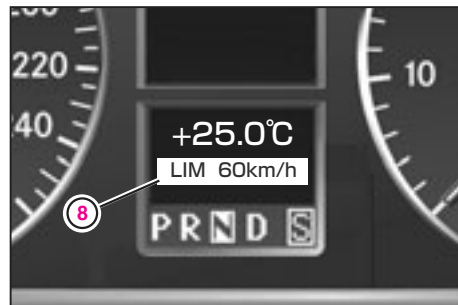
- スノータイヤスピードリミッター **（4-29）** を設定しているときは、可変スピードリミッターで設定できる制限速度は、スノータイヤスピードリミッターの設定速度が上限になります。
- 設定した速度を維持できないときは、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに "ﾘﾐｯﾄ ｺｴﾏｼﾀ!" と表示されることがあります。

可変スピードリミッター

可変スピードリミッターの使い方

①〜⑤　レバーの操作方向
⑥ 表示灯

クルーズコントロール(5-41)と同じレバーを使用します。

レバーの表示灯⑥が点灯しているときに、可変スピードリミッターを操作できます。

レバーの表示灯⑥が消灯しているときは、クルーズコントロールを操作できる状態です。レバーを⑤の方向に押すと表示灯⑥が点灯し、可変スピードリミッターの操作ができる状態に切り替わります。

設定速度がマルチファンクションディスプレイに表示された例
⑦ 設定速度

設定速度が車両情報サブ画面に移動し、表示された例
⑧ 設定速度

可変スピードリミッターを設定する

レバーの表示灯⑥が点灯していることを確認してください。

▶ レバーを①か②の方向に操作します。

停車中および走行速度が30km/h以下のときは30km/hに設定されます。

走行速度が30km/h以上のときはそのときの速度に設定されます。

または

▶ レバーを④の方向に引きます。

記憶されている制限速度に設定されます。

マルチファンクションディスプレイに設定速度⑦が表示され、数秒後に表示が車両情報サブ画面に移動します。

※ 車種や仕様により、設定速度が記憶されていないときにレバーを④の方向に引いたときは、走行速度が30km/h以下のときは30km/hに、走行速度が30km/h以上のときはそのときの速度に設定されます。

注 意 !

- 可変スピードリミッターを設定するときは、周囲の状況、特に後方の車などに注意しながら操作してください。事故を起こすおそれがあります。
- 可変スピードリミッターを解除しても、設定速度は記憶されています。記憶されている速度が走行速度よりも低い場合、記憶されている速度に再度設定すると、アクセルペダルを踏んでいても車は減速します。

知 識

- 可変スピードリミッターを解除する前の設定速度は記憶されます。ただし、エンジンスイッチを一度**0**か**1**の位置にすると、記憶された速度は消去されます。
- 設定速度が記憶されていないときにレバーを④の方向に引くと、マルチファンクションディスプレイに "---km/h" が数秒間点滅します。
- アクセルペダルを踏んでキックダウンしているときは、可変スピードリミッターを設定することはできません。
- 可変スピードリミッターで制限速度を設定すると、車両情報サブ画面の時計表示のかわりに設定した制限速度が表示されます。

  このときに時計を表示するには、マルチファンクションディスプレイを走行速度 / 外気温度表示画面に切り替えます**(4-7)**。

可変スピードリミッター

設定速度を変更する

▶ レバーを①の方向に上げます。

設定速度が10km/h単位で上がります。

または

▶ レバーを④の方向に引きます。

設定速度が1km/h単位で上がります。

または

▶ レバーを②の方向に下げます。

設定速度が10km/h単位で下がります。

注　意　！

設定速度を変更するときは、周囲の状況、特に後方の車などに注意しながら操作してください。事故を起こすおそれがあります。

可変スピードリミッターを解除する

▶ レバーを③の方向に押します。

次の操作をしたときも解除されます。

▶ レバーを⑤の方向に押します。

このときはレバーの表示灯⑥が消灯し、クルーズコントロールの操作ができる状態に切り替わります。

知　識

次の操作をしたときは可変スピードリミッターが自動的に解除されます。

- アクセルペダルを踏んでキックダウンしたとき。このときは確認音が鳴ります。

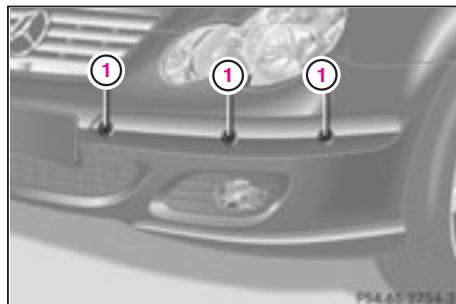
  ただし、走行速度が設定速度より20km/h以上低い速度のときは、キックダウンしても可変スピードリミッターは解除されません。
- エンジンを停止したとき。

パークトロニック＊

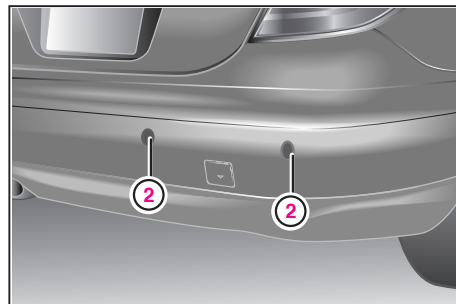
パークトロニックは、フロントとリアのバンパーにあるセンサーで障害物などを感知し、車と障害物とのおよその距離を、インジケーターと警告音で運転者に知らせる装置です。

注 意 ！

パークトロニックは運転者を支援するシステムです。運転者はパークトロニックだけに頼らず、必ず周囲の状況を確認してください。特に周辺に人や動物がいないことを確認してください。

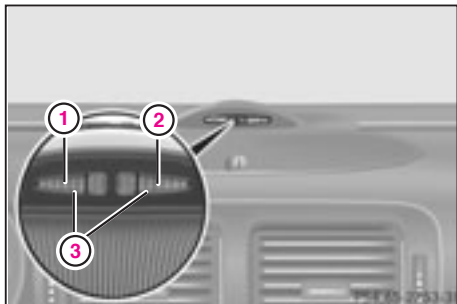
パークトロニックセンサー

フロント
① センサー

リア
② センサー

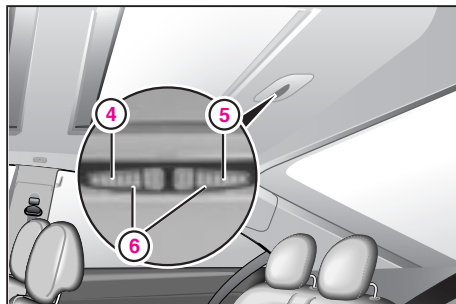
フロントバンパーの6個のセンサー①とリアバンパーの4個のセンサー②が車の周辺の障害物などを感知します。

注 意 ！

センサーに泥や氷、雨、水しぶきなどが付いた状態のときは正しく作動しないことがあります。このときは赤色インジケーターが点灯します。センサーに損傷を与えないよう注意して、定期的に清掃をしてください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

パークトロニック

インジケーター

フロント
① フロント左側インジケーター
② フロント右側インジケーター
③ フロント作動表示灯

フロントのインジケーターはダッシュボード上の図の位置にあります。

リア
④ リア右側インジケーター
⑤ リア左側インジケーター
⑥ リア作動表示灯

リアのインジケーターはリアルームランプに装備されています。

バンパーと障害物などとのおよその距離をインジケーターの点灯数で示します。

注　意！

赤色インジケーターが点灯して警告音が鳴ったときは、システムに異常があり、機能が解除されることがあります。このときは、パークトロニックオフスイッチ(5-56)の表示灯が点灯します。

知　識

エンジンスイッチを**2**の位置にすると、すべてのインジケーターと作動表示灯が一瞬点灯します。

パークトロニックの作動条件

エンジンスイッチが2の位置のとき、シフト位置に応じて以下のように作動します。

シフト位置	作動内容
D	フロントのセンサーが作動し、フロントの作動表示灯③が点灯します。
R N	フロントとリアのセンサーが作動し、フロントとリアの作動表示灯③⑥が点灯します。
P	パークトロニックは作動しません。

知 識

- パークトロニックが作動したとき、センサーの感知範囲に障害物などがあると、その距離に応じて表示灯が点灯し、警告音が鳴ります。
- パークトロニックは、速度が約18km/h以下のときに待機状態になります。速度が約18km/h以上になると機能が解除されます。

パークトロニックの作動

センサー感知範囲に障害物が入ったとき

センサー感知範囲に障害物が入ると、黄色インジケーターが1個点灯します。

障害物との距離が短くなるにつれ、点灯する黄色インジケーターの数が増えていきます。

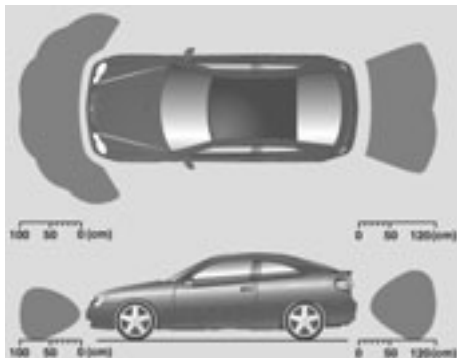
障害物との距離が近くなったとき

障害物との距離がセンサーの最短感知距離に近くなると、黄色インジケーターに加えて赤色インジケーターが1個点灯し、警告音が断続的に3秒間鳴ります。

最短感知距離(約20～15cm)になると、上記の表示灯に加えて2個目の赤色インジケーターが点灯し、警告音が連続的に3秒間鳴ります。

注　意　！

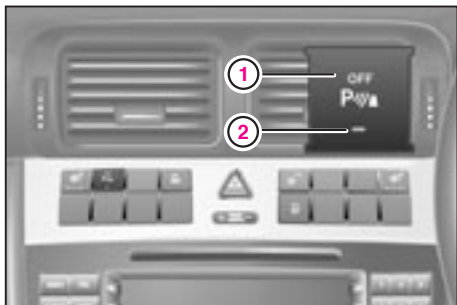
障害物との距離がセンサーの最短感知距離よりも近くなると、センサーは障害物を感知できなくなり、パークトロニックが正常に作動しなくなることがあります。

センサーの感知範囲

フロント バンパー側	センサー感知範囲
センター	約100cm～20cm
コーナー	約60cm～15cm

リア バンパー側	センサー感知範囲
センター	約120cm～20cm
コーナー	約80cm～15cm

注 意 !

- 車のセンターでバンパーから約20cm以内、コーナーでバンパーから約15cm以内にある障害物は感知できません。
- センサーの周辺にアクセサリーなどを取り付けないでください。パークトロニックが正常に作動せず、車を損傷したり事故につながるおそれがあります。
- 針金やロープなどの細い物や、植木鉢や建物の張り出しなどセンサーの上下にあるものに十分注意してください。これらが至近距離にあるとき、状況によっては、センサーがこれらを感知せず、車や物を損傷するおそれがあります。

- センサーは雪などの超音波を吸収しやすい物を感知しないことがあります。
- 電波を発する物が近くにあるときや、不整地などを走行しているときは、パークトロニックが正常に作動しないことがあります。
- 大型車の排気ブレーキや工事用のエアコンプレッサーなどが近くにあると、超音波が乱され、パークトロニックが正常に作動しないことがあります。
- 温度や湿度が高いときや超音波や低周波を発生させる機器が車の近くにあるとき、またエンジンルームの温度が高いときは、パークトロニックが正常に作動しないことがあります。運転者はパークトロニックだけに頼らず、必ず周囲の状況を確認してください。特に車の周辺に人や動物がいないことを確認してください。

パークトロニックオフスイッチ

① パークトロニックオフスイッチ
② 表示灯

パークトロニックの機能を解除することができます。

パークトロニック機能を解除する

▶ エンジンスイッチが2の位置のとき、パークトロニックオフスイッチ①を押します。

スイッチの表示灯②が点灯します。

パークトロニックを待機状態にする

▶ 再度、パークトロニックオフスイッチ①を押します。

スイッチの表示灯②が消灯します。

知　識

パークトロニックオフスイッチでパークトロニックの機能を解除しても、次にエンジンスイッチを2の位置にしたとき、パークトロニックは自動的に待機状態になります。

注　意　！

システムが故障するとパークトロニックオフスイッチの表示灯が点灯し、警告音が鳴って作動を停止します。指定サービス工場で点検を受けてください。

エアコンディショナー

エアコンディショナー（クライメートコントロール）は、設定温度や外気温度などに応じて、送風量や送風口の組み合わせなどを自動的に調整し、車内の温度や湿度などを快適な状態に保ちます。

環　境

- エアコンの冷媒には、新冷媒R134aを使用しています。
- 地球環境を保護するため、フロンガスを大気放出することは法律で禁止されています。また、すべての自動車オーナーは、フロンガスが適切に処理されるよう努めなければなりません。
- エアコンの冷媒の補充、交換、廃棄などは、必ず指定サービス工場で行なってください。

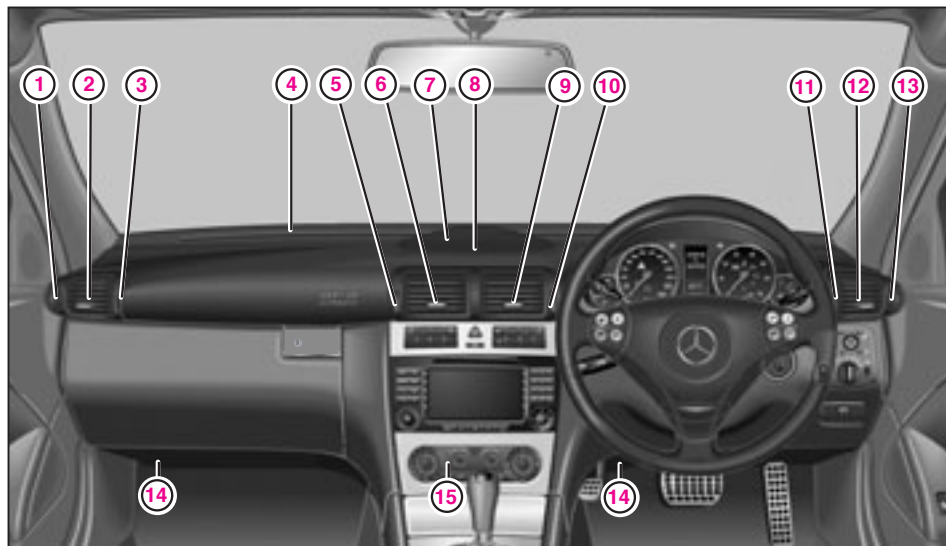
＊オプションまたは仕様により装備が異なります

注　意 ！

- 送風温度を高めに設定しているときは、送風口が過熱して高温になることがあります。火傷をするおそれがありますので十分に注意してください。
- 送風温度を低めに設定してあるときに送風口に身体を近付けると、しもやけなどを起こすおそれがありますので十分に注意してください。
- 皮膚の弱い人は、送風口に身体を近付けすぎないように注意してください。
- 車内が高温になっているときは、エアコンディショナーを作動させる前に換気をしてください。
- ボンネットの吸気口が雪や氷で覆われないようにしてください。
- 送風口や車内の吸気口が覆われないようにしてください。

知　識

- 除湿 / 冷房された空気はエンジンがかかっているときに送風されます。
- 除湿された水分は車体下方に排水されます。
- ドアウインドウやパノラミックスライディングルーフ＊が開いていると、設定温度を維持することができません。
- ドアウインドウやパノラミックスライディングルーフ＊が閉じているときにエアコンディショナーを停止すると、ウインドウが曇りやすくなります。
- 一度に大幅に設定温度を変更しても、設定温度に達するまでの時間はあまり変わりません。
- エアコンディショナーの機能やモードのなかには、併用可能な組み合わせがあります。
- エアコンディショナーのフィルター類は定期的な交換が必要です。また、交換時期は使用環境によって異なります。

送風口の位置

①	ドアウインドウ送風口（左側）
②	サイド送風口（左側）
③	サイド送風口（左側） 開閉ダイヤル
④	フロントウインドウ送風口
⑤	中央送風口（左側） 開閉ダイヤル
⑥	中央送風口（左側）
⑦	ダッシュボード送風口
⑧	ダッシュボード送風口開閉ダイヤル
⑨	中央送風口（右側）
⑩	中央送風口（右側） 開閉ダイヤル
⑪	サイド送風口（右側） 開閉ダイヤル
⑫	サイド送風口（右側）
⑬	ドアウインドウ送風口（右側）
⑭	足元送風口
⑮	コントロールパネル

知　識

センターコンソールの後端に後席用の送風口があります。

送風口の調整

送風口を開く

▶ 各送風口の送風口開閉ダイヤル③⑤⑧⑩⑪を上方にまわすと、徐々に送風口が開き、風量が上がります。

送風口を閉じる

▶ 各送風口の送風口開閉ダイヤル③⑤⑧⑩⑪を下方にまわすと、徐々に送風口が閉じ、風量が下がります。

送風口開閉ダイヤルを止まるまで下方にまわすと送風口が閉じます。

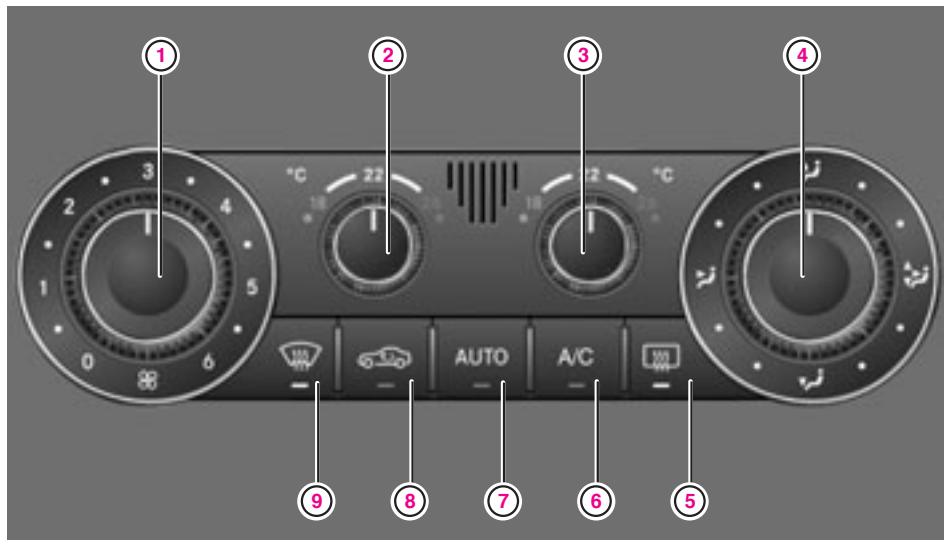
送風口の風向を調整する

▶ 各送風口のノブを上下左右に動かして風向を調整します。

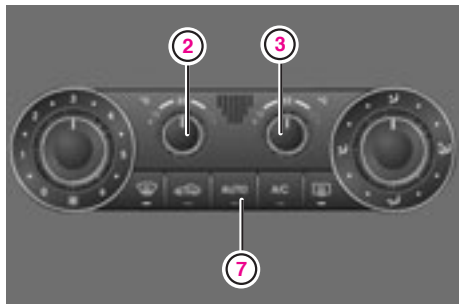
フロントウインドウ送風口④、ダッシュボード送風口⑦、ドアウインドウ送風口①⑬、足元送風口⑭は、風向を調整することはできません。

知　識

- 換気効率を良くするため、中央送風口⑥⑨とサイド送風口②⑫のノブは、中央の位置にすることをお勧めします。
- 送風口開閉ダイヤルを止まるまで下方にまわしても、完全に送風口を閉じることはできません。

スイッチの名称

	名称
①	送風量調整ダイヤル
②	送風温度調整ダイヤル（左側）
③	送風温度調整ダイヤル（右側）
④	送風口選択ダイヤル
⑤	リアデフォッガースイッチ
⑥	ACスイッチ
⑦	AUTOスイッチ
⑧	内気循環スイッチ
⑨	デフロスタースイッチ

※エアコンディショナーのスイッチ類の絵柄などは、イラストと異なる場合があります。

通常の使いかた（AUTOモード）

② 送風温度調整ダイヤル（左側）
③ 送風温度調整ダイヤル（右側）
⑦ AUTOスイッチ

知 識

- エアコンディショナーをAUTOモードで作動させると、自動的にACモード(6-8)に設定されます。
- エンジンの始動直後は、設定にかかわらず、約30秒間足元にも送風されます。

エアコンディショナーを作動させる

▶ AUTOスイッチ⑦を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

送風口の組み合わせと送風量が自動的に調整されるようになります。

▶ 送風温度調整ダイヤル②③で好みの温度を設定します。

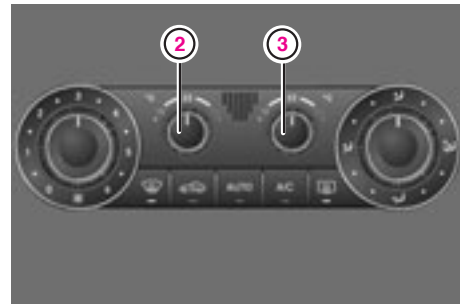
通常は22℃に設定することをお勧めします。

AUTOモードを解除する

▶ エアコンディショナーがAUTOモードで作動しているときに、AUTOスイッチ⑦を押します。

AUTOスイッチの表示灯が消灯し、AUTOモードが解除されます。

送風量の調整や送風口の選択を手動で行なうことができます。

送風温度の調整

② 送風温度調整ダイヤル（左側）
③ 送風温度調整ダイヤル（右側）

送風温度を上げる

▶ 送風温度調整ダイヤル②③を時計回りにまわします。

送風温度を下げる

▶ 送風温度調整ダイヤル②③を反時計回りにまわします。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

知　識

- 送風温度は左右別々に設定できます。
- 通常は22℃に設定することをお勧めします。
- ドアウインドウやパノラミックスライディングルーフ＊が開いていると、設定温度を維持できません。

エアコンディショナーの停止

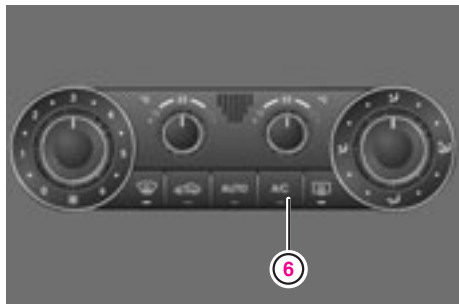
① 送風量調整ダイヤル

エアコンディショナーを停止する

▶ 送風量調整ダイヤル①を0の位置にします。

知　識

- 送風量調整ダイヤルが0の位置でエアコンディショナーが作動しているときは、送風量調整ダイヤルを一度0以外の位置にしてから、再度0の位置にするとエアコンディショナーは停止します。
- ドアウインドウやパノラミックスライディングルーフ＊が閉じているときにエアコンディショナーを停止すると、ウインドウが曇りやすくなります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

ACモード

⑥ ACスイッチ

除湿 / 冷房された空気が送風されます。

AUTOモードでエアコンディショナーを作動させたときは、自動的にACモードになり、スイッチの表示灯が点灯します。

ACモードを解除する

▶ ACスイッチ⑥を押します。
スイッチの表示灯が消灯します。

除湿 / 冷房が行なわれなくなります。

ACモードを設定する

▶ 再度、ACスイッチ⑥を押します。
スイッチの表示灯が点灯します。

環　境

ACモードを解除すると、エンジンへの負荷が軽減し、燃費が向上します。

知　識

- 除湿 / 冷房された空気は、エンジンがかかっているときに送風されます。
- デフロスターモード**(6-13)**を解除したときは、自動的にACモードになります。
- ドアウインドウとパノラミックスライディングルーフ＊が閉じているときにACモードを解除すると、ウインドウが曇りやすくなります。

  ACモードの解除は短時間にとどめてください。
- エアコンディショナーの冷媒が減っているときにACスイッチ⑥を押すと、表示灯が点滅もしくは消灯したままになり、除湿 / 冷房が行なわれません。すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。
- ACモードを解除しても、しばらくは除湿 / 冷房された空気が送風されることがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

手動で送風量を調整する

① 送風量調整ダイヤル

送風量を手動で調整することができます。エアコンディショナーがAUTOモードで作動しているときは、AUTOモードを解除（6-6）してから、送風量を調整します。

送風量を上げる

▶ 送風量調整ダイヤル①を時計回りにまわします。

送風量を下げる

▶ 送風量調整ダイヤル①を反時計回りにまわします。

知　識

- エアコンディショナーが停止しているときに送風量調整ダイヤル①を0以外の位置にすると、エアコンディショナーが作動します。
- エアコンディショナーが作動しているときに送風量調整ダイヤル①を0の位置にすると、エアコンディショナーは停止します。

手動で送風口を選択する

④ 送風口選択ダイヤル

送風口を手動で選択することができます。エアコンディショナーがAUTOモードで作動しているときは、AUTOモードを解除（6-6）してから、送風口を選択します。

知 識

- 選択した送風口以外の送風口からも多少の送風が行なわれることがあります。
- リア足元の送風口はフロントシートの下にあります。
- ダイヤルをマークの中間に合わせると、組み合わせた送風口から送風することができます。

送風口を選択する

送風口選択ダイヤル④をまわして、好みの送風口表示マークに合わせます。

▶ に合わせます。

中央、ダッシュボード、サイド、リアなどの送風口を中心に送風されます。

▶ に合わせます。

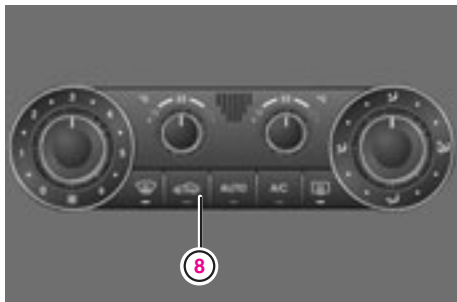
フロントウインドウ送風口、ドアウインドウ送風口を中心に送風されます。

▶ に合わせます。

足元（フロントとリア）の送風口を中心に送風されます。

▶ に合わせます。

すべての送風口から送風されます。

内気循環モード

⑧ 内気循環スイッチ

トンネル内など、空気が汚れた場所で外気を車内に入れたくないときに使用します。

内気循環モードに切り替えると、車内の空気が循環されます。

内気循環モードの設定 / 解除に連動して、ドアウインドウとパノラミックスライディングルーフ＊を開閉することができます。

内気循環モードに設定する

▶ 内気循環スイッチ⑧を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

内気循環スイッチ⑧を2秒以上押し続けると、開いているドアウインドウとパノラミックスライディングルーフが閉じます。

内気循環モードに設定されているときも、一定時間を経過すると外気導入モードに切り替わります。

外気温度が 5℃以上のとき	約30分後
外気温度が 5℃以下のとき	約5分後
ACモードを解除しているとき	約5分後

内気循環モードを解除する（外気導入モードにする）

▶ 再度、内気循環スイッチ⑧を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

内気循環スイッチ⑧を2秒以上押し続けると、ドアウインドウとパノラミックスライディングルーフが前回開いていた位置まで開きます。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

知　識

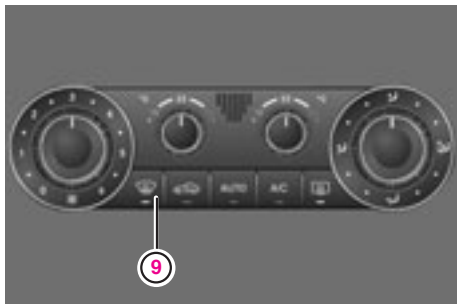
- ドアウインドウとパノラミックスライディンググルーフ＊が閉じているときに内気循環モードにするとウインドウが曇りやすくなります。

  ウインドウが曇りはじめたときは内気循環モードを解除してください。曇り具合がひどいときはデフロスターモードにしてください。
- 外気温度が非常に高いときは、冷房効率を高めるために自動的に内気循環モードに切り替わることがあります。表示灯は点灯しませんが、約30分経過すると、一定の割合で外気導入をはじめます。
- AUTOモードやデフロスターモードにするか、ACモードを解除すると、外気導入モードになります。
- 内気循環スイッチで閉じたドアウインドウやパノラミックスライディンググルーフを別のスイッチで開いた場合、開いたドアウインドウやパノラミックスライディンググルーフを、内気循環モードの解除操作と連動して前回開いていた位置まで開くことはできません。

注　意　！

- 内気循環スイッチでドアウインドウとパノラミックスライディンググルーフを閉じているときは、乗員が身体を挟まれないよう、十分注意してください。
- 内気循環スイッチでドアウインドウを開いているときは、ドアウインドウに身体を寄りかけないでください。ドアウインドウとドアフレームとの間に身体が引き込まれてけがをするおそれがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

デフロスターモード

⑨ デフロスタースイッチ

フロントウインドウやドアウインドウの内側の曇りを取るときに使用します。

デフロスターモードに設定する

▶ デフロスタースイッチ⑨を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

エアコンディショナーが以下の状況で作動します。

- 送風量が最大になり、送風温度が高くなります。
- 送風口が自動的に選択されます。
- 外気導入になります。
- ACモードになります。
  ただし、ACモードスイッチの表示灯は点灯しません。

デフロスターモードを解除する

▶ 再度、デフロスタースイッチ⑨を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

エアコンディショナーの送風量や送風温度、送風口の選択が元の設定に戻ります。

知　識

- 曇りが取れたら、すみやかに解除してください。
- 車外の湿度が高いときなどに、ウインドウの外側が曇ることがあります。このときは、ウインドウに冷気が当たらないように送風口を調整すると、外側の曇りを軽減できます。
- デフロスターモードを解除すると、自動的に外気導入モードになります。また、ACモードを解除していたときはACモードに設定されます。

リアデフォッガー

⑤ リアデフォッガースイッチ

リアウインドウの曇りを取るときに使用します。

エンジンスイッチが**2**の位置のときに使用できます。

リアデフォッガーを使用する

▶ リアデフォッガースイッチ⑤を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

リアデフォッガーを停止する

▶ 再度、リアデフォッガースイッチ⑤を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

リアデフォッガーは約6～17分後に自動的に停止します。

警　告

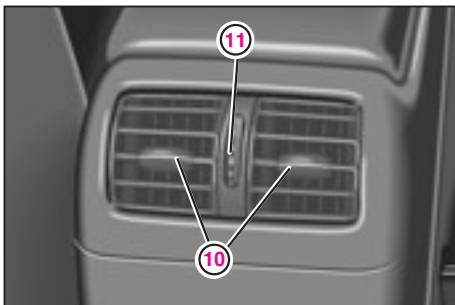
ウインドウに雪や氷が付着しているときは、走行前にそれらを取り除いて視界を確保してください。事故を起こすおそれがあります。

注　意　!

- リアウインドウに雪や氷が付いている場合は、それらを取り除いてから使用してください。
- 消費電力が大きいため、曇りが取れたら早めに停止してください。

知　識

- 外気温度と走行速度により、リアデフォッガーが自動的に停止するまでの時間は異なります。
- バッテリーの電圧が低くなるとリアデフォッガーは自動的に停止し、表示灯が点滅します。電圧が回復すると自動的に作動を開始します。

リア送風口

⑩ リア送風口
⑪ 送風口開閉ダイヤル

センターコンソール後端に後席用のリア送風口⑩があります。

送風口を開く

▶ 送風口開閉ダイヤル⑪を上方にまわすと徐々に送風口が開き、風量が上がります。

送風口を閉じる

▶ 送風口開閉ダイヤル⑪を下方にまわすと徐々に送風口が閉じ、風量が下がります。

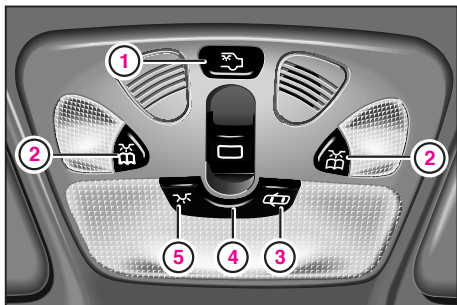
送風口開閉ダイヤル⑪を止まるまで下方にまわすと送風口が閉じます。

送風口の風向を調整する

▶ リア送風口⑩のノブを動かします。

知 識

- 送風口開閉ダイヤルを止まるまで下方にまわしても、送風口を完全に閉じることはできません。
- 左右のリア送風口からの送風温度は、フロントの左右の送風温度の設定に連動します。
- リア足元の送風口がフロントシートの下にあります。荷物などで送風口をふさがないでください。
- 換気効率を良くするため、リア送風口のノブは上方に向けることをお勧めします。

ルームランプ

パノラミックスライディングルーフ装備車
① リアルームランプスイッチ
② フロントリーディングランプスイッチ
③ 常時消灯モード
④ 自動点灯モード（中立の位置）
⑤ 手動点灯モード

注 意 ！

車を施錠したときは、ルームランプやラゲッジルームランプが消灯することを確認してください。

※パノラミックスライディングルーフ非装備車はスイッチの形状などが異なります。

ルームランプの点灯モードの選択

自動点灯モードにする

▶ ルームランプスイッチを中立の位置④にします。

知 識

スイッチが中立の位置④でも、周囲が明るいときはルームランプやラゲッジルームランプが点灯しないことがあります。

周囲が暗いときに以下の操作をするとフロントとリアのルームランプ、ラゲッジルームランプが点灯 / 消灯します。

- エンジンスイッチからキーを抜くと点灯し、約10秒後に消灯します（4-27）。
- リモコン操作で解錠すると点灯し、約30秒後に消灯します。
- ドアを開くとフロントとリアのルームランプが点灯し、テールゲートを開くとラゲッジルームランプが点灯します。

  ◇エンジンスイッチが2の位置のときは、ドアまたはテールゲートを閉じるとただちに消灯します。

  ドアまたはテールゲートを開いたままのときは消灯しません。

  ◇エンジンスイッチが0か1の位置のとき、またはキーが抜いてあるときは、ドアまたはテールゲートを閉じると約10秒後に消灯します。

  ドアまたはテールゲートを開いたままのときは約5分後に消灯します。

常時消灯モードにする

▶ ルームランプスイッチの③側を押します。

以下のいずれかの操作をしても、ルームランプとラゲッジルームランプは点灯しません。

- エンジンスイッチからキーを抜く
- リモコン操作で解錠する
- ドアまたはテールゲートを開く

フロントルームランプを手動で点灯する

▶ ルームランプスイッチの⑤側を押します。

フロントルームランプが点灯します。

リアルームランプを点灯 / 消灯する

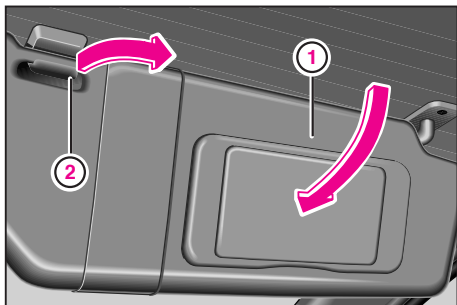
▶ リアルームランプスイッチ①を押します。

リアルームランプが点灯 / 消灯します。

フロントリーディングランプを点灯 / 消灯する

▶ フロントリーディングランプスイッチ②を押します。

フロントリーディングランプが点灯 / 消灯します。

サンバイザー

① サンバイザー
② フック

前方からの眩しさを防ぐ

▶ サンバイザー①を下げます。

横方向からの眩しさを防ぐ

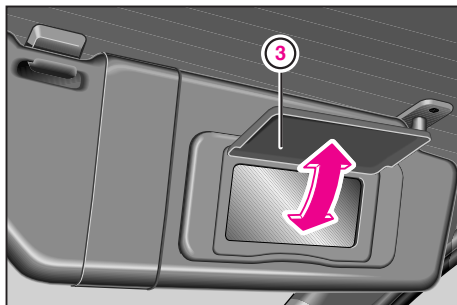
▶ サンバイザーを下げます。

▶ サンバイザーをフック②から外します。

▶ サンバイザーを横にまわします。

注　意　！

サンバイザーを横にまわすときは、バニティミラーのカバーを閉じてください。ルーフやバニティミラーカバーを損傷するおそれがあります。

バニティミラー

③ バニティミラーカバー

バニティミラーを使用する

▶ サンバイザーを下げます。

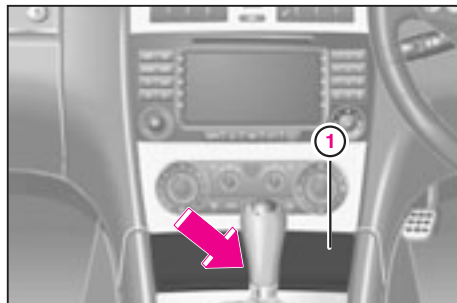
▶ バニティミラーカバー③を上方に開きます。

使用後はバニティミラーカバー③を閉じます。

注　意　！

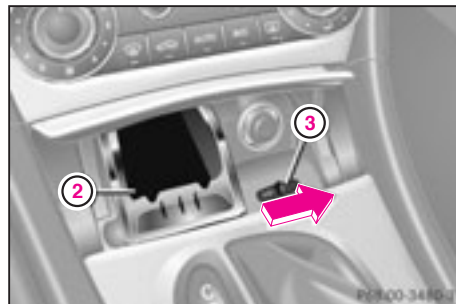
眩惑を防ぐため、走行中はバニティミラーカバーを閉じてください。

灰皿

フロントの灰皿

① 灰皿カバー

灰皿を開く

▶ 灰皿カバー①の下側を押して開きます。

> **注　意！**
>
> 開くときはカバーの上側を押さないでください。カバーの開閉機構を損傷するおそれがあります。

② 灰皿
③ ノブ

灰皿を取り外す

▶ エンジンを停止して、パーキングブレーキを効かせます。

▶ エンジンスイッチを**2**の位置にして、ブレーキペダルを踏みながら、セレクターレバーを**N**に入れます。

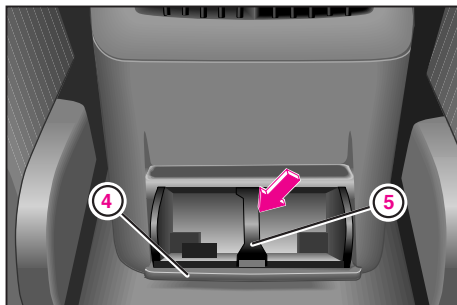
▶ ノブ③を右側に押します。

灰皿②を取り外します。

> **注　意！**
>
> 灰皿を取り外すときは、必ずエンジンを停止して、パーキングブレーキを確実に効かせてください。

灰皿を取り付ける

▶ 灰皿を元の位置に合わせて、押し込みます。

リアの灰皿

④ 灰皿カバー
⑤ スプリング

灰皿を開く

▶ 灰皿カバー④を手前に引きます。

灰皿を取り外す

▶ スプリング⑤を押しながら、灰皿を手前に引きます。

灰皿を取り付ける

▶ 灰皿底部を差し込み、スプリング⑤を押しながら、灰皿を押し込みます。

注　意　！

- 吸いがらやマッチの火は確実に消してください。
- 紙くずなどの燃えやすい物は入れないでください。
- 使用後は確実にカバーを閉じてください。

ライター

① ライター

エンジンスイッチが1か2の位置のときに使用できます。

ライターを使用する

▶ ライター①を押し込みます。

熱せられると、ライターは元の位置に戻ります。

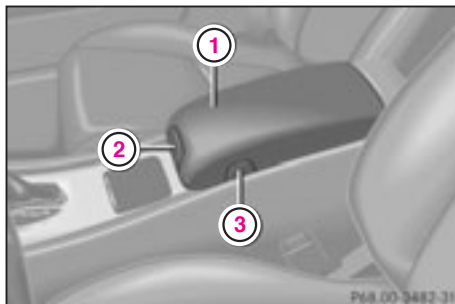
使用後は灰皿で灰を落とし、元の位置に戻します。

警　告

ライターは必ずノブの部分を持ってください。金属部を持つと火傷をするおそれがあります。

注　意　！

- 安全のため、子供を乗せるときはライターを抜き取ってください。
- ライターを押し込んだ後、押さえ続けないでください。ライターを損傷するおそれがあります。
- 赤熱部に灰や異物が付着したまま使用しないでください。火災が発生するおそれがあります。
- ライターを改造したり、純正品以外のライターを使用しないでください。ライターやセンターコンソールを損傷したり、火災が発生するおそれがあります。
- ライターが戻らなくなったときは、エンジンスイッチを0の位置にするか、エンジンスイッチからキーを抜いて、指定サービス工場に連絡してください。
- アクセサリー電源としてライターソケットを使用するときは、純正アクセサリーだけを使用してください。

小物入れ

① アームレスト
② レバー
（アームレスト下部の小物入れを開く）
③ ボタン
（アームレスト上部の小物入れを開く）

アームレスト上部の小物入れ

アームレスト上部の小物入れを開く

▶ ボタン③を押してカバーを開きます。

ボタン③は左右にあり、カバーを左右に開くことができます。

アームレスト上部の小物入れを閉じる

▶ カバーを下げてロックします。

アームレスト下部の小物入れ

アームレスト下部の小物入れを開く

▶ レバー②を引きながら、アームレスト①を引き上げます。

アームレスト下部の小物入れを閉じる

▶ アームレスト①を下げてロックします。

小物入れ

警　告

走行中は必ず小物入れのカバーやアームレストを閉じてください。急ブレーキや万一の衝突時に収納物が飛び出して、乗員がけがをするおそれがあります。

注　意　!

- アームレストが閉じなくなるような大きな物を小物入れに入れないでください。アームレストや収納物が損傷するおそれがあります。
- 小物入れには食料品を収納しないでください。

携帯電話の接続

アームレスト上部の小物入れには携帯電話用のコネクターが装備されています。

コネクターに携帯電話を接続すると、電話の発信 / 受信ができます。

携帯電話を取り付ける

▶ 携帯電話の外部端子をコネクターに接続します。

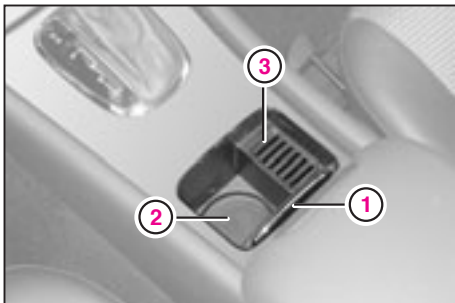
携帯電話を取り外す

▶ コネクター左右のロック解除ボタンを押しながら、携帯電話をコネクターから取り外します。

注　意　!

携帯電話がコネクターに接続できないときは、無理に取り付けないでください。携帯電話やアームレストのカバーを損傷するおそれがあります。

※電話の操作については、別冊「Audio 20 取扱説明書」または「マルチファンクションコントローラー取扱説明書」をお読みください。

カップホルダー

① カバー
② カップホルダー
③ コインホルダー

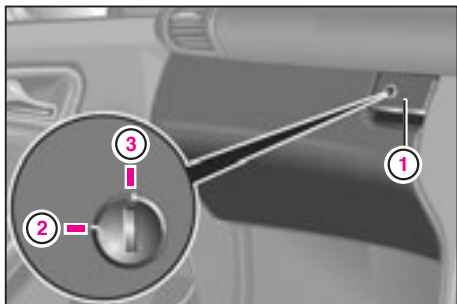
カップホルダーを使用する

▶ カバー①を後方にスライドします。

注　意　!

- 火傷防止のため、熱い飲み物が入った容器を置かないでください。
- カップホルダーのサイズに合ったフタ付きの容器を使用してください。
- 走行中はカップホルダーを使用しないでください。

知　識

カップホルダー②の横にコインホルダー③があります。

グローブボックス

① ハンドル
② 施錠の位置
③ 解錠の位置

グローブボックスを開く

▶ ハンドル①を引いて開きます。

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のとき、グローブボックスを開くとグローブボックスランプが点灯します。

グローブボックスを閉じる

▶ カバーを押してロックします。

グローブボックスを施錠する

▶ キーシリンダーにエマージェンシーキー（3-12）を差し込み、施錠の位置②にまわします。

グローブボックスを解錠する

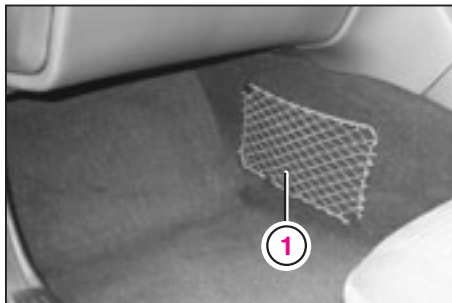
▶ キーシリンダーにエマージェンシーキーを差し込み、解錠の位置③にまわします。

注　意　!

- 走行中は、グローブボックスのカバーを開いたままにしないでください。急ブレーキ時や衝突時などに乗員がけがをしたり、収納物が飛び出すおそれがあります。
- 貴重品はグローブボックス内に保管しないでください。

知 識

- 駐車場などでキーを預ける場合に、グローブボックスを開けられたくないときは、グローブボックスを施錠してください。その際は、エマージェンシーキーをキー本体から取り外し、携帯してください。
- グローブボックス内には外部音声入力端子があります。詳しくは別冊「Audio 20 取扱説明書」または「マルチファンクションコントローラー 取扱説明書」をご覧ください。

収納ネット

① 収納ネット

助手席の足元に新聞や雑誌などを収納できるネットを備えています。

注 意 !

- 収納ネットには、重い物や固い物、ビンや缶、割れやすい物、鋭利な形状の物を入れないでください。
- 収納ネットから収納物がはみ出さないようにしてください。

アシストグリップ / コートフック

アシストグリップ

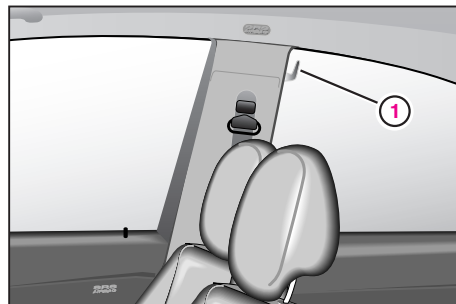
ドアウインドウの上方にアシストグリップがあります。コーナリング時の姿勢保持などに使用します。

警　告

SRSウインドウバッグの作動を妨げたり、作動時に物が飛んで乗員がけがをするおそれがありますので、アシストグリップにハンガーやアクセサリーなどをかけないでください。

注　意　!

- アシストグリップにぶらさがったり、必要以上の大きな荷重をかけないでください。アシストグリップを損傷するおそれがあります。
- 運転者は運転中にアシストグリップを使用しないでください。

コートフック

① コートフック

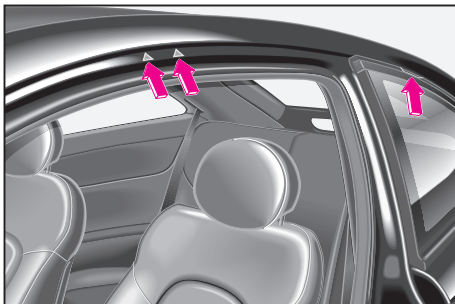
図の位置にコートフック①があります（左右）。

警　告

SRSウインドウバッグの作動を妨げたり、作動時に物が飛んで乗員がけがをするおそれがありますので、軽く柔らかい衣服以外の物をかけたり、ハンガーなどを使用しないでください。

注　意　!

衣服が運転者の視界の妨げにならないようにしてください。

ルーフラック

ルーフラック取り付け位置のマークが、図の矢印で示した箇所にあります。

ルーフラックはダイムラー・クライスラー社の純正品および指定品の使用をお勧めします。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

警　告

ルーフに荷物を積んでいるときは、車の重心位置が変化し、走行安定性に影響を与えます。運転するときは十分注意してください。

注　意 ！

- ルーフラックを取り付けるときは、製品に添付の取扱説明書に従ってください。
- 純正品以外のルーフラックを取り付けると車を損傷するおそれがあります。
- ルーフの最大積載量（100kg）を超えないように注意してください。
- ルーフラックを取り付けるときは下記に注意してください。車を損傷するおそれがあります。
  - ◇ パノラミックスライディングルーフ＊をチルトアップさせたときに接触しないこと
  - ◇ テールゲートを開いたときに接触しないこと

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

事故・故障のとき

警　告

燃料などが漏れている場合は、すぐにエンジンを停止してください。また、車に火気を近付けないように注意してください。火災が発生したり、爆発するおそれがあります。

事故が起きたとき

以下の処置をとってください。

- 続発事故を防ぐため、交通の妨げにならない安全な場所に停車し、エンジンを停止してください。
- 負傷者がいるときは、消防署に救急車の出動を要請するとともに、負傷者の救護を行なってください。ただし、頭部を負傷している場合は負傷者をむやみに動かさないでください。
- 警察に連絡してください。事故が発生した場所や事故状況、負傷者の有無や負傷状態などを報告してください。
- 相手の方の氏名や住所、電話番号などを確認してください。
- 自動車保険会社に連絡してください。

路上で故障したとき

安全な場所に停車して、非常点滅灯を点滅させてください。高速道路や自動車専用道路では、車の後方に停止表示板を置くことが法律で義務付けられています。追突のおそれがあるため、乗員は車内に残らず、ただちに安全な場所に避難してください。

車が動かなくなったとき

セレクターレバーを N に入れて、パーキングブレーキを解除し、同乗者や付近の人に救援を求めて、安全な場所まで車を押して移動してください。このときは、車速感応ドアロックによるキーの閉じ込みに注意してください。

注　意！

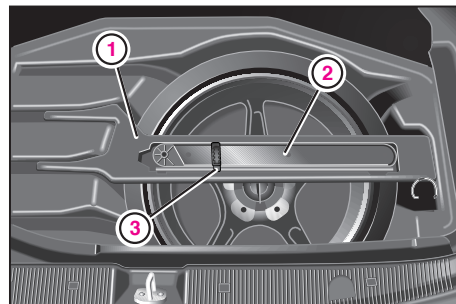
踏切内で動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。緊急を要するときは非常信号用具を使用してください。

非常信号用具

懐中電灯をドアポケットに備えています。

知　識

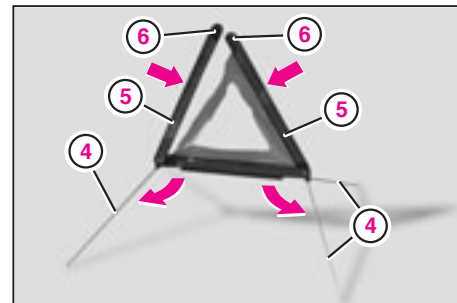
- 新車時は電池の自然放電を防ぐため、電池の間に紙が挟まれています。使用するときは紙を取り除いてください。
- 懐中電灯が十分な明るさで点灯することを定期的に点検してください。

停止表示板

① ホルダー
② 停止表示板
③ ストラップ

停止表示板は、ラゲッジルームマットの下に収納されています。

停止表示板を取り出す

▶ ラゲッジルームマットを開きます。

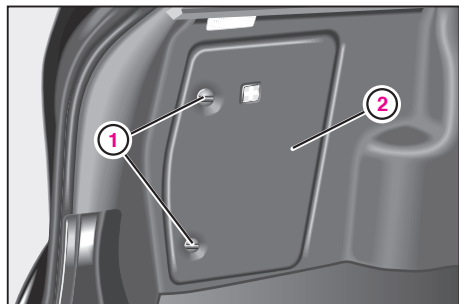
▶ ストラップ③を外して、ホルダー①から停止表示板②を取り出します。

④ スタンド
⑤ 反射板
⑥ フック

停止表示板を組み立てる

▶ スタンド④を引き出して、停止表示板を地面に立てます。

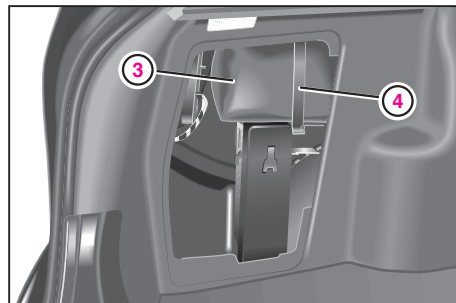
▶ 反射板⑤を開いて三角形をつくり、頂点のフック⑥をかみ合わせます。

※停止表示板の形状が異なる場合があります。

救急セット

① ノブ
② サイドパネル

ラゲッジルーム内左側のサイドパネル内に収納されています。

救急セットを取り出す

▶ ノブ①をまわして、サイドパネル②を開きます。

③ 救急セット
④ ストラップ

▶ ストラップ④の下側を外して、救急セット③を取り出します。

知　識

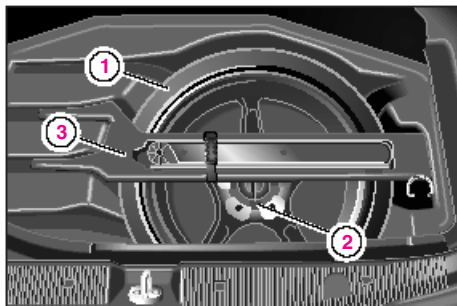
救急セットの中身が揃っていて、使用可能であることを定期的に点検してください。

車載工具

車載工具は応急用スペアタイヤの下に収納されています。

注　意　！

スチールホイール装着車には、応急用スペアタイヤ用ホイールボルトは装備されません。

標準タイヤ用ホイールのホイールボルトを応急用スペアタイヤ用ホイールに使用します。

① 応急用スペアタイヤ
② スクリュー
③ 停止表示板ホルダー

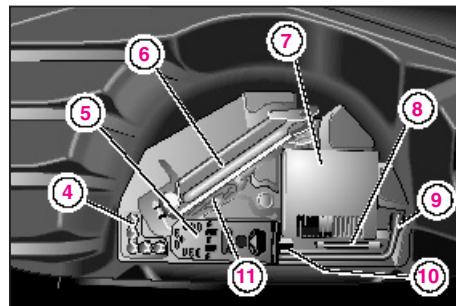
車載工具を取り出す

▶ ラゲッジルームマットを開きます(3-32)。

▶ 停止表示板ホルダー③を取り出します。

▶ 応急用スペアタイヤ中央にあるスクリュー②を反時計回りにまわして取り外します。

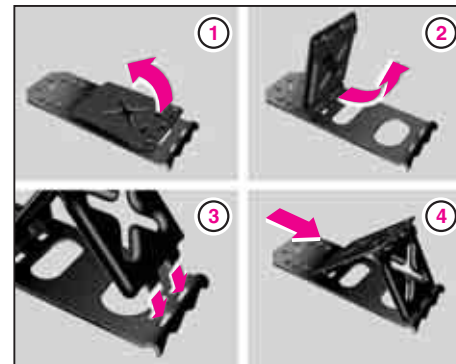
▶ 応急用スペアタイヤ①を取り出します。

*オプションまたは仕様により装備が異なります

④ 応急用スペアタイヤ用ホイールボルト*
⑤ 輪止め
⑥ ジャッキ
⑦ 電動エアポンプ
⑧ ガイドボルト
⑨ ホイールレンチ
⑩ けん引フック
⑪ 予備ヒューズ

※ 応急用スペアタイヤ用ホイールボルトは、応急用スペアタイヤ用のホイールに添付されている場合があります。

※ 電動エアポンプの形状や絵柄などは、イラストと異なる場合があります。使用方法がわからないときは、指定サービス工場におたずねください。

※ 車種や仕様によりガイドボルトは搭載されません。

輪止め

輪止めは車載工具などとともに収納されています。

輪止めは図のように組み立てます。

注 意 !

輪止めを使用するときは図④の矢印の方向にタイヤがあたるようにします。方向に注意してください。

パンクしたとき

警　告

- パンクしたときは、あわててブレーキペダルを踏まないでください。ステアリングをしっかり握って徐々に速度を落とし、安全な場所に停車してください。
- パンクしたタイヤで走行しないでください。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。また、タイヤが異常に過熱して、火災が発生するおそれがあります。
- 停車したときは、非常点滅灯を点滅させてください。また、十分注意しながら車の後方に停止表示板を置いてください。

注　意！

- 車速感応ドアロック（3-26）を設定した状態で車を押したり、タイヤ交換などで車を持ち上げるときは、エンジンスイッチを0の位置にしてください。ホイールが回転すると車が自動的に施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。
- タイヤ交換をするときは、必ず手袋を着用してください。素手で作業を行なうとけがをするおそれがあります。
- タイヤ交換をするときは、エンジンを始動しないでください。

知　識

高速道路や自動車専用道路では、車の後方に停止表示板を置くことが、法律で義務付けられています。

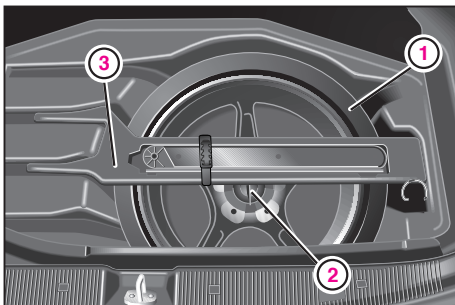
▶ 安全を確保できる、かたくてすべりにくい、水平な場所に停車します。

▶ 非常点滅灯を点滅させます。

▶ ステアリングを直進の位置にして、パーキングブレーキを確実に効かせ、セレクターレバーをPに入れます。

▶ エンジンを停止して、エンジンスイッチからキーを抜き、ステアリングがロックされたことを確認します。

▶ 周囲の状況に注意しながら乗員を車から降ろして、ただちに安全な場所に避難させます。

応急用スペアタイヤを取り出す

① 応急用スペアタイヤ
② スクリュー
③ 停止表示板ホルダー

▶ ラゲッジルームマットを開きます(3-32)。

▶ 停止表示板ホルダー③を取り外します。

▶ スクリュー②を反時計回りにまわして取り外します。

▶ 応急用スペアタイヤ①を取り出します。

▶ 車載工具から、輪止め、ジャッキ、ホイールレンチ、ガイドボルト、電動エアポンプを準備します。

警　告

- 応急用スペアタイヤに交換したときは、必ず80km/h以下で走行してください。また、ESPの機能を解除しないでください。
- 応急用スペアタイヤは短い時間の使用にとどめ、できるだけ早く標準タイヤに戻してください。
- 応急用スペアタイヤと標準タイヤのサイズが異なるため、応急用スペアタイヤを装着した場合、走行特性が大きく変化します。十分注意して走行してください。
- どんな場合でも、タイヤの速度許容範囲を超える速度で走行しないでください。許容範囲を超えた速度で走行すると、タイヤがパンクして事故につながるおそれがあります。

注　意　！

- トレイや応急用スペアタイヤを取り出すときは、必ず保護のため手袋を着用してください。素手で作業するとけがをするおそれがあります。
- 応急用スペアタイヤを2本以上装着して走行しないでください。
- 応急用スペアタイヤは各車種専用です。他車のものは使用しないでください。

輪止めをする

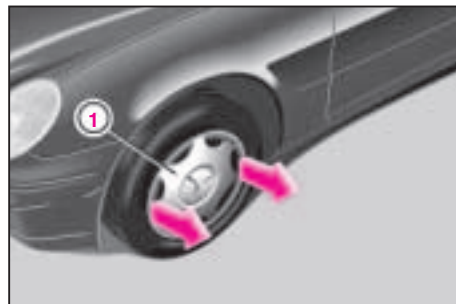
▶ 交換するタイヤの対角線の位置にあるタイヤの前後に輪止めをします。

やむを得ず傾斜地でタイヤ交換をするときは、以下のように輪止めをします。

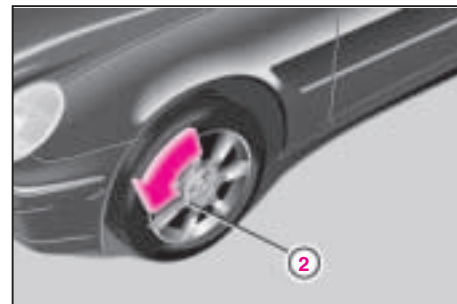
- 前輪のいずれかを交換するときは、左右の後輪の下り側に輪止めをします。
- 後輪のいずれかを交換するときは、左右の前輪の下り側に輪止めをします。

知 識

輪止めは1個車載されています。もう1個必要なときは、適切な大きさの木片か石を輪止めとして使用してください。

ジャッキアップ

① ホイールカバー

▶ スチールホイール装備車は、矢印の位置に手を入れ、ホイールカバー①を外します。

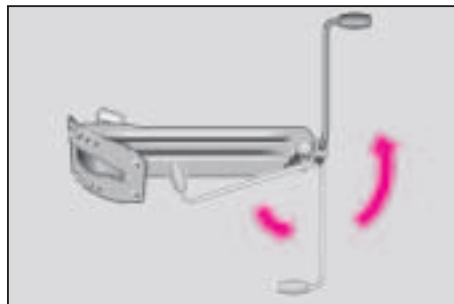
このとき、必ず手袋を着用してください。

② ホイールレンチ

▶ ホイールレンチ②で、交換するタイヤのホイールボルト（5本）を約1回転ほどゆるめます。

この時点では、ホイールボルトを取り外しません。

注　意　！

ホイールレンチを使用するときに、ホイールレンチがホイールボルトから外れるとけがをしたり、ボルトを損傷するおそれがあります。以下の点に注意してください。

- ホイールレンチを確実に差し込んでください。
- 足で踏んでまわさないでください。
- 両手で握り、ホイール側に押し付けるようにしながらまわしてください。

③ ジャッキハンドル

▶ ジャッキハンドル③を、矢印の方向に起こしてから、時計回りにまわします。

ジャッキアームが上がります。

注　意　！

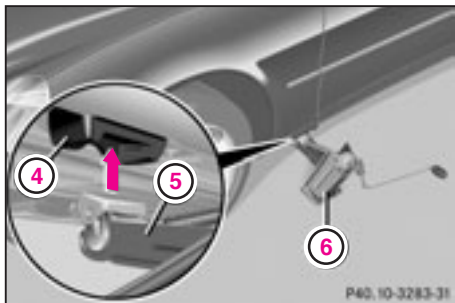
- 車載のジャッキはこの車専用です。以下の点に注意してください。

  ◇かたくてすべりにくい水平な場所で使用してください。

  ◇この車のタイヤ交換以外には使用しないでください。

  ◇不具合や損傷があるときは使用しないでください。

  ◇ジャッキサポート以外の場所に使用しないでください。

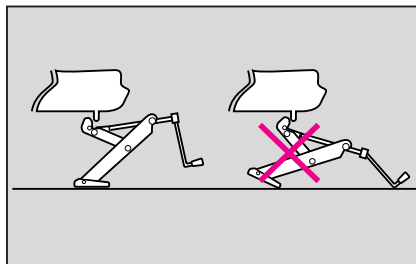
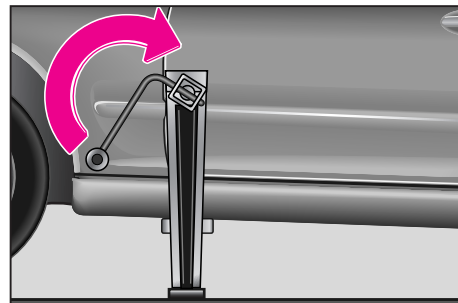
- ジャッキアップする前に乗員や荷物を車から降ろしてください。
- ジャッキの下に、ブロックや木材などを置いてジャッキアップしないでください。ジャッキアップした車が落下するおそれがあります。

④ ジャッキサポート
⑤ ジャッキアーム
⑥ ジャッキ

▶ ジャッキ⑥のジャッキアーム⑤をジャッキサポート④の位置に合わせます。

知 識

ジャッキサポートは前輪の後方、後輪の前方のボディ下部4カ所に設けられています。

注 意 !

- ジャッキアームが正しくジャッキサポートに入っていることを確認してください。
- 側面からみて、ジャッキが垂直になるように取り付けてください。
- ジャッキの底面が、確実に路面に接地するように取り付けてください。

（左）正しい取り付け方
（右）間違った取り付け方

▶ ジャッキハンドルを矢印方向にまわし、タイヤが地面から離れるまでゆっくりとジャッキアップします。

警　告

車が車載のジャッキだけで支えられているときは、絶対に車の下に身体を入れないでください。ジャッキが外れると、車に挟まれて致命的なけがをするおそれがあります。ジャッキは車を一時的に持ち上げるときだけに使用してください。

注　意！

- ジャッキアップしているときは、エンジンを始動したり、ドアやテールゲートを開閉したり、パーキングブレーキを解除しないでください。車が落下するおそれがあります。
- ジャッキアップしたときのタイヤの高さは、地面から3cm以内にしてください。

⑦ ガイドボルト

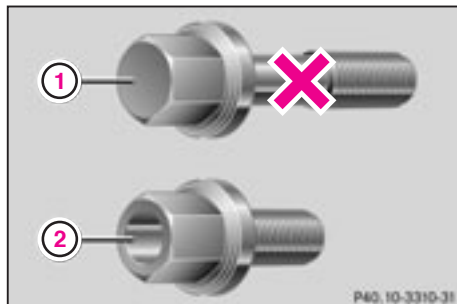
▶ 上側のホイールボルトを１本外します。

▶ そのネジ穴に、ガイドボルト⑦をねじ込みます。

▶ 残りのホイールボルトを外して、タイヤを取り外します。

注　意！

- ホイールボルトに砂や泥を付けないように注意してください。
- タイヤを地面に置くときは、ホイールの外側を下にしないでください。ホイールに傷が付くおそれがあります。
- ホイールを外したときは、ホイールの内側を十分に清掃し、点検をしてください。リムの凹みや曲がりは空気圧減少の原因になり、タイヤを損傷するおそれがあります。

※ 車種や仕様によりガイドボルトは搭載されません。

ホイールボルト

① 軽合金用ホイールボルト
② スチールホイール / 応急用スペアタイヤ用ホイールボルト

▶ 応急用スペアタイヤを取り付けるためのホイールボルトを用意します。

- 軽合金ホイール装備車は応急用スペアタイヤ用ホイールボルト②（短いホイールボルト）を使用してください。
- スチールホイール装備車は標準タイヤ用ホイールのホイールボルト②を使用してください。

警　告

- 軽合金ホイールボルト装備車は、標準タイヤ用ホイールボルトで応急用スペアタイヤを取り付けないでください。

  ホイールを確実に取り付けることができず、ブレーキシステムを損傷したり、走行中にタイヤが外れて事故を起こすおそれがあります。

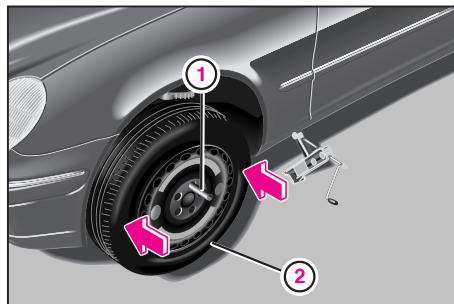
- ホイールボルトは、ホイールに適合した純正品だけを使用してください。純正品以外のボルトを使用すると、タイヤが外れて事故を起こすおそれがあります。

知　識

- 応急用スペアタイヤ用ホイールボルトは、応急用スペアタイヤに添付されているか、車載工具（7-4）に含まれています。
- 応急用スペアタイヤ用ホイールボルトには、ボルト頭部が中空になっていないものもあります。

注　意！

- ホイールボルトに損傷や錆があるときは交換してください。また、ネジ山には決してオイルやグリスを塗布しないでください。ボルトがゆるむおそれがあります。
- ホイールハブのネジ山が損傷しているときは、走行せず、指定サービス工場に連絡してください。

応急用スペアタイヤの取り付け

① ガイドボルト
② 応急用スペアタイヤ

▶ 応急用スペアタイヤのホイールおよびハブの接合面に砂や汚れなどがないことを確認します。

▶ ガイドボルト①に合わせて応急用スペアタイヤ②を取り付けます。

▶ 4本のホイールボルトを取り付けて、軽く締め付けます。

▶ ガイドボルトを取り外し、5本目のホイールボルトを取り付けて、軽く締め付けます。

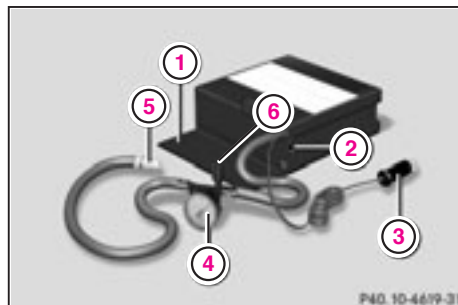
警　告

ジャッキアップした状態で、ホイールボルトを強く締め付けないでください。締め付ける勢いでジャッキが外れるおそれがあります。

知　識

応急用スペアタイヤが回転方向の指定されたタイヤの場合、取り付ける位置によって、回転方向が逆向きになってしまうことがあります。応急的な走行には支障ありませんが、すみやかに標準タイヤに戻してください。

応急用スペアタイヤに空気を入れる

車種や仕様により車載されている電動エアポンプが異なります。

① フラップ
② 電源スイッチ
③ 電源プラグ
④ 空気圧ゲージ
⑤ エアホース
⑥ 空気圧調整バルブ

フラップ①を開いて電源プラグ③とエアホース⑤を取り出します。空気圧バルブ⑥が閉じていることを確認してください。

② 電源スイッチ
③ 電源プラグ
④ 空気圧ゲージ
⑤ エアホース
⑦ 空気圧調整ボタン

電動エアポンプ裏面から電源プラグ③とエアホース⑤を取り出します。

応急用スペアタイヤは空気を入れて使用します。

▶ 応急用スペアタイヤのバルブキャップを外します。

▶ 電動エアポンプのエアホース⑤を応急用スペアタイヤのバルブに取り付けます。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ②を**0**（オフの位置）にします。

▶ エンジンスイッチを**0**の位置にして、ライター**（6-22）**を抜き取ったソケットに、電源プラグ③を差し込みます。

▶ エンジンスイッチを**1**の位置にします。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ②を**I**（オンの位置）にします。

電動エアポンプが作動して、応急用スペアタイヤに空気が送り込まれます。

※ 電動エアポンプの形状や絵柄などは、イラストと異なる場合があります。使用方法がわからないときは、指定サービス工場におたずねください。

▶ 空気圧ゲージ④が2.5バールになったら電動エアポンプの電源スイッチ②をO（オフの位置）にします。

2.5バールを超えたときは、空気圧調整バルブ⑥をゆるめるか、空気圧調整ボタン⑦を押して空気を抜いて調整します。

▶ ライターソケットから電源プラグ③を抜き、応急用スペアタイヤのバルブからエアホースを取り外します。

▶ 応急用スペアタイヤのバルブキャップを取り付けます。

警　告

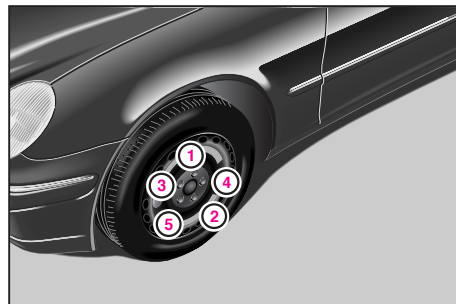
- 空気圧の低いタイヤで走行しないでください。タイヤが過熱して破裂したり、火災を起こすおそれがあります。必ず規定の空気圧を守ってください。
- タイヤに空気を入れすぎないでください。空気を入れすぎたタイヤは、路上の破片や凹みなどにより損傷を受けたりパンクしやすくなります。必ず規定の空気圧を守ってください。

注　意　！

- 電動エアポンプを作動させるときは、電動エアポンプに貼付されている取扱方法も参考にしてください。
- 応急用スペアタイヤを取り付ける前に、応急用スペアタイヤに空気を入れないでください。
- 電動エアポンプを連続して6分以上作動させないでください。ポンプが過熱して損傷したり、火傷をするおそれがあります。
- 電動エアポンプを再び作動させるときは、ポンプが冷えた状態になっていることを確認してください。
- 電動エアポンプを作動させているときはエンジンを始動しないでください。
- 電動エアポンプやエアホースは作動中に金属部分などが熱くなります。必ず手袋をして作業してください。

ジャッキダウン

▶ ジャッキハンドルを反時計回りにまわし、ゆっくりボディを下げてタイヤを接地させます。

▶ ジャッキを外します。

▶ 図の順番でホイールボルトを均等に締め付けます。

ホイールボルト締め付けトルク：
11 kg-m （110 Nm）

タイヤ交換後は、指定サービス工場などでホイールボルトの締め付けトルクを確認してください。

▶ ジャッキを元の状態に戻し、車載工具や輪止めなどとともに元の位置に戻します。

注 意 ！

- ホイールレンチを使用するとき、ホイールボルトから外れると、けがをしたり、ボルトを損傷するおそれがあります。以下の点に注意してください。

  ◇ホイールレンチを確実に差し込んでください。

  ◇足で踏んでまわさないでください。

  ◇両手で握り、ホイール側に押し付けるようにしながらまわしてください。

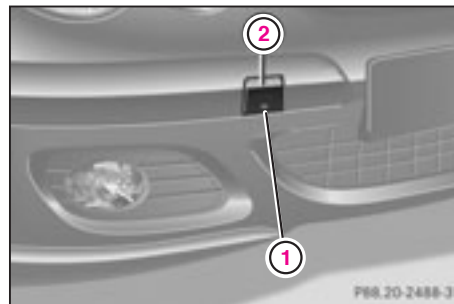
  また、ホイールレンチにパイプを継ぎ足してまわすなど、必要以上にホイールボルトを締め付けないでください。ホイールボルトやネジ穴を損傷するおそれがあります。

- 応急用スペアタイヤを収納するときはスクリューで確実に固定してください。

けん引

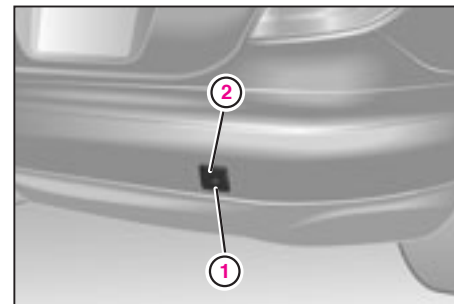
注 意 ！

- けん引はできるだけ避けてください。自走できないときは、専門業者に依頼して車両運搬車で移送してください。
- やむを得ず、他車にけん引してもらうときは以降に記載する説明に従ってください。

フロントの取り付け位置

フロント
① マーク
② カバー

フロントバンパーの向かって左側にあります。

▶ マーク①を押し、カバー②を手前に引いて取り外します

リアの取り付け位置

リア
① マーク
② カバー

リアバンパーの向かって右側にあります。

▶ マーク①を押し、カバー②を手前に引いて取り外します

けん引フックを取り付ける

▶ 車載工具からけん引フックとホイールレンチを取り出します。

▶ 内部のネジ穴にけん引フックをねじ込み、止まるまで手で締め込みます。

▶ さらに、ホイールレンチの柄の部分をけん引フックのリング部分に差し込み、確実に締め付けます。

けん引する

エンジンを始動できるとき

▶ エンジンを始動して、セレクターレバーを N に入れます。

エンジンを始動できないとき

▶ エンジンスイッチを**2**の位置にして、ブレーキペダルを踏みながらセレクターレバーを N に入れます。

注 意 !

けん引されるときは、車速感応ドアロックを解除してください（**4-30**）。ホイールが回転すると車が自動的に施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。

知 識

バッテリーあがりなどでセレクターレバーを D から動かすことができないときは（**5-21**）をご覧ください。

フロントまたはリアをつり上げてけん引するとき

▶ セレクターレバーを N に入れます。

▶ エンジンスイッチを**0**の位置にします。

注 意 !

フロントまたはリアをつり上げてけん引するときは、必ずエンジンスイッチを**0**の位置にしてください。ESPが作動して接地しているタイヤにブレーキがかかります。また、ブレーキシステムを損傷するおそれがあります。

注 意 !

- 一般道では30km/h以下の速度で、距離は50km以内に限り、けん引走行することができます。

  距離が50kmを超えるときは、車両運搬車などを使用して4輪を持ち上げた状態で搬送するか、プロペラシャフトを取り外す、またはリアをつり上げてけん引してください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

- トランスミッションが損傷しているときは、専門業者に作業を依頼し、プロペラシャフトを外してからけん引を行なってください。
- エンジンを停止した状態でけん引走行するときでも、エンジンスイッチからキーを抜かないでください。ステアリングロックが作動し、ステアリング操作ができなくなります。
- エンジンがかかっていないときは、ブレーキやステアリングの操作に、非常に大きな力が必要になります。
- けん引ロープを使用してけん引されるときは、以下の点に注意してください。

  ◇ロープは両車ともできるだけ同じ側につないでください。

  ◇ロープの長さは5m以内とし、ロープの中央に白布（30cm×30cm以上）を付けて2台の車がロープでつながれていることを周囲に明示してください。

  ◇ロープに無理な力や衝撃がかからないようにしてください。

  ◇けん引フック以外にはロープをかけないでください。

  ◇走行中、ロープをたるませないように、前車のブレーキランプに注意しながら車間距離を調整してください。

  ◇ワイヤーロープやチェーンを使用しないでください。車を損傷するおそれがあります。

- 車両運搬車に積載して車両を固定するときは、固定ロープをサスペンションなどのメンバー部分にかけないでください。車体を損傷するおそれがあります。

オーバーヒートしたとき

オーバーヒートしたときは、以下のいずれかの症状があらわれます

- 水温計の針が約120度以上を示している
- 冷却水に関する故障 / 警告メッセージが表示される
- エンジンルームから蒸気が出ている

警　告

- エンジンルームから蒸気が出ているときや冷却水が吹き出しているときは、ただちにエンジンを停止して、冷えるまで車から離れてください。漏れた液体が発火して火災が発生するおそれがあります。
- 水温が下がるまで、絶対にボンネットやリザーブタンクのキャップを開かないでください。高温の蒸気や熱湯が吹き出して火傷をするおそれがあります。

注　意　！

- マルチファンクションディスプレイに、冷却水に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは(10-7)をご覧ください。
- オーバーヒートした状態で走行したり、冷却水が吹き出している状態でエンジンをかけたままにすると、エンジンを損傷するおそれがあります。
- オーバーヒートしたときは必ず指定サービス工場で点検を受けてください。

オーバーヒートしたときは、以下のように処置してください

▶ ただちに安全な場所に停車します。

▶ エンジンをアイドリング状態で冷却します。

エンジンファンが停止しているときや、冷却水が吹き出しているときは、エンジンを停止して冷却してください。

▶ エンジンが十分に冷えてから、冷却水量、水漏れ、エンジンファンなどを点検します。

▶ 冷却水が不足していたら補給します(8-6)。

注　意　！

冷却水は、エンジンが熱いときに補給しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

バッテリーがあがったとき

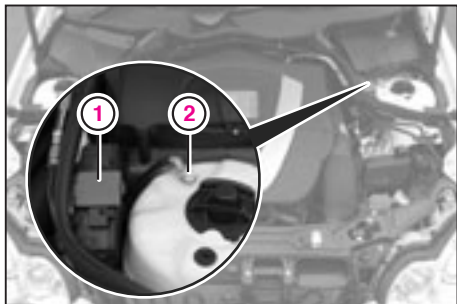
バッテリーの電圧が低下し、エンジンの始動が困難なときは、ブースターケーブルを使用して、他車のバッテリーを電源として始動することができます。容量の大きい太めのブースターケーブルを使用してください。

警　告

- 作業を始める前に必ず以降に記載する説明を読んでください。説明を守らないと、電気装備を損傷したり、バッテリーが爆発してけがをするおそれがあります。
- ブースターケーブルを使用して始動しているときは、バッテリーをのぞき込まないでください。爆発したときに、けがをするおそれがあります。
- たばこなどの火気を近付けたり、火花を発生させたりしないでください。バッテリーが爆発してけがをするおそれがあります。
- ブースターケーブルを使用して始動しているときは、バッテリーを傾けないでください。

知　識

- バッテリーあがりなどでリモコン操作で解錠できないときは、エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠します**(3-27)**。
- バッテリーあがりなどでセレクターレバーを **P** から動かすことができなくなったときは**（5-20）**をご覧ください。

始動の方法

① ⊕端子カバー
② ⊖端子

- ▶ バッテリー電圧が同じ(12V)で、バッテリー容量が同程度の救援車を用意します。
- ▶ 自車と救援車が接触していないことを確認します。
- ▶ パーキングブレーキを効かせ、セレクターレバーをPに入れます。
- ▶ 救援車のエンジンを停止します。
- ▶ 両車の電気装備をすべて停止します(エンジンスイッチを0の位置にします)。
- ▶ 救援車のバッテリーの⊕端子に赤色ブースターケーブルを接続します。
- ▶ 自車の⊕端子カバー①を開きます。
- ▶ 自車のバッテリーの⊕端子に赤色ブースターケーブルの反対側を接続します。
- ▶ 救援車のエンジンを始動して、アイドリング状態にします。
- ▶ 救援車のバッテリーの⊖端子に黒色ブースターケーブルを接続します。
- ▶ 自車のバッテリーの⊖端子②に黒色ブースターケーブルの反対側を接続します。
- ▶ 自車のエンジンを始動します。

注 意 !

電気回路を守るため、エンジンを始動したら、ただちにヒーターやデフォッガーなどの電気装備を作動させてください。ただし、ランプは点灯させないでください。

- ▶ 取り付けたときと逆の手順でケーブルを外します。
- ▶ 必要のない電気装備を停止します。

注　意　!

- 救援車により接続方法が異なることがあります。接続前に救援車の取扱説明書もお読みください。
- 急速充電器などを接続してエンジンを始動しないでください。車の電気装備を損傷します。
- 触媒装置の損傷を防ぐため、以下の点に注意してください。

  ◇「押しがけ」や下り勾配を利用してエンジンを始動しないでください。

  ◇エンジンが暖まっているときは、他車のバッテリーを電源としてエンジンを始動しないでください。

  ◇エンジン始動を2～3回試みても始動できないときは、時間をおいてから、再度始動してください。それでも始動しないときは指定サービス工場へ連絡してください。
- エンジンを始動できたときも、すみやかに指定サービス工場でバッテリーの点検を行なってください。
- ブースターケーブルは、十分な容量（太さ）のケーブルを使用してください。

  ◇ケーブル部分や絶縁部分が損傷しているものは使用しないでください。

  ◇ケーブルがエンジンファンやVベルトに巻き込まれないようにしてください。

知　識

- 放電したバッテリー液は、約－10℃で凍結します。凍結しているときは、火気を近付けずに50℃以上にならないようにバッテリー全体を暖め、バッテリー液を解凍してからエンジンを始動してください。
- バッテリーがあがったり、バッテリーの接続が一時的に断たれたときは、以下の作業が必要になることがあります。

  ◇ オーディオやマルチファンクションコントローラー＊の再設定

  ◇ ドアウインドウのリセット

  ◇ パノラミックスライディングルーフ＊のリセット

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

ヒューズの交換

ヒューズの交換

電気装備が作動しないときはヒューズが切れていることが考えられます。

ヒューズが切れているときは、ヒューズを交換してください。

ヒューズ一覧は**(9-7)**をご覧ください。

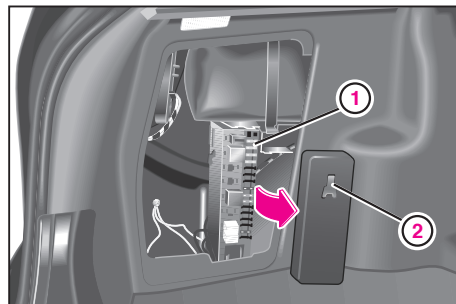
警　告

規格や容量の異なるヒューズ、改造や修理をしたヒューズなどを使用しないでください。火災などが発生するおそれがあります。

注　意　！

以下のようなときは、ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

- ヒューズを交換してもすぐに切れるとき
- ヒューズに異常はないが、電気装備が作動しないとき

ラゲッジルーム内のヒューズボックス

① ヒューズボックス
② ヒューズリムーバー

ラゲッジルーム内左側にあります。

▶ カバーを取り外し、さらに内側のカバーを取り外します。

内側のカバーにヒューズリムーバー②が収納されています。

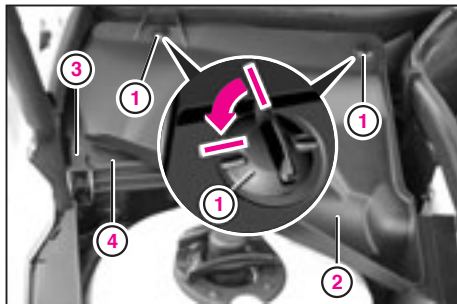
ランプスイッチ横のヒューズボックス

ランプスイッチの横、インストルメントパネルの運転席側側面にあります。

▶ 矢印の位置にドライバーなどを差し込み、カバーを開きます。

ヒューズの配置表（英文）が入っています。

※カバーの形状はイラストと異なる場合があります。

エンジンルーム内のヒューズボックス

① ノブ
② ヒューズボックス上面のカバー
③ フック
④ ヒューズボックスのカバー

エンジンルーム内の運転席側にあります。

▶ 2カ所のノブ①を矢印の方向にまわして、ヒューズボックス上面のカバー②を取り外します。

▶ 2カ所のフック③を外してヒューズボックスのカバー④を取り外します。

閉じるときは、カバー④の後部を先に差し込み、手前側を密着させてから2カ所のフック③を留めます。

注　意　!

以下の点に注意して開閉してください。

- ヒューズボックスのカバーを取り外したとき、内部に水分や雨などが入らないようにしてください。
- ヒューズボックスのカバーを閉じたとき、カバー側のシールが正しく密着するようにしてください。

ヒューズを交換する

▶ すべての電気装備を停止します。

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ ヒューズ一覧 **(9-7)** を参考に、作動しない電気装備に該当するヒューズを確認します。

▶ ヒューズリムーバーを使用して該当ヒューズを取り外します。

▶ ヒューズを点検して、心線部が切れている（溶断）ときは同じ電流値（色）の予備ヒューズと交換します。

知　識

予備ヒューズは車載工具 **(7-4)** 内にあります。

電球の交換

電球が切れてランプが点灯しないときは、同規格・同容量の電球と交換してください。

LEDやキセノンヘッドランプ＊は必ず指定サービス工場に作業を依頼してください。その他の電球の交換も、指定サービス工場に作業を依頼することをお勧めします。

やむを得ず、お客様ご自身で交換するときは、以下の注意を守って該当箇所の電球を交換してください。

電球一覧は(9-6)をご覧ください。

警　告

- エンジンを始動しているときやエンジンがかかっているとき、エンジンスイッチが2の位置のときは、キセノンヘッドランプのバルブソケットや配線に手を触れないでください。高電圧の発生部分や高温部分があり、それらに触れると非常に危険です。
- キセノンヘッドランプのバルブ交換は、必ず指定サービス工場で行なってください。

マルチファンクションディスプレイの故障 / 警告メッセージ

マルチファンクションディスプレイにランプに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは(10-8)をご覧ください。

このときは、すみやかに電球を交換してください。

知　識

- ドアミラーの方向指示灯は、すべてのLEDが切れたときに、マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示されます。
- 方向指示灯の電球が切れたときは、マルチファンクションディスプレイの故障 / 警告メッセージに加えて、メーターパネルの方向指示表示灯の点滅と音の間隔が短くなります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

スタンバイランプ機能

方向指示灯、車幅灯、テールランプなどの電球が切れると、他の電球が代替として点灯します。

電球の取り扱い

電球を交換するときは、以下の点に注意してください。

- 電球を交換するときは、手袋などを着用し、直接手で電球に触れないようにしてください。

  電球は高温になるため、電球の表面に油などが付着すると切れやすくなります。触れたときは、薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布で電球をよく拭いてください。

- 指定以外の電球を使用しないでください。過熱してレンズを損傷したり、故障の原因になるおそれがあります。
- 電球が熱くなっているときは、電球に触れたり、電球を取り外さないでください。電球には圧力のかかったガスが封入されているため、破裂するおそれがあります。
- 落下したり、衝撃が加わった電球を使用しないでください。破裂するおそれがあります。
- 電球は子供の手の届かないところに保管してください。

メンテナンス

車の性能を十分に発揮させ、安全かつ快適に運転するためには、指定サービス工場で点検整備を受ける必要があります。指定サービス工場では以下のような点検を行ないます。

- ダイムラー・クライスラー社指定の点検整備

  ダイムラー・クライスラー社の指示による点検整備項目があります。これらはメンテナンスインジケーターの表示に応じて実施します。

- 1年および2年点検整備

  1年、2年点検整備は、車検時を含め、法律で定められ実施するものです。次の点検時期を示すステッカーがフロントウインドウに貼付してあります。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

メンテナンスインジケーター

メーカー指定点検整備の時期を知らせる目安として、メンテナンスインジケーターが装備されています（4-8）。

整備手帳

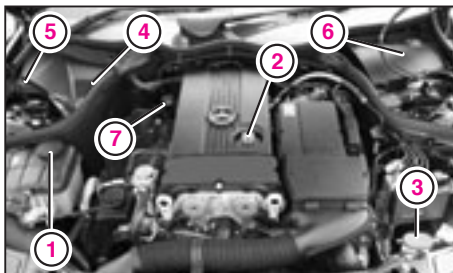
車には整備手帳が備えてあります。点検整備で実施された作業は整備手帳で確認してください。

日常点検

長距離走行前や洗車時、燃料補給時など、お客様が日常、車をご使用される中で、お客様ご自身の判断で実施していただく点検です。

点検項目は整備手帳に記載されています。

点検を実施したときに異常が発見された場合は、すみやかに点検を受けてください。

エンジンルーム

①	冷却水リザーブタンク	8-5
②	エンジンオイル フィラーキャップ	8-8
③	ウォッシャー液 リザーブタンク	8-13
④	ブレーキ液 リザーブタンク	8-10
⑤	ヒューズボックス	7-25
⑥	バッテリー	8-19
⑦	エンジンオイル レベルゲージ	8-7

エンジンルーム内の点検

エンジンルーム内の各所を点検をするときは以下の事項を厳守してください。

警　告

- エンジンスイッチからキーを抜いているときでも、冷却水の温度が高い場合にはエンジンファンなどが自動的に回転することがあります。エンジンファンなどの回転部分には身体や物を近付けないでください。
- エンジンを始動しているときやエンジンがかかっているとき、エンジンスイッチが2の位置のときは、エンジンルーム内には手を触れないでください。
- イグニッションシステムやキセノンヘッドランプ＊のバルブソケットや配線には、高電圧の発生部分や高温部分があり、それらに触れると非常に危険です。

環　境

環境保護のため、オイルなどの各種の油脂類やフルードの交換および廃棄は、指定サービス工場で行なってください。

※④と⑤の上にはカバーが、⑥の上にはフィルターボックスがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

エンジンルーム内の手入れ

手作業で拭いてください。火傷や感電をしないように注意してください。

エンジンルームには多くの電気装備があり、水分や湿気を嫌います。水をかけたり、スチーム洗浄をしないでください。

注 意 !

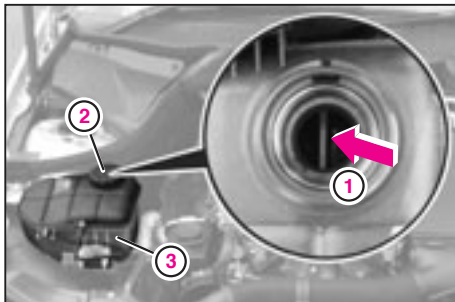
- エンジンや補器類の熱や動きに十分注意してください。火傷やけがをするおそれがあります。
- ラジエターに手を触れないでください。火傷やけがをするおそれがあります。
- 作業は安全な場所を選択して行なってください。
- 適切な工具を使用してください。
- 部品や工具をエンジンの上など、エンジンルーム内に置かないでください。中に落とすおそれがあります。
- 油脂類（オイルなど）やフルード類（ブレーキ液、バッテリー液、冷却水など）は、十分注意して取り扱ってください。万一、目に入った場合は、ただちに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。
- 油脂類やフルード類が皮膚に付着したときは、すぐに石けんを使用して洗い流してください。放置すると皮膚障害を起こすおそれがあります。
- 油脂類やフルード類の容器は、子供の手が届くところや火気の近くに保管しないでください。

Vベルト

自動調整式なので、調整の必要はありません。

亀裂や損傷がないことを確認してください。

冷却水

冷却水の量を点検する

① バー
② キャップ
③ リザーブタンク

▶ 水平な場所に停車します。

冷却水が冷えている状態で、リザーブタンク③の白と黒の境目まで液面があれば適量です。

または

▶ 水平な場所に停車します。

冷却水が冷えている状態で、リザーブタンク③のキャップ②を反時計回りにゆっくり約1回転までまわして、圧力を抜きます。

▶ 圧力が抜けたら、キャップ②をさらに反時計回りにゆっくりまわして取り外します。

▶ 液面がバー①に達していれば適量です。

知　識

水温が高いときは液面が約15mmほど高くなります。

警　告

- 水温が高いときは、絶対にリザーブタンクのキャップを開かないでください。高温の蒸気や熱湯が吹き出して、火傷をするおそれがあります。
- 不凍液をエンジンルームにこぼさないようにしてください。熱くなったエンジンに不凍液が付着すると、発火して火傷をするおそれがあります。

注　意　!

冷却水の減り方が著しいときは、ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

冷却水を補給する

冷却水が不足している場合は、冷却水が冷えているときにリザーブタンクに補給します。

▶ リザーブタンク③のキャップ②を反時計回りにゆっくりと約1回転までまわして、圧力を抜きます。

▶ 圧力が抜けたら、キャップ②をさらに反時計回りにゆっくりまわして取り外します。

▶ 液面の高さに注意して冷却水を補給します。

通常は水道水に純正の不凍液を混ぜて使用します。

車を使用する地域（最低気温）によって濃度を変えます。

不凍液の濃度

不凍液混合率	凍結温度
約50%	−37℃
約55%	−45℃

注　意　!

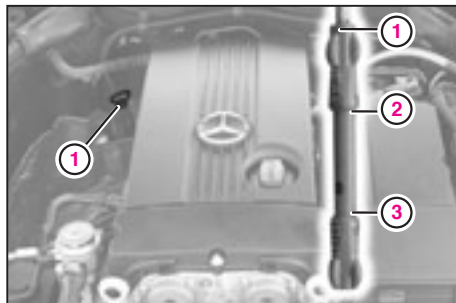
- 冷却水の補給は、冷却水が冷えてから行なってください。
- 冷却水には必ず不凍液を混ぜてください。不凍液には防錆の効果もあります。
- 不凍液の濃度は50%から55%の間にしてください。濃度を55%以上にすると、冷却性能が低下します。
- 指定以外の不凍液や不適当な水を使用しないでください。錆や腐食などの原因になります。
- 不凍液は塗装面を損傷させます。ボディに付着したときは、すぐに水で洗い流してください。
- 冷却水の減り方が著しいときは、指定サービス工場で点検を受けてください。
- マルチファンクションディスプレイに冷却水に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは、オーバーヒートしてエンジンを損傷するおそれがあります。ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

冷却水の交換時期

冷却水は時間の経過とともに劣化しますので、整備手帳に従い定期的に交換してください。

詳しくは指定サービス工場におたずねください。

エンジンオイル

エンジンオイルの量を点検する

① エンジンオイルレベルゲージ
② 上限（max）
③ 下限（min）

▶ 水平な場所に停車します。

▶ エンジンを始動させ、エンジンオイルを温めます。

▶ エンジンを停止して、5分ほど待ちます。

エンジンが冷えているときは、約30分以上待ちます。

▶ エンジンオイルレベルゲージ①を抜き取り、きれいに拭いて差し込みます。

▶ 再度エンジンオイルレベルゲージ①を抜き取り、付着したエンジンオイル量と汚れ具合を点検します。オイル量はエンジンオイルレベルゲージ①の上限（max）②と下限（min）③の間にあれば正常です。

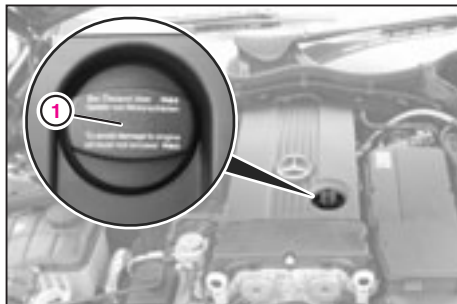
▶ エンジンオイルが下限以下のときは、エンジンオイルフィラーキャップを開いて、指定のエンジンオイルを規定の量だけ補給します。

注 意 ！

マルチファンクションディスプレイにエンジンオイル量に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは(10-8)をご覧ください。

知 識

- エンジンオイルレベルゲージの上限（max）②と下限（min）③の間は約2リットルです。
- 慣らし運転中のエンジンオイル消費量は多少増加することがあります。また、頻繁にエンジン回転数を上げて走行すると、エンジンオイル消費量は増加します。

エンジンオイルを補給する

① エンジンオイルフィラーキャップ

▶ エンジンオイルフィラーキャップ①を取り外します。

▶ 指定のエンジンオイルを補給します。

安全に十分注意して、作業を行なってください。

▶ エンジンオイルフィラーキャップ①を取り付けます。

警　告

エンジンオイルをエンジンルーム内にこぼさないでください。エンジンが熱いときにオイルが付着すると、発火して火傷をするおそれがあります。

注 意 !

マルチファンクションディスプレイにエンジンオイル量に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（10-8）をご覧ください。

エンジンオイル交換の時期

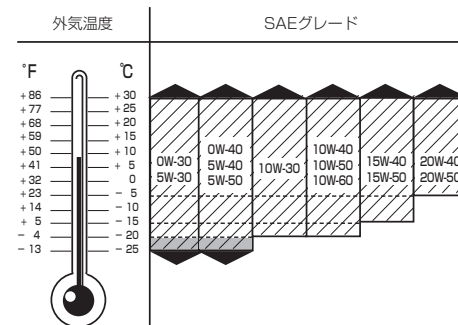
エンジンオイルおよびフィルターは定期的に交換することをお勧めします。交換時期はメンテナンスインジケーターを目安としてください。ただし、交換時期は使用状況によって異なりますので、詳しくは指定サービス工場におたずねください。

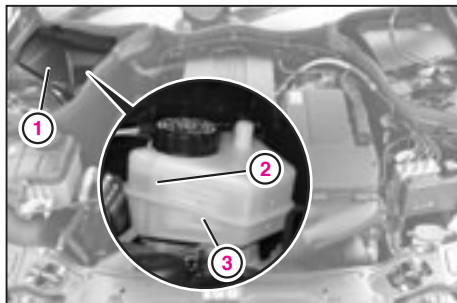
注 意 !

- 必ず指定のエンジンオイルを使用してください。指定以外のエンジンオイルを使用して故障が発生した場合は、保証が適用されないことがあります。
- 種類の異なるエンジンオイルを混ぜないでください。エンジンオイルの特性が発揮されません。
- エンジンオイルがエンジンルーム内に付着したときは完全に拭き取ってください。
- エンジンオイル量が多すぎると故障の原因になることがあります。
- エンジンオイルの減り方が著しいときは、ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
- エンジンオイルに添加剤などを使用しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

使用するエンジンオイル

指定のエンジンオイルを使用してください。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

グレードと粘度は、下図を参考にして、使用する場所の外気温度に合わせて選択してください。

ブレーキ液

ブレーキ液の量を点検する

① カバー
② レベルインジケーター上限（MAX）
③ レベルインジケーター下限（MIN）

▶ ブレーキ液リザーブタンク上面のカバー①を取り外します **(7-25)**。

▶ ブレーキ液リザーブタンクのレベルインジケーターで点検します。

ブレーキ液の液面がレベルインジケーター上限（MAX）②と下限（MIN）③の間にあれば正常です。

注 意 ！

マルチファンクションディスプレイにブレーキ液に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは **(10-6)** をご覧ください。

ブレーキ液の交換

定期的に指定サービス工場で交換をしてください。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

警　告

- マルチファンクションディスプレイにブレーキに関する故障 / 警告メッセージが表示されたり、ブレーキ警告灯（5-34）が点灯したときは、むやみにブレーキ液を補給しないでください。補給によって故障が解消することはありません。安全な場所に停車して、指定サービス工場に連絡してください。
- 必ず指定のブレーキ液を使用してください。指定以外のブレーキ液を使用したり、他の銘柄を混ぜると、ブレーキの効き具合やブレーキシステムに悪影響を与え、安全なブレーキ操作ができなくなるおそれがあります。
- ブレーキ液の補給は、エンジンが冷えてから行なってください。また、上限（MAX）を超えないように補給してください。あふれたブレーキ液が熱くなったエンジンや排気系部品などに付着すると、発火して火傷をするおそれがあります。

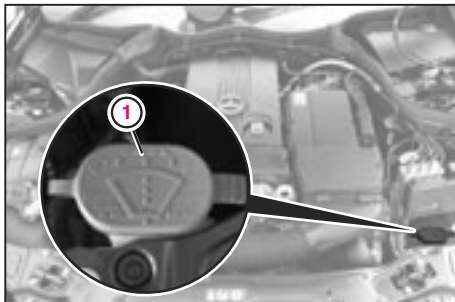
ブレーキ液

注 意 ！

- ブレーキ液の減り方が著しいときは、指定サービス工場で点検を受けてください。
- ブレーキ液の補給や交換は、指定サービス工場で行なってください。
- 補給のときは、ゴミや水がリザーブタンクの中に入らないようにしてください。たとえ小さなゴミでも、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。
- レベルインジケーターの上限（MAX）を超えて補給すると、走行中に漏れて塗装面を損傷するおそれがあります。ボディに付着したときは、すみやかに水で洗い流してください。
- ブレーキ液は使用している間に大気中の湿気を吸収して劣化します。劣化した状態で使用すると、苛酷な条件下ではベーパーロックが発生するおそれがあります。

ベーパーロック：長い下り坂や急な下り坂などでブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ液が沸騰してブレーキパイプ内に気泡が発生し、ブレーキペダルを踏んでも圧力が伝わらず、ブレーキが効かなくなる現象のことです。

ウォッシャー液

ウォッシャー液を補給する

① ウォッシャー液リザーブタンクのキャップ

警　告

ウォッシャー液は可燃性です。火気を近付けたり、近くで喫煙をしないでください。また、エンジンが熱くなっているときには補給しないでください。

▶ リザーブタンクのキャップ①を開いて補給します。

使用するウォッシャー液

専用の純正ウォッシャー液を水に混ぜて使用します（9-10）。

知　識

- ウォッシャー液には夏用と冬用の2種類があります。夏用には油膜の付着を防ぐ効果があり、冬用には凍結温度を下げる効果があります。
- ワイパーウォッシャー液とヘッドランプウォッシャー＊液のリザーブタンクは兼用です。

注　意　！

- ウォッシャー液は、リザーブタンクに補給する前に別の容器で適正な混合比に混ぜてください。
- 粗悪なウォッシャー液や石けん水を使用すると、塗装面を損傷するおそれがあります。
- ウォッシャー液が出なくなったときは、ウォッシャーの操作をしないでください。ウォッシャーポンプを損傷するおそれがあります。
- ヘッドランプには樹脂製レンズを使用しているため、必ず専用の純正ウォッシャー液を使用してください。純正以外のウォッシャー液を使用すると、レンズを損傷するおそれがあります。
- マルチファンクションディスプレイにウォッシャー液に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（10-9）をご覧ください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

タイヤとホイール

タイヤとホイールは必ず純正品および承認された製品を使用してください。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

タイヤの点検

▶ タイヤ空気圧ゲージを使用するか、タイヤ接地部のたわみ状態（別冊「整備手帳」参照）を見て、空気圧が適切であるか点検します。

▶ タイヤに大きな傷がないか、くぎや石などがささったり、かみ込んでいないか点検します。

▶ タイヤが偏摩耗を起こしたり極端にすり減っていないか点検します。スリップサイン（別冊「整備手帳」参照）が出ているときは、新しいタイヤに交換します。

警　告

- タイヤの摩耗には十分に注意し、スリップサイン（別冊「整備手帳」参照）が現われたら、すぐに交換してください。タイヤの溝の深さが3mm以下になると著しく滑りやすくなり、事故につながるおそれがあります。
- 必ず規定の空気圧を守ってください。燃料給油フラップの裏側に、規定のタイヤ空気圧を記載したラベルが貼付してあります(8-17)。
- 空気圧の低いタイヤで走行しないでください。タイヤが過熱して破裂したり、火災を起こすおそれがあります。
- ホイールボルトはホイールに適合した純正品だけを使用してください。純正品以外のホイールボルトを使用すると、ホイールが脱落して事故を起こすおそれがあります。
- 再生タイヤを装着した場合、安全性の保証はできません。

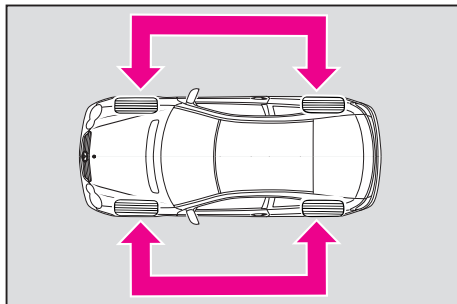
注 意 !

- タイヤに空気を入れても、すぐに空気圧が低下するときは、パンクやホイールの損傷、タイヤバルブからの空気漏れなどのおそれがあります。ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
- タイヤのトレッドやサイドウォールがひどくすり減ったり、傷が付いているときは交換してください。
- タイヤの摩耗は均一ではありません。タイヤの摩耗を点検するときは、必ずタイヤの内側も点検してください。
- ホイールやタイヤの選択を誤ると、車全体のバランスに影響し、安全性に支障をきたすおそれがあります。
- 回転方向が指定されているタイヤは、タイヤの側面に記された回転方向の矢印などの指示に従って装着してください。
- 路面の段差などを乗り越えるときは、速度を落とし、注意して走行してください。タイヤやホイールを損傷するおそれがあります。
- 純正品または承認された製品以外のタイヤやホイールを装着すると、道路運送車両法違反になることがあります。
- 装着するタイヤは指定されたサイズ、および4輪とも同じ銘柄のものにしてください。サイズや銘柄が異なるタイヤを組み合わせて装着すると、操縦性に悪影響をおよぼし、事故を起こすおそれがあります。
- 摩耗具合にかかわらず、6年以上経過したタイヤは新品のタイヤと交換してください。

  応急用スペアタイヤも同様に交換してください。

知 識

- 新品のタイヤを装着したときは、走行距離が約100kmを超えるまでは速度を控えて運転することをお勧めします。
- タイヤ / ホイールは、オイルやグリース類の付着するおそれのない、乾燥した冷暗所に保管してください。

タイヤローテーション

タイヤローテーションの方法

タイヤの摩耗具合は、走行距離や運転方法、路面状況によって大きく異なります。

5,000〜10,000kmを目安に摩耗具合を点検し、偏摩耗の兆候がはっきりした時点でタイヤローテーションを行なってください。

タイヤローテーションを行なう

▶ 前後のタイヤ位置を入れ替えます。

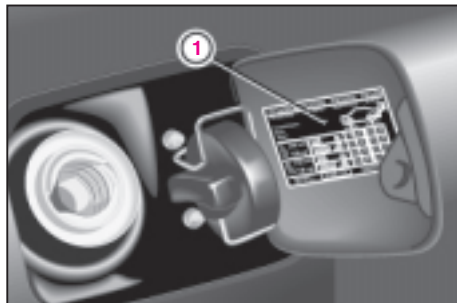
注 意 !

タイヤまたはホイールのサイズが前後で異なる仕様の場合は、タイヤローテーションを行わないでください。前後のタイヤを入れ替えると車の安定性や操縦性が確保できません。

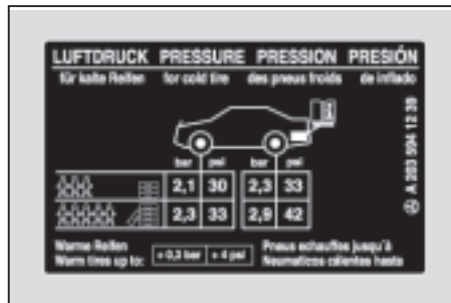
知 識

- タイヤローテーションを適切に実施すると、タイヤの摩耗を均一化することができます。この結果、タイヤの寿命を延ばすことができます。
- タイヤを入れ替えた後に空気圧を調整してください。

  指定空気圧は、燃料給油フラップの裏側に貼付してある空気圧ラベルで確認してください。

タイヤ空気圧ラベル

① タイヤ空気圧ラベル

タイヤ空気圧ラベル①は燃料給油フラップ裏側に貼付されています。

※タイヤ空気圧ラベルは車種により異なることがあります。

タイヤ空気圧ラベル

タイヤ空気圧ラベルはシンボル表記になっています。

乗車人数と荷物の量に応じて、前輪と後輪の空気圧を調整してください。

単位は「bar（≒kg/cm²）」と「psi」で示しています。

知　識

"up to 210 km/h" の表示がある場合は、"up to 210 km/h" の空気圧に調整してください。

注　意　！

必ず法定速度を守って走行してください。

警　告

- 空気圧の低いタイヤで走行しないでください。タイヤが過熱して破裂したり、火災を起こすおそれがあります。必ず規定の空気圧を守ってください。
- タイヤに空気を入れすぎないでください。空気を入れすぎたタイヤは、路上の破片や凹みなどにより損傷を受けたりパンクしやすくなります。また、車両操縦性に悪影響をおよぼすおそれがあります。

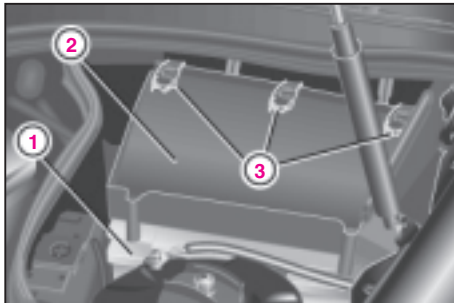
知　識

- 日頃からタイヤの空気圧を点検してください。特に重い荷物を積んで高速走行するときなどは必ず行なってください。
- 走行した直後や炎天下のようにタイヤ自体が高温になっているときは、約0.3bar（kg/cm^2）ほど空気圧が高くなります。空気圧はタイヤが冷えているときに測定してください。
- 応急用スペアタイヤの空気圧は、応急用スペアタイヤのホイールに貼付されているラベルまたはタイヤに記載されています。

環　境

定期的にタイヤの空気圧を点検してください。タイヤの空気圧が低いと、燃料を余計に消費します。

バッテリー

バッテリーの位置

① バッテリー
② フィルターボックス
③ クリップ

バッテリー①はエンジンルームの助手席側、フィルターボックス②の下にあります。
フィルターボックス②は3つのクリップ③を外してから、取り外します。

バッテリー取り扱いの一般的な注意

バッテリーを取り扱うときは以下の点に十分注意してください。

警　告

- バッテリーを取り扱うときは、傾けたり横倒しにしないでください。バッテリー液が漏れるおそれがあります。
- バッテリーの上に金属製の物を載せないでください。バッテリーがショートし、可燃性のガスに引火して爆発するおそれがあります。
- 静電気の発生しやすいところにバッテリーを近付けないでください。引火して爆発するおそれがあります。
- バッテリー液が衣服や塗装面などに付着すると、腐食が起こります。ただちに多量の流水で洗い流してください。
- バッテリー液が目に入ると失明するおそれがあります。バッテリーを取り扱うときは、保護眼鏡を着用してください。
- バッテリー液が皮膚に付着すると火傷を起こします。すぐに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。
- バッテリーケース側面部の液量表示が「min」以下のときは、エンジンを始動したりバッテリーを充電しないでください。液量不足のまま充電すると、劣化を早めたり爆発するおそれがあります。ただちに点検を受けてください。
- 接続するときは、極性（プラス⊕、マイナス⊖）を間違えないように注意してください。
- ⊕端子と⊖端子をショートさせないでください。バッテリーが爆発するおそれがあります。
- 火気は近付けないでください。

注　意　!

- 指定のバッテリーを使用してください。詳しくは指定サービス工場におたずねください。
- エンジンがかかっているときは、バッテリー端子を外したり、ゆるめたりしないでください。
- 定期的にバッテリーの点検を行なってください。バッテリー液が減っているときはバッテリー液を補給してください。
- 長期間、車を使用しないときや、短距離、短時間の走行が多いときは、通常よりも頻繁にバッテリー液量などを点検してください。
- バッテリー端子の接続を外すときは、エンジンスイッチを0の位置にするかエンジンスイッチからキーを抜き、すべての電気装置をオフにしてください。
- バッテリーを充電するときは車から取り外してください。
- バッテリー端子の取り付けボルトは確実に締め付けてください。
- バッテリー端子を外したときは、以下の作業が必要になることあります。
  - ◇ オーディオ＊やマルチファンクションコントローラー＊のプリセットの再設定
  - ◇ ドアウインドウのリセット
  - ◇ パノラミックスライディングルーフ＊のリセット

VRLAバッテリー

バッテリーのケースが黒色で、上面にVRLA-BATTERYのラベルがある場合は、バッテリー液のレベル点検や補給はできません。

また、危険ですので分解は絶対に行なわないでください。

点検については指定サービス工場におたずねください。

環　境

環境保護のため、使用済みのバッテリーは、新しいバッテリーをお買い求めになった販売店に廃棄処分を依頼してください。

寒冷時の取り扱い

寒冷時には、通常とは異なった取り扱いが必要です。必ず以下の注意事項を守ってください。

冷却水 / バッテリー

指定サービス工場で、冷却水の不凍液の濃度が適正であることや、バッテリーの液量や充電状態に不足がないことを点検してください。

エンジンオイル

車を使用する場所の外気温に合わせたグレードと粘度のエンジンオイルを使用してください。

ウォッシャー液

ウォッシャー液には、夏用と冬用があります。冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。

ウィンタータイヤ / スノーチェーン

積雪地域では、ウィンタータイヤ、スノーチェーンが必要です（8-25、26、9-13）。

スノーチェーンは、ダイムラー・クライスラー社の指定品を使用してください。取り扱いについては、スノーチェーンに添付されている取扱説明書にしたがってください。

冬季の手入れ

凍結防止剤がまかれた道路を走行したときは、早めに下回りの洗車をしてください。凍結防止剤が付着したまま放置すると、腐食の原因になります。凍結防止用の塩類をまく地方の場合、1年に一度ボディ下回りの防錆処理をすることをお勧めします。

積雪

ボディやウインドウに雪が積もったときはすべて取り除いてください。走行中に雪が落ちて視界を妨げるおそれがあります。

ドアやテールゲートの凍結

ドアやテールゲートが凍結しているときは以下のような方法で走行する前に解凍するか、氷を取り除いてください。

- 氷を取り除くときは、樹脂製のへらなどを使用し、ボディやウインドウを損傷しないように注意してください。
- ドアやテールゲートが凍結して開かないときは、開口部周囲にぬるま湯をかけ、解凍してから開いてください。また、キーシリンダーにはぬるま湯がかからないようにしてください。
- 再凍結を防止するため、余分な水分はきれいに拭き取ってください。
- 凍結したまま無理にドアやテールゲートを開こうとすると、周囲の防水シールを損傷するおそれがあります。

ボディ下部の着氷

- 走行前にボディ下部やフェンダーの内側を点検してください。ブレーキ関連部品やステアリング関連部品、サスペンションなどに雪や氷塊が付着していたり、フェンダーの内側に雪が詰まって固まっていると、ボディを損傷したり、車のコントロールを失って事故を起こすおそれがあります。
- 雪や氷塊が付着しているときは、ぬるま湯をかけるなどして、部品やボディを損傷しないように注意しながら、雪や氷塊を取り除いてください。
- 走行中にも、はね上げた雪や水しぶきが凍結し、氷となってボディ下部やフェンダーの内側に付着し、ステアリング操作ができなくなるおそれがあります。休憩時もこまめに点検し、雪や氷塊が付着しているときは、大きくなる前に取り除いてください。

ワイパーなどの凍結

ワイパーやドアミラー、ドアウインドウ、パノラミックスライディングルーフ＊などが凍結しているときに、無理に動かすとモーターを損傷することがあります。

周囲にぬるま湯をかけるなどして、必ず解凍してから操作してください。

また、ドアミラーは手で動かさないでください。

乗車前に

靴底などに付着した雪や氷を落としてから乗車してください。ペダルを操作するときに滑ったり、車内の湿度が高くなってウインドウの内側が曇りやすくなります。

雪道を走行するとき

雪道や凍結路面ではタイヤが非常に滑りやすくなっています。十分な車間距離を確保し、いつもより控えめな速度で慎重に走行してください。

安全な走行と操縦性を確保するため、以下の注意事項を守ってください。

- ウィンタータイヤまたはスノーチェーンを必ず使用してください。
- 急ハンドル、急ブレーキ、急加速などを避けてください。
- 走行モードをCモードにしてください（5-7）。
- クルーズコントロールを使用しないでください。
- ブレーキに付着した雪や水滴が凍結し、ブレーキの効きが悪くなることがあります。

  このようなときは、後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

雪道で動けないとき

雪道で動けなくなったときは、先にマフラー（排気ガスの出口）と車の周囲から雪を取り除いてください。排気ガスが車内に侵入してくるおそれがあります。

警　告

マフラーなどが雪に埋もれた状態でエンジンをかけていると、排気ガスが車内に入り一酸化炭素中毒を起こしたり、中毒死するおそれがあります。

駐車するとき

寒冷時や積雪地での駐車時は以下の点に注意してください。

- パーキングブレーキが凍結するおそれがある場合は、パーキングブレーキを使用せず、セレクターレバーを P に入れ、確実に輪止めをしてください。
- できるだけ風下や建物の壁、日光の当たる方向にエンジンルームを向けて駐車し、エンジンが冷えすぎないように心がけてください。
- 軒下や樹木の陰には駐車しないでください。雪やつららが落ちてきてボディを損傷するおそれがあります。
- エンジンを毛布でカバーしたり、フロントグリルの内側に段ボールや新聞紙などを挟まないでください。放置したままエンジンを始動すると、火災や故障の原因になります。

ウィンタータイヤ

雪道や凍結路を走行するときは、ウィンタータイヤの装着をお勧めします。

このような路面状況では、ウィンタータイヤを装着することで、ABSやESPの効果が発揮されます。

装着するウィンタータイヤは、指定されたサイズで4輪とも同じ銘柄のものにしてください（9-13）。

注 意 !

- 回転方向が指定されているウィンタータイヤは、タイヤの側面に記された回転方向の矢印などの指示に従って装着してください。
- ウィンタータイヤの装着時に、応急用スペアタイヤを装着すると、車両安定性や制動性能が大きく低下するので注意してください。
- スペアタイヤは応急的に使用し、できるだけ早くウィンタータイヤに戻してください。
- ウィンタータイヤの溝の深さが4mm以下になったときは、必ず新品と交換してください。
- ウィンタータイヤを装着していても、雪道や凍結路面では、クルーズコントロールを使用しないでください。
- ウィンタータイヤは、オイルやグリース類の付着するおそれのない、乾燥した冷暗所で保管してください。

スノーチェーン

ウィンタータイヤでも走行が困難なときは、スノーチェーンを装着してください。

- スノーチェーンは、ダイムラー・クライスラー社の指定品を使用してください。取り扱いについては、スノーチェーンに添付されている取扱説明書に従ってください。
- スノーチェーンは必ず後輪に装着してください。
- スノーチェーン装着時は約30km/h以下の速度で走行してください。
- スノーチェーン装着中は、ESPの機能を解除したほうが走行しやすい場合があります。

※ウィンタータイヤ、スノーチェーンについて、詳しくは指定サービス工場におたずねください

注　意　！

- C 200 KOMPRESSOR EVOLUTIONは、標準タイヤ / ホイールにスノーチェーンを装着しないでください。
- 指定品以外のスノーチェーンを装着すると、タイヤから外れたり、車体に接触するおそれがあります。
- スノーチェーンの脱着は、周囲の交通を妨げない、安全で平坦な場所で行なってください。路面に雪や凍結がなくなったときは、スノーチェーンを外してください。

日常の手入れ

定期的に手入れをすることで、いつまでも車を美しく保つことができます。

日常の手入れには、ダイムラー・クライスラー社が指定する用品のみを使用してください。

詳しくは指定サービス工場におたずねください。

警　告

- 一部の合成クリーナーなどには、揮発性有機溶剤や可燃性物質が含まれていることがあります。カーケア用品を使用するときは、必ず添付の取り扱い上の注意を読み、指示に従ってください。
- 車内でカーケア用品を使用するときはドアやドアウインドウを開き、十分に換気してください。有機溶剤による中毒を起こしたり、静電気が可燃性ガスに引火して火災を起こすおそれがあります。
- 車の手入れをするときに、ガソリンやシンナーなどを使用しないでください。中毒を起こしたり、気化ガスに引火して火災を起こすおそれがあります。
- カーケア用品は、子供の手が届くところや火気の近くに置いたり保管しないでください。

- 走行後は、ボディに付着したほこりを毛ばたきなどで払い落としてください。
- 少なくとも月に1度は洗車してください。
- 飛び石により塗装面を損傷すると、錆の原因になります。早めに補修を行なってください。
- 保管や駐車は、風通しの良い車庫や屋根のある場所をお勧めします。
- 泥や虫の死がい、鳥のふん、樹液、油脂類、ガソリンおよびタールなどが付着したときは、すみやかに拭き取ってください。特に、鳥のふんは塗装面を損傷しやすいので、できるだけ早く水で洗い流してください。
- 凍結防止剤が散布してある道路を走行したときは、すみやかに洗車し、ボディ下側やフェンダー内を洗い流してください。

- 直射日光が強く当たる場所や走行直後でボンネットが熱くなっているようなときに、塗装面の手入れをすると、塗装面を損傷するおそれがあります。
- ボディの表面にステッカーやフィルム、マグネットなどを貼り付けないでください。塗装面を損傷するおそれがあります。
- 誤って傷を付けたり、誤った手入れにより錆などが発生したときは、早めに指定サービス工場で補修することをお勧めします。

車内

- プラスチック部分は、少量の中性洗剤などを混ぜた水を柔らかい布に含ませて拭き取ります。

  また、乾いた布や目の粗い布、固い布などを使用したり、強くこすらないでください。表面を損傷するおそれがあります。
- ウインドウに、極細の熱線やアンテナ線がプリントされている車種があります。ガラス面の内側を清掃するときは、湿った柔らかい布を使用して、熱線やアンテナ線に沿って拭き取り、傷を付けないように注意してください。

  また、乾いた布で拭いたり、研磨剤や有機溶剤を含むクリーナーなどを使用しないでください。
- ウインドウに遮光フィルムなどを貼り付けるとラジオなどの電波の受信性能が低下するおそれがあります。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

警　告

エアバッグの収納部分には、有機溶剤を含むクリーナーなどを使用しないでください。エアバッグが正常に作動しなくなり、けがをするおそれがあります。

洗車

▶ ボディ全体に低圧で水をかけ、ほこりなどを洗い流します。

▶ 水にカーシャンプーなどを混ぜた洗浄液を用意し、車全体にかけます。外気取り入れ口付近では少量にし、ダクト内に洗浄液が残らないように注意してください。

▶ スポンジやセーム皮などを使用して、十分な量の水で洗い流します。

▶ 洗車後は、すみやかに水滴を拭き取ります。

洗車時の注意

洗車をするときは、以下の点に注意してください。

- 水が凍るような寒いときや直射日光が強く当たる場所、走行した直後でボンネットが熱くなっているようなときは洗車をしないでください。
- 虫の死がいなどは、洗車前に取り除いてください。
- コールタールやアスファルトの汚れは、乾いてしまうと落としにくくなるので、早めに処理してください。
- 洗車をするときはマフラーに注意してください。マフラー後端に触れて火傷をしたり、けがをするおそれがあります。
- 走行した直後は、ブレーキディスクやホイールに直接水などをかけないでください。ブレーキディスクが熱いときに急激に冷やすと、ディスクを損傷するおそれがあります。
- ホイールには酸性のホイールクリーナーを使用しないでください。ホイールやホイールボルトが腐食するおそれがあります。
- ホイールクリーナーなどでホイールを清掃した後にそのまま放置すると、ブレーキディスクやブレーキパッドなどが腐食するおそれがあります。

  このようなときは、しばらく走行して、ブレーキディスクやブレーキパッドを乾燥させてください。
- ヘッドランプを含むランプ類は樹脂製レンズです。流水または水とカーシャンプーを混ぜた洗浄液で洗い流してください。有機溶剤や強アルカリ洗剤などを使用したり、乾いた布などで強くこするとレンズを損傷するおそれがあります。

- パークトロニックセンサー＊を清掃するときは、乾いた布、目の粗い布、固い布などは使用しないでください。また、純正以外の手入れ用品を使用したり、強い力で乾拭きしないでください。センサーを損傷するおそれがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

高圧式スプレーガンの使用

- 高圧式スプレーガンのノズルは、車から十分離して使用してください。水圧が高すぎると、塗装面を損傷するおそれがあります。
- 高圧式スプレーガンのノズルをウインドウガラス接合面やボディパネルの継ぎ目部分、サスペンション、電気装備、コネクター類などに近付けないでください。水圧が高いため、車内に水が侵入したり、防水シールや塗装面を損傷するおそれがあります。
- 高圧式スプレーガンのノズルをタイヤに向けないでください。水圧が高いため、タイヤを損傷するおそれがあります。
- 高圧式スプレーガンやスチームクリーナーでパークトロニックセンサー＊を清掃するときは、センサーから十分に離して使用してください。水圧が高すぎると、センサーや塗装面を損傷するおそれがあります。

自動洗車機の使用

自動洗車機で洗車するときは以下の点に注意してください。

- 車の汚れがひどいときは、自動洗車機で洗車する前に水洗いをしてください。
- 自動洗車機が車のサイズに合っていることを確認してください。
- 洗車前にドアミラーを格納してください。
- ワイパーを停止してください（5-29）。
- 回転ブラシの硬さによっては、細かな傷が付き、塗装面の光沢が失われたり、劣化を早めるおそれがあります。
- 洗車後は、フロントウインドウやワイパーブレードに付着した洗浄液を拭き取ってください。

純正部品 / 純正アクセサリー

ダイムラー・クライスラー社では、点検や整備に必要な純正部品を豊富に用意しています。

メルセデス・ベンツ純正部品は厳格な基準により品質管理されております。点検や整備、修理のときは必ず純正部品を使用してください。

アクセサリーについても、ダイムラー・クライスラー社またはダイムラー・クライスラー日本株式会社が指定する製品だけを使用してください。

警　告

どんな場合でも、ブレーキ関連部品などの重要保安部品や走行系統に使用する部品に、純正部品以外の部品を使用しないでください。事故や故障の原因になります。

知　識

純正部品以外の部品を使用したときは、該当箇所だけでなく関連箇所に不具合が生じても、保証を適用できないことがあります。

環　境

ダイムラー・クライスラー社では、資源の有効利用を促進するため、リサイクル部品を積極的に導入しています。

注 意 !

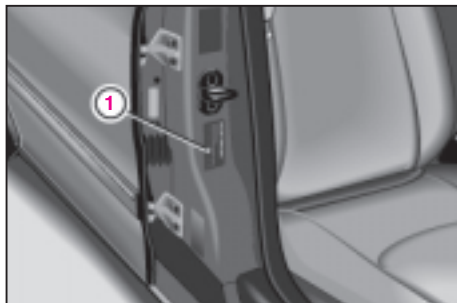
- 以下の場所の周囲には、エアバッグやシートベルトテンショナーのセンサー類が取り付けられています。これらの部位にオーディオなどを追加装備したり、修理や鈑金作業などを行なうと、エアバッグやシートベルトテンショナーの作動に悪影響を与えるおそれがあります。

  ◇ エアバッグ
  ◇ シートベルトテンショナー
  ◇ インストルメントパネル
  ◇ センターコンソール
  ◇ ドアピラーのフロアパネル付近

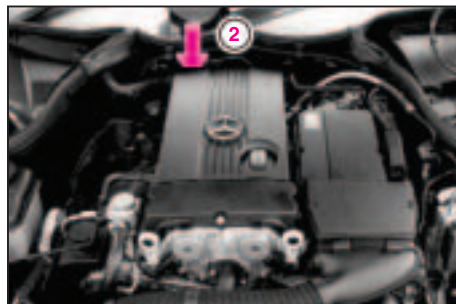
  詳しくは指定サービス工場におたずねください。

- 車の電子制御部品やソフトウェアを改造しないでください。事故や故障の原因になります。また、関連する他の装備にも悪影響を与えるおそれがあります。
- 車載無線機など電装アクセサリーを装着するときは、指定サービス工場に相談してください。装着方法などが適切でないと、車の電子制御部品に悪影響を与えることがあります。また、電気配線を間違えると、火災や故障の原因になります。
- ウインドウに透明な吸盤を貼り付けないでください。吸盤がレンズとして作用して、火災が起こることがあります。

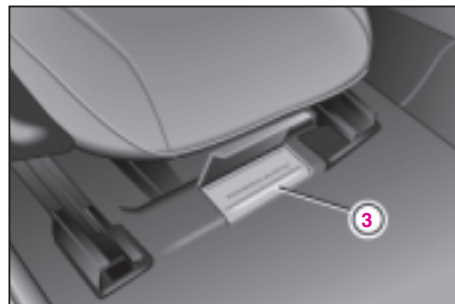
ビークルプレート

ニューカープレート

① ニューカープレート

運転席側または助手席側のドアピラー下部に車の車台番号およびカラーコードを記載したニューカープレート①が貼付してあります。

エンジン番号

② エンジン番号

エンジンブロック後部にエンジン番号②が打刻してあります。

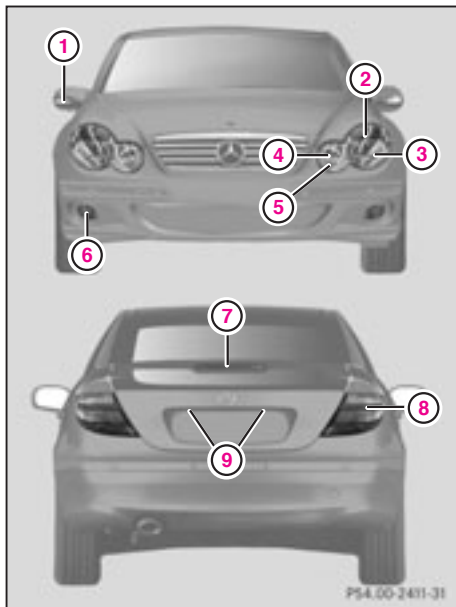
車台番号

③ 車台番号

右側前席足元のカーペット下に車台番号③が打刻してあります。

オプションコードプレート

④ オプションコードプレート

ボンネットの裏側にオプションコードを記載したプレート④が貼付してあります。

電球一覧

注 意 !

電球の交換を行なうときは、車両に装着されている電球の規格を確認してください。

	ランプ	ワット数(規格)
①	ドアミラー方向指示灯	LED(発光ダイオード)
②	フロント方向指示灯	21W(黄色)
③	ヘッドランプ(上向き*/下向き)	35W (キセノンD2S)*または55W(H7)
④	ヘッドランプ(上向き)	55W (H7)
⑤	車幅灯、フロントパーキングランプ	5W
⑥	フロントフォグランプ	55W(H7)または55W(HB4)
⑦	ハイマウントブレーキランプ	LED(発光ダイオード)
⑧	ブレーキランプ	21W
	バックランプ	21W
	リア方向指示灯	21W(黄色)
	リアフォグランプ(右側のみ)/テールランプ、リアパーキングランプ	21W/4W
⑨	ライセンスランプ	5W

※記載の内容は、取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

*オプションまたは仕様により装備が異なります

ヒューズ一覧

ヒューズボックス1（ラゲッジルーム内）

ヒューズ番号/アンペア数/装置名

1 30A ：オプション
2 30A ：オプション
3 7.5A ：ルームランプ
4 20A ：燃料ポンプ
5 ：未使用
6 ：未使用
7 7.5A ：オプション
8 7.5A ：セントラルロッキングシステム、盗難防止警報システム
9 25A ：セントラルロッキングシステム、ルームランプ、自動防眩ミラー、スイッチ照明、パノラミックスライディングルーフ、盗難防止警報システム、バニティミラー照明
10 40A ：リアデフォッガー
11 ：未使用
12 ：未使用
13 5A ：パークトロニック、電話
14 ：未使用
15 7.5A ：燃料給油フラップ
16 7.5A ：オプション
17 ：未使用
18 ：未使用
19 ：未使用
20 ：未使用

ヒューズボックス2（ランプスイッチ横）

21 30A ：セントラルロッキングシステム、乗降用ランプ、ドアミラー調整、自動防眩ミラー、ドアミラー格納/展開、ドアミラーヒーター、ドアウインドウ、スイッチ照明
22 30A ：セントラルロッキングシステム、乗降用ランプ、ドアミラー調整、ドアミラー格納/展開、ドアミラーヒーター、ドアウインドウ、スイッチ照明
23 ：未使用
24 7.5A ：CDチェンジャー
25 30A ：シートヒーター
26 ：未使用
27 ：未使用
28 ：未使用
29 ：未使用
30 40A ：エアコンディショナー送風ファン、余熱ヒーター
31 20A ：スターター、ステアリングロック
32 ：未使用
33 ：未使用
34 ：未使用
35 ：未使用
36 15A ：電話、マルチファンクションコントローラー
37 ：未使用
38 ：未使用
39 ：未使用
40 7.5A ：電話
41 15A ：エアバッグシステム警告灯、エアコンディショナー、エアコンディショナー送風ファン、ドアロックスイッチ、余熱ヒーター、非常点滅灯、リアデフォッガー、スイッチ照明、盗難防止警報システム、シートヒーター
42 7.5A ：エアバッグシステム警告灯、メーターパネル

ヒューズ一覧

ヒューズボックス3（エンジンルーム）

No.	容量	内容
43	15A	ホーン
44	5A	オプション
45	7.5A	エアバッグシステム警告灯、エアバッグコントロールユニット
46	40A	ワイパー
47	15A	ライター、グローブボックスランプ
48	15A	エンジンエレクトロニクス
49	7.5A	エアバッグシステム警告灯、エアバッグコントロールユニット
50	5A	スイッチ照明
51	7.5A	エアコンディショナー、エンジン冷却ファン、余熱ヒーター、ヘッドランプ照射角度調整
52	20A	スターター
53	15A または 25A	エンジンエレクトロニクス、エンジン緊急停止
54	15A	エンジンエレクトロニクス、エンジン緊急停止
55	7.5A	ESP、トランスミッションエレクトロニクス
56	5A	ABS、ESP
57	5A	ESP、スターター
58		未使用
59	50A	ABS、ESP
60	40A	ABS、ESP
61		未使用
62	5A	ABS、ブレーキランプ、診断ソケット、ロービーム、ESP
63	5A	ロービーム、ヘッドランプウォッシャー、ドアミラー調整、ドアミラー格納 / 展開
64	15A	オーディオ、マルチファンクションコントローラー、ナビゲーションシステム
65	40A	オプション

(A203 545 09 00 2004-12-06)

知 識

仕様 / 装備などの違いにより、装備されているヒューズが異なることがあります。

※この仕様は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

オイル・液類

必ずダイムラー・クライスラー社の純正品または指定品のみを使用してください。

詳しくは指定サービス工場におたずねください。

油脂類	車種	容量（ℓ）	指定品目	備考
エンジンオイル	全車	約5.5	承認オイル	オイルフィルター分を含む
ディファレンシャルオイル	全車	–	承認オイル	ハイポイドギアオイル SAE90、85W90
パワーステアリングオイル	全車	–	純正パワーステアリングオイル	専用オイル
ブレーキ液	全車	–	純正ブレーキ液	DOT4規格

※記載の内容は、取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

オイル・液類

油脂類	車種	容量(ℓ)	指定品目	備考
冷却水	全車	約5.6	純正不凍液	交換時注入量 水に純正不凍液を混ぜて使用。 濃度に注意(8-6)
ウォッシャー液	全車	約3.0 (ヘッドライトウォッシャー装備車は約6.0)	純正ウインドウウォッシャー液 冬用、夏用	水と純正ウォッシャー液を混ぜて使用
バッテリー	全車		12V / 100Ah	エンジンルーム内に装備
エアコン冷媒	全車		R134a	R-12を使用しないこと
燃料	全車	約62.0	無鉛プレミアムガソリン	警告灯点灯時の残量 約8.0ℓ

※記載の内容は、取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

注　意　!

- オートマチックトランスミッションオイルの交換については別冊「整備手帳」をご参照ください。
- オートマチックトランスミッションオイルは専用品のみを使用してください。
- オートマチックトランスミッションオイルの漏れを見つけたり、トランスミッションの作動に異常を感じたときは、指定サービス工場で点検を受けてください。

注　意　!

- 無鉛プレミアムガソリンを使用してください。
- 指定以外の燃料(高濃度アルコール含有燃料など)を使用すると、燃料系部品の腐食や損傷などによりエンジンが故障したり、火災が発生するおそれがあります。
- 指定以外の燃料(高濃度アルコール含有燃料など)を使用して、故障が発生した場合は保証の適用外となりますので、ご了承ください。

※記載の内容は、取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

タイヤとホイール

標準タイヤ

車種	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット	ホイール材質
C 180	205 / 55R16	7J×16	31mm	スチール[1)]
C 200	前輪 225 / 45R17 後輪 245 / 40R17	前輪 7.5J×17 後輪 8.5J×17	前輪 37mm 後輪 34mm	軽合金

1) パッケージオプション装備車のホイール材質は軽合金になります。

注 意 !

- タイヤまたはホイールのサイズが前後で異なるときは、タイヤローテーションを行なわないでください。
- C 200の標準タイヤ / ホイールにはスノーチェーンを装着しないでください。

応急用スペアタイヤ

車種	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット	空気圧
全車	165-15 89P	4.50B×15	12mm	2.5bar / 36psi

※記載の内容は、取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

ウィンタータイヤ

車種	ウィンタータイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット
C 180	205 / 55R16	7J×16	31mm
C 200	225 / 45R17	7.5J×17	36mm

注　意　！

ウィンタータイヤのサイズはダイムラー・クライスラー社が指定するもので、日本国内で発売されているスタッドレスタイヤは、表記のサイズに対応していないことがあります。

知　識

- スノーチェーンはウィンタータイヤの後輪に装着することができます。
- ウィンタータイヤやスノーチェーンについては、指定サービス工場におたずねください。

※記載の内容は、取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

積載荷物の制限重量

積載荷物の制限重量

車種	ルーフラック	ラゲッジルーム
全車	100kg	100kg

知　識

積載荷物の制限重量には、ルーフラックやアタッチメントの重量も含まれます。

※記載の内容は、取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

故障 / 警告メッセージ

車の機能やシステムに故障や異常が発生すると、マルチファンクションディスプレイに警告や注意、対応方法などが表示されます。

知　識

- 故障 / 警告メッセージによっては警告音が鳴ることがあります。また、重要度の高いメッセージは、赤色で表示されます。
- 重要度の低いメッセージは、ステアリングの▤▤や⇧⇩、またはリセットボタン（3-58）により画面を切り替えることができます。
- 重要度の高いメッセージは画面を切り替えることができません。このときは故障内容が自動的に記憶されます。

注　意！

- 走行する前には必ずエンジンスイッチを**2**の位置にして、メーターパネルの表示灯 / 警告灯が点灯し、マルチファンクションディスプレイが表示されることを確認してください。
- メーターパネルやディスプレイが故障した場合は、表示灯 / 警告灯や故障 / 警告メッセージが表示されません。車の操縦性などに悪影響をおよぼすような故障や異常が発生した場合は内容が確認できないため、ただちに指定サービス工場に連絡してください。
- 表示される故障や異常は、一部の限られた装備についてであり、また表示される内容も限られています。故障表示の機能は運転者を支援する装置です。発生した故障に対処して車の安全性を維持する責任は運転者にあります。

※ 記載の故障 / 警告メッセージは、取扱説明書作成時点のものです。マルチファンクションディスプレイの表記などは、予告なく変更・追加されることがあります。

文字メッセージ

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状	対応
ABS	ABS, ESP ｼｮｳ ﾌｶﾉｳ ﾏﾆｭｱﾙ ｻﾝｼｮｳ	故障のためABSとESPが解除されている。同時にBASも解除されている。 ABS、ESP、BASは作動しないが、通常のブレーキ時の制動力は確保されている。	▶ 十分注意して走行してください。 ▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
ABS	ABS, ESP ｺｼｮｳ	故障のためABSとESPが解除されている。同時にBASも解除されている。 ABS、ESP、BASは作動しないが、通常のブレーキ時の制動力は確保されている。	▶ 十分注意して走行してください。 ▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

故障 / 警告メッセージ

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状	対応
ESP	ESP ｼｮｳ ﾌｶﾉｳ ﾏﾆｭｱﾙ ｻﾝｼｮｳ	システムの自己診断が完了していないため、一時的にESPの機能が解除されている。同時にBASの機能も解除されている。 ESPとBASは作動しないが、通常のブレーキ時の制動力は確保されている。	▶ 約20km/h以上の速度で短い距離を走行してください。メッセージが消えれば、待機状態になります。
		電圧低下のためESPの機能が解除されている。バッテリーが充電されていない可能性がある。同時にBASの機能も解除されている。 ESPとBASは作動しないが、通常のブレーキ時の制動力は確保されている。	▶ 十分注意して走行してください。 ▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。 ▶ マルチファンクションディスプレイの表示に従ってください。
	ESP ｺｼｮｳ	故障のためESPの機能が解除されている。同時にBASの機能も解除されている。 ESPは作動しないが、通常のブレーキ時の制動力は確保されている。	▶ 十分注意して走行してください。 ▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
ﾄﾗﾝｽﾐｯｼｮﾝ	ｺｳｼﾞ ｮｳ ﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ!	トランスミッションの作動が制限されている。	▶ 十分注意して走行してください。 ▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
SRS	SRS ｼｽﾃﾑ ｺｼｮｳ ｺｳｼﾞ ｮｳﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ	乗員保護補助装置が故障している。	▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

イラストメッセージ

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状	対応
(ドア表示)		ドアが完全に閉じていない状態で走行している。	▶ ドアを閉じてください。
(テールゲート表示)		テールゲートが完全に閉じていない状態で走行している。	▶ テールゲートを閉じてください。
(ボンネット表示)		盗難防止警報システム装備車： ボンネットが完全に閉じていない状態で走行している。	▶ ただちに安全な場所に停車してください。 ▶ ボンネットを閉じてください。
(バッテリー表示)		以下の原因により、バッテリーが充電されていない。 • オルタネーターの故障 • Vベルトの損傷 • 電気システムの故障	▶ ただちに安全な場所に停車して、Vベルトを点検してください。 **Vベルトが切れているとき** ▶ 走行しないでください。 ▶ 最寄りの指定サービス工場に連絡してください。 **Vベルトが切れていないとき** ▶ すみやかに最寄りの指定サービス工場で点検を受けてください。
	デ゛ンアツ テイカ バ゛ッテリ ジ゛ュウデ゛ン	バッテリーの電圧が低下している。	▶ エンジンを始動してください。 ▶ 必要のない電気装備を停止してください。
	デ゛ンアツ テイカ デ゛ンソウヒン スイッチ オフ	バッテリーの電圧が低下している。	▶ 必要のない電気装備を停止してください。

故障 / 警告メッセージ

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状	対応
	ﾌﾞﾚｰｷ ﾊﾟｯﾄﾞ ﾏﾓｳ	ブレーキパッドの摩耗が限界に達している。	▶ すみやかに指定サービス工場でブレーキパッドを交換してください。
	ﾌﾞﾚｰｷ ｵｲﾙﾚﾍﾞﾙ ﾃﾝｹﾝ	リザーブタンクのブレーキ液量が不足している。	▶ すみやかに安全な場所に停車してください。 ▶ 走行しないでください。 ▶ 最寄りの指定サービス工場に連絡してください。 ▶ ブレーキ液を補給しないでください。ブレーキ液を補給しても問題は解消しません。
	ﾊﾟｰｷﾝｸﾞ ﾌﾞﾚｰｷ ｶｲｼﾞｮ	パーキングブレーキを解除せずに走行している。	▶ パーキングブレーキを解除してください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状	対応
	ﾚｲｷｬｸｽｲ ﾃｲｼｬ ｼﾃ ｴﾝｼﾞﾝ ﾃｲｼ!	冷却水の温度が高すぎる。	▶ すみやかに安全な場所に停車してください。 ▶ エンジンを停止してください。 ▶ メッセージが消えてからエンジンを始動してください。メッセージが消えるまで待たないと、エンジンを損傷するおそれがあります。 ▶ 冷却水水温計（**3-58**）で冷却水温度を点検してください。 ▶ 冷却水温度が再び上昇する場合は、ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
		Vベルトが切れている可能性がある。	▶ すみやかに安全な場所に停車してください。 ▶ エンジンを停止してください。 ▶ Vベルトを点検してください。 **Vベルトが切れていないとき** ▶ メッセージが消えない場合はエンジンを始動しないでください。メッセージが消えるまで待たないと、エンジンを損傷するおそれがあります。 **Vベルトが切れているとき** ▶ 走行しないでください。 ▶ 最寄りの指定サービス工場に連絡してください。
		ラジエターの冷却ファンが故障している。	▶ 最寄りの指定サービス工場に連絡してください。

故障 / 警告メッセージ

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状	対応
ﾚｲｷｬｸｽｲ ﾎｼﾞｭｳ ﾏﾆｭｱﾙ ｻﾝｼｮｳ	冷却水量が不足している。	▶ 冷却水を補給してください（**8-6**）。 ▶ 通常よりも頻繁に冷却水を補給している場合は、指定サービス工場で点検を受けてください。
ﾋﾀﾞﾘ ﾛｰﾋﾞｰﾑﾗﾝﾌﾟ[1]	左ヘッドランプ(ロービーム)が切れている。	▶ すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。
ｵｰﾄﾗｲﾄ ｺｼｮｳ	ランプセンサーが故障している。自動的にランプが点灯する。	▶ マルチファンクションディスプレイの各種設定で、ランプを手動点灯に切り替えてください（**4-24**）。 ▶ ランプスイッチでランプを点灯 / 消灯してください。
ｷｭｳﾕﾉ ｻｲ ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙﾚﾍﾞﾙ ﾃﾝｹﾝ	エンジンオイル量が限界まで下がっている。	▶ エンジンオイル量を点検し、必要であれば補給してください（**8-7、8**）。 ▶ 通常より頻繁にエンジンオイルを補給している場合は、指定サービス工場で、エンジンからオイルが漏れていないか点検を受けてください。
ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙ ﾚﾍﾞﾙ ﾃｲｼｬ ｼﾃ ｴﾝｼﾞﾝ ﾃｲｼ!	エンジンオイル量が不足している。エンジンを損傷するおそれがある。	▶ すみやかに安全な場所に停車してください。 ▶ エンジンを停止してください。 ▶ エンジンオイル量を補給し、エンジンオイル量を点検してください（**8-7、8**）。

1）他のランプが切れたときは、この例以外のメッセージが表示されます。
車外ランプいずれかに異常が発生すると、その箇所と対応が表示されます。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状	対応
		1つ以上のエレクトロニックシステムが情報を伝達できない状態になっている。以下のシステムが故障している可能性がある。 • 冷却水水温計 • タコメーター • クルーズコントロールまたは可変スピードリミッターの設定速度表示	▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。
	ｷｰ ｦ ｺｳｶﾝ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ!	キーが機能しなくなっている。	▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。
	ｸﾙｰｽﾞ ｺﾝﾄﾛｰﾙ ﾄ ﾘﾐｯﾀ ｺｳｼﾞｮｳﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ	クルーズコントロールまたは可変スピードリミッターが故障している。	▶ 指定サービス工場でクルーズコントロールまたは可変スピードリミッターの点検を受けてください。
	ｳｫｯｼｬｴｷ ﾎｷｭｳ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ!	リザーブタンクのウォッシャー液量が最低レベルまで減っている。	▶ ウォッシャー液を補給してください（8-13）。

トラブルの原因と対応

スイッチやボタンの表示灯 / 警告灯

トラブル	考えられる原因および症状	対応
シートヒータースイッチの表示灯が点滅している。	多くの電気装備が使用されているために電圧が低下し、シートヒーターが自動的に停止している。	▶ 必要のない電気装備を停止してください。 電圧が回復すると、シートヒーターは自動的に作動を開始します。
エアコンディショナーのACスイッチを押しても、スイッチの表示灯が点灯しなかったり、点滅する。 除湿 / 冷房された空気が送風されない。	エアコンディショナーの冷媒が不足している。	▶ 指定サービス工場でエアコンディショナーの点検を受けてください。
リアデフォッガースイッチの表示灯が点滅している。リアデフォッガーが短時間で停止し、スイッチを押しても作動しない。	多くの電気装備が使用されているために電圧が低下し、リアデフォッガーが自動的に停止している。	▶ 必要のない電気装備を停止してください。 電圧が回復すると、リアデフォッガーは自動的に作動を開始します。
センターコンソールの助手席エアバッグオフ表示灯が一時的に点灯する。	チャイルドセーフティシート検知システムを装備していないため、センサー付き純正チャイルドシートを装着しても、助手席エアバッグが作動する状態になっている。	▶ チャイルドセーフティシートを後席に装着してください。 やむを得ず助手席に装着するときは、前向きで使用し、助手席シートの位置をもっとも後ろの位置にしてください。

表示灯 / 警告灯

トラブル	考えられる原因および症状	対応
(ABS) エンジンがかかっているときに黄色のABS警告灯が点灯する。	故障のためABSの機能が解除されている。同時にESPとBASの機能も解除されている。 ABSとESP、BASは作動しないが、通常のブレーキ時の制動力は確保されている。ただし、急ブレーキ時などにはタイヤがロックする可能性がある。 ABSコントロールユニットが故障している場合は、パークトロニック、マルチファンクションコントローラー、オートマチックトランスミッションなどが機能しない可能性がある。	▶ 十分注意して走行してください。 ▶ マルチファンクションディスプレイの故障 / 警告メッセージに従ってください。 ▶ すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。
	電圧低下のためABSの機能が解除されている。バッテリーが充電されていない可能性がある。 ABSとESP、BASは作動しないが、通常のブレーキ時の制動力は確保されている。ただし、急ブレーキ時などにはタイヤがロックする可能性がある。	▶ 必要のない電気装備を停止してください。 ▶ 電圧が回復すると、ABSは作動できる状態になります。
⚠ 走行中に黄色のESP表示灯が点滅する。	タイヤがグリップを失いかけているか、車が横滑りをしているため、ESPやABSなどが作動している。	▶ 発進するときにアクセルペダルを必要以上に踏み込まないでください。 ▶ 走行中はアクセルペダルをゆるめてください。 ▶ 路面と天候の状態に合わせて運転してください。 ▶ ESPの機能を解除しないでください（雪道などでの走行を除く）。

トラブルの原因と対応

トラブル	考えられる原因および症状	対応
エンジンがかかっているときに黄色のESP表示灯が点灯する。	ESPの機能が解除されている。	▶ ESPを待機状態にしてください（雪道などでの走行を除く）。 ▶ 待機状態にならないときは路面と天候の状態に合わせて運転してください。
SRS エンジンがかかっているときに赤色のエアバッグシステム警告灯が点灯する。	乗員保護補助装置に異常がある。エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しない可能性がある。	▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
走行中に赤色のブレーキ警告灯が点灯する。警告音も聞こえる。	パーキングブレーキを解除しないで走行している。	▶ パーキングブレーキを解除してください。
エンジンがかかっているときに赤色のブレーキ警告灯が点灯する。	リザーブタンクのブレーキ液量が不足している。	▶ 走行しないでください ▶ ただちに指定サービス工場に連絡してください。 ▶ マルチファンクションディスプレイの故障 / 警告メッセージ（10-6）に従ってください。 ▶ ブレーキ液を補給しないでください。ブレーキ液を補給しても問題は解消しません。
	パーキングブレーキを効かせている。	▶ パーキングブレーキを解除すると、警告灯が消灯します。

トラブル	考えられる原因および症状	対応
エンジンがかかっているときに黄色のエンジン警告灯が点灯する。	以下に異常がある。 • 燃料噴射システム • 排気システム • イグニッションシステム 排出ガスの成分が基準値を超えたために、エンジンンがエマージェンシーモードになっている可能性がある。	▶ すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。
ドアを閉じてエンジンを始動すると、赤色のシートベルト警告灯が点灯する。 また、約25km/hを超えると点滅し、警告音が鳴る。	運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していない。	▶ シートベルトを着用してください。
	助手席シートの上に荷物を置いている。	▶ 荷物を助手席シートから降ろし、確実に固定してください。
エンジンがかかっているときに黄色の燃料残量警告灯が点灯する。	燃料の残量が少なくなっている。	▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。

トラブルの原因と対応

警告音

トラブル	考えられる原因および症状	対応
盗難防止警報が突然作動した。	盗難防止警報システム＊が待機状態のときに、運転席ドアをエマージェンシーキーで解錠して開いた。 盗難防止警報システム＊が待機状態のときに、車内からドアやテールゲートを解錠して開くか、ボンネットのロックを解除した。	▶ キーのまたはを押してください。またはエンジンスイッチにキーを差し込んでください。
警告音が鳴った。	マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示されている。	▶ 故障 / 警告メッセージをご覧ください（10-3〜）。
	パーキングブレーキを解除しないで走行している。	▶ パーキングブレーキを解除してください。
	ランプを消灯しないでエンジンスイッチからキーを抜き、運転席ドアを開いた。	▶ ランプスイッチを0にしてください。
	運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していない。	▶ シートベルトを着用してください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

事故のとき

トラブル	考えられる原因および症状	対応
ガソリンが漏れている。	燃料供給システム、または燃料タンクに問題がある。	▶ ただちにエンジンを停止し、エンジンスイッチからキーを抜いてください。 ▶ 状況を問わず、エンジンを始動しないでください。 漏れた燃料に引火したり、爆発するおそれがあります。 ▶ 指定サービス工場に連絡してください。
事故を起こし、損傷の程度がわからない。		▶ 指定サービス工場に連絡してください。

燃料と燃料タンク

トラブル	考えられる原因および症状	対応
ガソリンが漏れている。	燃料供給システム、または燃料タンクに問題がある。	▶ ただちにエンジンを停止し、エンジンスイッチからキーを抜いてください。 ▶ 状況を問わず、エンジンを始動しないでください。 漏れた燃料に引火したり、爆発するおそれがあります。 ▶ 指定サービス工場に連絡してください。
燃料給油フラップが開かない。	燃料給油フラップが解錠されていない。	▶ リモコン操作で解錠してください。
	開閉機構に異常がある。	▶ 指定サービス工場に連絡してください。

トラブルの原因と対応

エンジン

トラブル	考えられる原因および症状	対応
エンジンが始動しない。 エンジンスイッチを**3**の位置にするとスターターモーターの音がする。	エンジンの電気システム、または燃料供給に異常がある可能性がある。	▶ エンジンを再始動する前に、エンジンスイッチを**0**の位置に戻してください。 ▶ 始動操作を繰り返してください。 ただしエンジン始動操作を何回も長時間続けると、バッテリーがあがるおそれがあります。 ▶ 何度始動を試みてもエンジンが始動しない場合は、指定サービス工場に連絡してください。
エンジンが始動しない。 エンジンスイッチを**3**の位置にしてもスターターモーターの音がしない。	バッテリーがあがっている可能性がある。	▶ 他車のバッテリーを電源として始動してください（**7-22**）。 ▶ 何度始動を試みてもエンジンが始動しない場合は、指定サービス工場に連絡してください。
エンジンの回転が滑らかでなく、ミスファイアも起きている。	エンジンの電気システム、またはエンジン制御システムに異常がある。	▶ アクセルペダルを踏みすぎないでください。 三元触媒コンバーターを損傷するおそれがあります。 ▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
冷却水温度が約120℃を超えている。 警告音も鳴っている。	リザーブタンクの冷却水量が不足している。 冷却水の温度が高すぎて、エンジンが冷却されていない。	▶ すみやかに停車し、エンジンと冷却水を冷やしてください。 ▶ エンジンと冷却水が冷えてから冷却水量を点検し、必要であれば冷却水を補給してください（**8-5、6**）。
	冷却水量が正常なときは、冷却ファンが故障している。 冷却水の温度が高すぎて、エンジンが冷却されていない。	▶ 最寄りの指定サービス工場に連絡してください。

オートマチックトランスミッション

トラブル	考えられる原因および症状	対応
トランスミッションが正しく変速しない。	トランスミッションオイルが減っている。	▶ ただちに指定サービス工場でトランスミッションの点検を受けてください。
加速性能が悪化している。 トランスミッションが変速しない。	トランスミッションに異常がある。	エマージェンシーモードにして、2速ギアかリバースギアで走行できる場合があります。 ▶ 停車してセレクターレバーを P に入れ、エンジンを停止します。 ▶ 10秒以上待ってから、エンジンを再始動します。 ▶ 前進する場合はセレクターレバーを D に入れます。 後退する場合はセレクターレバーを R に入れます。 ▶ ただちに指定サービス工場でトランスミッションの点検を受けてください。

トラブルの原因と対応

パークトロニック

トラブル	考えられる原因および症状	対応
パークトロニックインジケーターの赤色インジケーターだけが点灯して警告音が鳴り、約30秒後にパークトロニックが解除され、パークトロニックオフスイッチの表示灯が点灯した。	パークトロニックに異常があり、機能が停止している。	▶ ただちに指定サービス工場でパークトロニックの点検を受けてください。
パークトロニックインジケーターの赤色インジケーターだけが点灯し、約20秒後にパークトロニックが解除された。	パークトロニックセンサーが汚れているか、付着物などがある。	▶ パークトロニックセンサーを清掃してください（**8-30**）。 ▶ 再度、エンジンスイッチを**2**の位置にしてください。
	外部の電波や超音波の干渉などにより、機能が停止している。	▶ 場所を変えて、パークトロニックの作動を確認してください（**5-54**）。

ヘッドランプ / 方向指示灯

トラブル	考えられる原因および症状	対応
ヘッドランプまたはドアミラー方向指示灯の内側が曇っている。	外気の湿度が高くなっている。	▶ ヘッドランプを点灯して走行してください。
	ヘッドランプユニットが密閉されていないため、水分が侵入している。	▶ 指定サービス工場でヘッドランプの点検を受けてください。

ワイパー

トラブル	考えられる原因および症状	対応
ワイパーの動きが妨害されている。	ウインドウに障害になる物が付着している。 ワイパーが自動的に停止している。	▶ 安全のため、エンジンスイッチからキーを抜いてください。 ▶ 障害物を取り除いてください。 ▶ 再度ワイパーを作動させてください。
ワイパーが作動しない。	ワイパーが故障している。	▶ コンビネーションスイッチをまわして、別のモードを選択してください（**5-29**）。 ▶ 指定サービス工場でワイパーの点検を受けてください。
自動洗車機などで洗車をした後などに、フロントウインドウにワイパーの拭き残りによる汚れが付着している。	フロントウインドウにワックスや他の汚れが付着している。	▶ 洗車後にウォッシャーを噴射して、フロントウインドウのワックスや汚れを取り除いてください。

トラブルの原因と対応

ウインドウ

トラブル	考えられる原因および症状	対応
ドアウインドウが自動で全閉しない。	ドアウインドウとドアフレームの間やドア内部のガイドレールなどに障害になる物が挟まったり、詰まっている。	▶ ドアウインドウを開いてください。 ▶ 障害物を取り除いてください。 ▶ スイッチをいっぱいに引きます。 ドアウインドウに挟まれないように注意してください。
運転席ドアのドアウインドウが自動で全閉しない。	運転席ドアのドアウインドウを自動で全閉しているときに、ドアウインドウが自動で停止して少し開くことがある。	▶ ドアウインドウが閉じるまでスイッチを軽く引きます。 ドアウインドウが少し開くときは、 ▶ 約5秒以内に、スイッチをいっぱいに引きます。 挟み込み防止機能が働かない状態でウインドウが閉じます。 ウインドウに挟まれないように注意してください。 約5秒後に、挟み込み防止機能が働く状態になります。

ミラー

トラブル	考えられる原因および症状	対応
ドアミラーが無理に前方 / 後方に曲げられた。		▶ ドアミラー格納 / 展開スイッチ(3-54)を、ギアが噛み合う音が聞こえるまで押します。

キー

トラブル	考えられる原因および症状	対応
リモコン操作で解錠 / 施錠できない。	キーの電池が消耗している。	▶ キーの先端を運転席ドアハンドルに向け、至近距離から再度リモコン操作をしてください。 ▶ リモコン操作ができないときは、エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠 / 施錠してください **(3-27)**。 ▶ キーの電池を点検し、必要であれば交換してください **(3-13)**。
	キーが故障している。	▶ エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠 / 施錠してください **(3-27)**。 ▶ 指定サービス工場でキーの点検を受けてください。
キーのスイッチを押しても表示灯が点灯しない。	キーの電池が消耗している。	▶ キーの電池を交換してください **(3-13)**。 電池は指定サービス工場で入手できます。
キーを紛失した。		▶ ただちに指定サービス工場に連絡してください。 ▶ ただちに自動車保険会社へキー紛失の事実を報告してください。 ▶ 新しいキーの入手については、指定サービス工場におたずねください。 ▶ 必要であればキーシリンダーも交換してください。

トラブルの原因と対応

トラブル	考えられる原因および症状	対応
エマージェンシーキーを紛失した。		▶ ただちに指定サービス工場に連絡してください。 ▶ ただちに自動車保険会社へキー紛失の事実を報告してください。 ▶ 新しいキーの入手については、指定サービス工場におたずねください。 ▶ 必要であればキーシリンダーも交換してください。
エンジンスイッチがまわらない。	エンジンスイッチからキーを抜かずに0の位置で長時間放置していた。	▶ エンジンスイッチからキーを抜き、再度差し込んでください。 ▶ バッテリーを点検し、必要であれば充電してください。 ▶ エンジンを始動してください。
	バッテリーの電圧が低下している。	▶ 必要のない電気装備を停止してから、再度エンジンスイッチをまわしてください。 ▶ エンジンスイッチがまわらないときは、バッテリーを点検し、必要であれば充電するか、他車のバッテリーを電源として始動してください（7-22）。 ▶ 指定サービス工場に連絡してください。

ア

カ

サ

タ

ナ

ハ

マ

ラ

ワ

英字

“ESP® ” はダイムラー・クライスラー社の登録商標です。

※この取扱説明書の内容は、2006年7月現在のものです。

対象モデル

C 180 KOMPRESSOR SPORTS COUPE
C 200 KOMPRESSOR SPORTS COUPE EVOLUTION